片雲の風に誘われて

YWV 創部 60 周年記念及び OB 山行 50 回記念　OB 山行集 2017

横浜国立大学ワンダーフォーゲル部 OB 会

2014 年 10 月 18 日　第 41 回宝剣岳・木曽駒ヶ岳

目次

目次	1
ＯＢ山行委員長のご挨拶	3
ＯＢ山行のあれこれ	4
ＯＢ山行 50 座の足跡	5
データで見るＯＢ山行（第 1 回～第 50 回）	7

ＯＢ山行報告

第 1 回	2000/10/29	北横岳	9
第 2 回	2001/03/24	茅ヶ岳（シニア月例山行合同）	10
第 3 回	2001/08/04	水ノ塔山・篭ノ登山	11
第 4 回	2001/12/08	鍋割山・塔ノ岳	12
第 5 回	2002/08/24	那須茶臼岳（シニア月例山行合同）	15
第 6 回	2002/12/07	明神ヶ岳	16
第 7 回	2003/05/24	榛名山（シニア月例山行合同）	17
第 8 回	2003/09/06	乾徳山	18
第 9 回	2004/04/03	三ツ峠山	20
第 10 回	2004/05/15	御正体山	21
第 11 回	2004/08/28	磐梯山（シニア月例山行合同）	23
第 12 回	2004/12/04	越前岳	25
第 13 回	2005/05/21	鷹ノ巣山	27
第 14 回	2005/10/01	湯ノ丸山	29
第 15 回	2005/12/10	大菩薩嶺	31
第 16 回	2006/05/13	檜洞丸	33
第 17 回	2006/09/09	瑞牆山	34
第 18 回	2006/12/02	矢倉岳	35
記念	2007/04/29-05/03	台湾 玉山（50 周年記念山行）	36
第 19 回	2007/05/12-13	畦ヶ丸（50 周年記念山行）	37
第 20 回	2007/10/13	妙高山（50 周年記念山行）	38
第 21 回	2008/02/16	蕨山	40
第 22 回	2008/05/17	笠取山	41
第 23 回	2008/10/12	火打山（苗名小屋 40 周年記念）	42
第 24 回	2009/01/17	九鬼山	44
第 25 回	2009/05/16	皇海山	45
第 26 回	2009/10/17	荒船山	46
第 27 回	2010/01/16	伊豆ヶ岳	48
第 28 回	2010/05/15	川苔山	49
第 29 回	2010/10/16	赤城山	50
第 30 回	2011/01/22	箱根 駒ヶ岳（30 回記念山行）	51
第 31 回	2011/05/14	毛無山	53
第 32 回	2011/10/22	西沢渓谷	55
第 33 回	2012/01/14	三頭山	56
第 34 回	2012/05/12	両神山	57
第 35 回	2012/10/13	滝子山	58
第 36 回	2013/01/19	筑波山	59

第 37 回	2013/05/18	丹沢山	60
第 38 回	2013/10/19	日光白根山	61
第 39 回	2014/01/18	竜ヶ岳	63
第 40 回	2014/05/17-18	蓼科山・車山（40 回記念山行）	64
第 41 回	2014/10/18	宝剣岳・木曽駒ヶ岳	66
第 42 回	2015/01/31	北高尾山稜・景信山	67
第 43 回	2015/05/23	小野子山	69
第 44 回	2015/10/17	鼻曲山	70
第 45 回	2016/01/23	奥武蔵　日和田山・物見山	71
第 46 回	2016/05/21	万二郎岳・万三郎岳	72
第 47 回	2016/10/22	大峰山・吾妻耶山	73
第 48 回	2017/02/04	仏果山・経ヶ岳	74
第 49 回	2017/05/27	入笠山	75
第 50 回	2017/09/23	幕山	76

ＯＢ山行委員の横顔　77
お世話になった方々の横顔　79
ＯＢ山行カメラマンの思い出　80
編集後記　82

レスト①　ＯＢ山行の楽しみ方　あれこれ　14
レスト②　シニア月例山行との合同　32
レスト③　小旗物語　46

小レスト 1 の①　第 5 回　那須茶臼岳　16
小レスト 1 の②　第 12 回　越前岳、第 15 回　大菩薩嶺　30
小レスト 1 の③　第 34 回　両神山　54
小レスト 1 の④　第 47 回　大峰山、吾妻耶山・第 50 回　幕山　65

小レスト 2 の①　第 2 回　水ノ塔山　24
小レスト 2 の②　第 16 回　檜洞丸　32
小レスト 2 の③　第 20 回　妙高山　62

小レスト１

ＯＢ山行報告では参加者全員が写っている集合写真がどうしても多くなるのはいたし方ありません。でも、生の姿であるスナップ写真も見たいですよネ。そこで、小レスト 1 では皆さんの笑顔を集めてみました。どうぞ、笑顔を楽しんでください。

小レスト２

ＯＢ会報は 2013 年 4 月 7 日発行の第 53 号まで印刷版は白黒でしたので、掲載されたＯＢ山行報告の写真（2013 年 1 月 19 日に実施された第 36 回筑波山まで）も勿論白黒でした。そこで、小レスト 2 では懐かしさを感じてもらうため、あえて白黒写真にしてみました。カラーとは違った味わいをご堪能ください。

■　ＯＢ山行委員長のご挨拶

ＯＢ山行委員長　山口貢三（18 期）

2000 年から始まったＯＢ山行は 2017 年に第 50 回を数え、これまでの参加者は延べ 1,000 人を超えるまでになりました。1 回の山行では平均 20 名となりますが、直近では連続して 40 名を超す盛況ぶりです。その様子は会報によって毎回報告しています。この度ＯＢ山行 50 回目を記念してその足跡を一冊にまとめていただきました。

YWVＯＢ会には活発な動きがたくさんありますが、その一つにＯＢ山行という「部活」があります。年 3 回の公式山行に加え、10 回ごとの記念山行、懇親会を開催し多くの方の参加を得ています。こうした活況は、会員同士が持つ共感のようなもので支えられていると思います。

2007 年頃でしょうか、私はＯＢ山行の存在は知りながらも、面識のない先輩諸氏の中に入っていけるのか心配で参加には躊躇していました。背中を押したのは会報でした（年 3 回も発行されています）。そこでＯＢ山行報告に顔見知りの名前があり、懐かしい気持ちが参加する勇気を与えてくれました。それでも不安な気持ちでいましたが、ＯＢ山行に加わるや全員がすぐに打ち解けられる雰囲気があって、人見知りする余地はありませんでした。

その後も初参加した方に感想を聞くと、やはり同じような言葉が返ってきます。何がそうさせるのかなんて理屈はともかく、「つどいにし 3 年の夢」[1]（現役ワンゲル時代）を強く心に刻んだワンゲルの仲間は、学年、年齢さえ飛び越えて繋がっていると強く思うようになりました。

第 50 回まで来たＯＢ山行の舞台裏も紹介しておきます。初回は総務委員会が開催し「ＯＢ山行」の礎を築きました。第 6 回からはＯＢ山行委員会が立ち上り今日までに至っています。しかし当初は小野さん一人で細腕繁盛記のように頑張った時期が長くありました。大変なことのひとつは偵察山行です。吉野さんの手厚いサポートもありましたが、やはり一人の重圧はあったと思います。ここまで実行して来た方々の勇気に心から敬意を表したいと思います。ちなみに山行委員が増強されたのは第 24 回からです。

そんな背景も頭の片隅におきながら読んでいただき、第 1 回から 50 回までのＯＢ山行を通した私たちの「夢の続き」を少しでもお伝えできれば幸いです。

末筆ながら今後もＯＢ山行が会員同士を結び、いつでも仲間に入れる「部活」として続きますよう皆さんのご参加をお願いします。

注(1)：旧制七高寮歌巻頭言より

■　ＯＢ山行のあれこれ

ＯＢ山行委員長　山口貢三（18 期）

【山行計画】　年３回のＯＢ山行は前年の７月頃、ＯＢ山行委員会でいくつか候補を出し合います。選定条件としては日帰り圏内の山で、展望の良い山、できれば百名山を加える、中級までの無理のない山となります。節目となる記念山行は１泊し、温泉宿での懇親会も加えるようにしています。選ぶ山域は会員の７割以上が住む神奈川、東京が出発起点となり遠方の方には届かない山もありますが、できるだけ東京近郊に偏らないように選定しています。ＯＢ山行委員の一次案は役員会で提案し、役員からのコメントや日取りの確認を行い、山と実施日を確定させます。そしてＯＢ総会で発表。これで本決まりとなった山行予定をメルマガや会報で皆さんにお伝えしています。

偵察：コースタイムの確認中

【山行参加者募集】　会報、メルマガにて参加者を募集しています。主にメールで参加を受け付けます。電車で行く場合は、直前まで参加キャンセルを受けることができますが、マイカー同乗や貸切バスを使う時は、早めに人数を確定させています。

【偵察山行】　ＯＢ山行委員は本番１ヶ月前に偵察山行を行い計画に無理がないかを現地で確認します。集合場所、バス停の位置、登山口の場所、休憩ポイント、昼食を取る広場等を見ながら本番を想定したペースで計画したコースを歩きます。その結果次第では、計画の一部修正もありますので、ＯＢ山行のある月頭のメルマガは必ずご確認ください。また会員の参加も可能です。メルマガで偵察日をお知らせしますのでご希望の方は山行委員までご連絡ください。

偵察：山行委員３名＋一般参加

【本番】　参加者が 20～30 名となると朝の路線バスは他のお客さん含め満員となります。事情を話し増車してもらったこともありました。

登山に入る前は、恒例となった自己紹介を全員で行います。歩く順番はリーダーを先頭にサブリーダーが後ろにつきます。その間の順番は自由です。登山中は先輩後輩の垣根のない楽しい時間となっています。お楽しみの昼めしはコンビニのおにぎり、弁当が多いようですが、ご自宅で作った弁当、その場で作るラーメンと人それぞれです。冬であっても陽だまりにありつけ、展望の良い頂上ではのんびりと食事をして憩いたいですよね。

本番：自己紹介中@三頭山

昼食タイムが終わり出発前になると深紅のＹＷＶＯＢ会旗のもとに全員で記念撮影をします。その後下山となりますが、転んで怪我をされるのは下山中が多いようです。ここは今後も注意の呼びかけを行っていきたいところです。

本番：昼食タイム@両神山

【山行委員の装備】　怪我の手当に必要な応急セットを持っています。

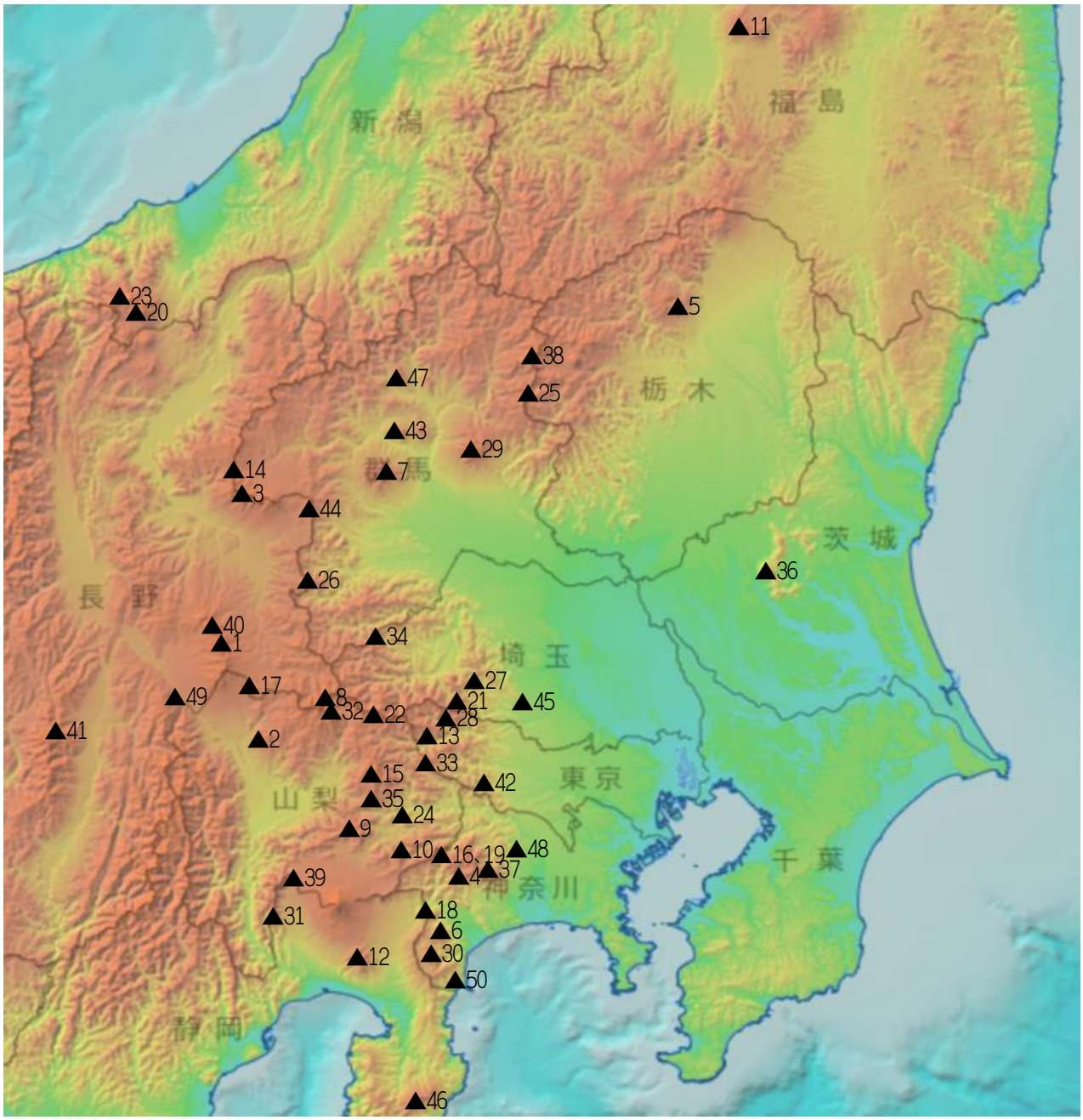
【下山後】　ＯＢ山行 10 回毎に懇親会を合わせて行っています。宴会では近況など交わしながら山の歌が出るころ最高に盛り上がります。山行報告はメルマガ、会報で行います。執筆は山行委員が交代で行います。

第 40 回ＯＢ山行後の懇親会

本番：下山後の解散式@滝子

■　ＯＢ山行　50 座の足跡

ＯＢ山行は 2000 年から始まり 2017 年までに 50 回目を迎えることができました。
その足跡を地図上に表わしてみました。日帰りを基本とした山行ですが、電車、バス、マイカーを駆使し関東はもちろん、甲信越まで足を延ばすことができました。



（出展　地理院地図　電子国土ＷＥＢ）

▲は、山頂の凡その位置を示します。
▲の後ろの数字は次頁別表のＯＢ山行の時系列回数を示します。

50 回の公式山行の他にも節目となる年には特別山行や１泊２日で懇親会、記念ＰＷを実施しました。天気については、45 勝 5 敗と好天に恵まれた山行が多かった中で、順調な山行ばかりではありませんでした。第 32 回の山行は金峰山の予定でしたが、林道が通行止めとなっていたことが直前になって判明し、急遽西沢渓谷の散策に予定を変更したこともありました。

回	年月日	コース	L	天気	人数	回	年月日	コース	L	天気	人数
1	00.10.28	北横岳	田村	●	19	24	09.01.17	九鬼山	小野	○	15
2	01.03.24	茅ヶ岳	田村	◐	35	25	09.05.16	皇海山	小野	◎	21
3	01.08.05	水ノ塔山・籠ノ登山	小野	●	16	26	09.10.17	荒船山	小野	◎	15
4	01.12.08	鍋割山・塔ノ岳	小野	◎	18	27	10.01.16	伊豆ヶ岳	小野	○	20
5	02.08.24	那須茶臼岳	小野	◎	37	28	10.05.15	川苔山	小野	◐	16
6	02.12.07	明神ヶ岳	小野	●	14	29	10.10.16	赤城山	小野	◐	16
7	03.05.24	榛名山	安藤	◎	40	30	11.01.22	箱根駒ヶ岳	小野	◐	19
8	03.09.06	乾徳山	小浜	◐	20	31	11.05.14	毛無山	小野	◐	19
9	04.04.03	三ツ峠山	狩野	◐	14	32	11.10.22	西沢渓谷	小野	●	15
10	04.05.15	御正体山	小野	◐	13	33	12.01.14	三頭山	山口	○	18
11	04.08.28	磐梯山	小野	◎	45	34	12.05.12	両神山	山口	◐	25
12	04.12.04	越前岳	小野	◎	11	35	12.10.13	滝子山	山口	◐	18
13	05.05.21	鷹ノ巣山	小野	◐	12	36	13.01.19	筑波山	山口	○	23
14	05.10.01	湯ノ丸山	小野	◎	16	37	13.05.18	丹沢山	山口	◐	18
15	05.12.10	大菩薩嶺	小野	○	13	38	13.10.19	日光白根山	山口	◎	26
16	06.05.13	檜洞丸	小野	●	5	39	14.01.18	竜ヶ岳	山口	◐	19
17	06.09.09	瑞牆山	小野	◎	9	40Ａ	14.05.17	蓼科山	山口	◐	17
18	06.12.02	矢倉岳	小野	○	11	40Ｂ	14.05.18	霧ヶ峰	山口	○	15
特	07.4.29～5.1	台湾・玉山	安藤	◎	8	41	14.10.18	宝剣岳・木曽駒ヶ岳	山口	○	21
19	07.05.12	畦ヶ丸	小野	◐	32	42	15.01.31	北高尾山稜・景信山	山口	○	24
20A	07.10.13	妙高山	安藤	◐	22	43	15.05.23	小野子山	山口	◐	25
20B	07.10.14	仙人池	安藤	◐	14	44	15.10.17	鼻曲山	山口	◎	21
21	08.02.16	蕨山	小野	○	11	45	16.01.23	奥武蔵 日和田山・物見山	山口	◎	20
22	08.05.17	笠取山	小野	◎	18	46	16.5.21	万二郎岳・万三郎岳	山口	○	30
23Ａ	08.10.12	火打山	小野	○	32	47	16.10.22	大峯山・吾妻耶山	山口	◎	23
23Ｂ	08.10.13	ヒコサの滝	小野	○	16	48	17.2.4	仏果山・経ヶ岳	山口	○	29
23Ｃ	08.10.13	夢見平	親跡	○	12	49	17.5.27	入笠山	山口	○	40
						50	17.9.23	幕山	山口	◎	44

回　　：公式ＯＢ山行の順番を示します。1 泊 2 日で複数登った山も同じ番号とし末尾の A,B,C で区分します。累計回数にはこれらも１回としてカウントします。

コース；代表する山名あるいは山域

Ｌ　　：リーダー名、１～5 回は総務委員会が担当し、6 回目以降はＯＢ山行委員会が担当しています。

天　気：○ 快晴、◐ 晴れ、◎ 曇り、● 雨　その時の主観ですので、気象庁発表とは異なることもあります。

人　数：参加人数

■　データで見るＯＢ山行（第１回～第 50 回）

吉野大次郎（2 期）

12～3 年前になりますか、ＯＢ会にホームページ(初代)が開設された時、嘉納会長からＯＢ山行の写真をホームページに載せよと命ぜられました。

ＯＢ山行は 2000 年から始まっていましたので、第 1 回に遡って掲載したわけですが、最初の数回は、銀塩の写真で枚数もわずかしかありませんでした。それをスキャナーで取り込み、ホームページに掲載しました。

また写真だけでは不充分だと思い、記録も併せて掲載しました。そしてタイトルを「ＯＢ山行のページです」と名付けました。現在のホームページの山行記録⇒ＯＢ山行 2 を開くと「ＯＢ山行のページです」という従来のタイトルが現れます。

2010 年にＯＢ山行 30 回を記念して「ＯＢ山行 10 年の歩み」というパワーポイントによるスライドショーを作成しました。写真とデータです。2011 年 1 月ＯＢ山行第 30 回記念箱根強羅宿泊で上映する予定でしたが、運悪くパソコンが宿に届かず、上映できませんでした。3 年後の 2014 年 5 月第 40 回記念蓼科山白樺湖宿泊で、初めて「ＯＢ山行 14 年の歩み」を上映することができました。

そして 2017 年 9 月、ＯＢ山行第 50 回記念幕山を終えたところで「ＯＢ山行 17 年の歩み」を作成しました。その中の記録からまとめた統計的データをこの度ＯＢ山行集に掲載していただいた次第です。

通算実績状況

実施回数	55 回
実参加者	195 人
延参加者	1,125 人
平均参加者	20.5 人
同（除く合同）	18.1 人

実参加者の内訳

ＯＢ・家族

シニア	65 人
若手	114 人
部外者	16 人

参加者数ベストテン（除く合同）

1	幕山	2017. 09. 23	44 人
2	入笠山	2017. 05. 27	40 人
3	畦ヶ丸	2007. 05. 12	32 人
3	火打山	2008. 10. 12	32 人
5	天城山	2016. 05. 21	30 人
6	仏果山・経ヶ岳	2017. 02. 04	29 人
7	日光白根山	2013. 10. 19	25 人
7	両神山	2012. 05. 12	25 人
7	小野子山	2015. 05. 23	25 人
10	北高尾山稜	2015. 01. 31	24 人

注：シニア　　1～8 期のＯＢ会員とその家族
　　若手　　9 期以降のＯＢ会員とその家族

期別延参加者数

1 期	58 人	16 期	3 人	33 期	8 人
2 期	72 人	17 期	93 人	34 期	83 人
3 期	25 人	18 期	91 人	36 期	1 人
4 期	53 人	19 期	17 人	38 期	3 人
5 期	27 人	20 期	20 人	39 期	3 人
6 期	16 人	21 期	18 人	41 期	1 人
7 期	77 人	22 期	1 人	46 期	3 人
8 期	86 人	23 期	1 人	48 期	2 人
9 期	40 人	24 期	2 人	49 期	1 人
10 期	38 人	25 期	1 人	50 期	4 人
11 期	42 人	26 期	0 人	51 期	7 人
12 期	54 人	27 期	2 人	52 期	1 人
13 期	4 人	28 期	2 人	部外者	18 人
14 期	103 人	29 期	1 人		
15 期	36 人	30 期	13 人	計	1,125 人

層別参加者数

期	人数	%
1～8 期	408	36.3
9～19 期	521	46.2
20～29 期	48	4.3
30～39 期	111	9.9
40 期以降	19	1.7
部外者	18	1.6
計	1,125	100.0

期別参加者数ベストテン

順位	期	人数
1	14 期	103
2	17 期	93
3	18 期	91
4	8 期	86
5	34 期	83
6	2 期	72
7	7 期	71
8	1 期	58
9	12 期	54
10	4 期	53

注：層別について

1~8 期はシニアＯＢで、シニアＯＢ月例山行会(現在は月例会)は 1999 年にスタートしました。

シニアＯＢが、ＯＢ山行にどくらい参加しているかを見るために第 1 分類を 1～8 期としました。

個人別参加回数（全 55 回）

順位	期	氏名	回数
1 位	34 期	小野恵美子	54
2 位	2 期	吉野大次郎	52
3 位	14 期	小口　雄平	40
4 位	17 期	小浜　一好	38
5 位	1 期	嘉納　秀明	36
6 位	11 期	安藤　貞利	35
7 位	12 期	榎本　吉夫	33
8 位	18 期	山口　貢三	32
9 位	8 期	佐木　誠夫	29
9 位	14 期	狩野　一子	29

順位	期	氏名	回数
11 位	9 期	鈴木弥栄男	27
12 位	4 期	谷上　俊三	25
12 位	10 期	山本　陽一	25
14 位	15 期	中島　一夫	22
15 位	7 期	松本　弘道	19
15 位	17 期	白須　謙治	19
15 位	34 期	親跡　冬樹	19
18 位	1 期	吉田　輝義	18
19 位	12 期	山川　隆	17
20 位	8 期	松本真理子	16

全ＯＢ山行報告

過去 50 回のＯＢ山行及び 50 周年記念山行（台湾 玉山）の全報告です。過去のＯＢ会報に掲載された報告書をほぼ当時のままにしましたので、記述に現在と状況が異なる場合もありますがご容赦ください。ＯＢ会報が白黒の場合は報告書の中にある写真も当然白黒ですが、今般全てカラー写真にしました。また、各報告者の肩書は報告当時の名称を記載してあります。（編者）

■　第１回　北横岳

総務委員長　田村顕洋（34 期）

日　程：　2000 年 10 月 29 日（日）
行　先：　北横岳（2480m）
行　程：　蓼科親湯 10:10＝ロープウェイ山麓駅 10:25-40+++山頂駅 10:47-53→休憩 11:23-28→
北横岳南峰 11:47-50→北峰 11:54-12:00→ロープウェイ山頂駅 12:53-13:40+++山麓駅 13:47-14:00
参加者：　嘉納(1)、吉野(2)、宮崎(2)、高田(4)、斉藤(貞)(4)（坪庭散策）、安藤(11)、狩野(14)、上野(節)(14)、上野さんご主人、鈴木(14)、小口(14)、中島(15)、笹倉(30)、藤井(33)、Ｌ田村(34)、松下(34)、小野(34)、井口(34)、細谷(38)　　計 19 名

前日午後から崩れ始めた天気はＯＢ山行当日まで続いた。当日は雨＆ガス。沈滞ムードがやや旅館ロビーに漂う中、完全装備の嘉納会長が颯爽と現れると俄かに山行へのムードが高まる。10 時頃に車に分乗して旅館を発ち、ロープウェイ山麓駅に集合。上野ご夫妻は途中で道を間違えてしまい、後に合流することに。11 時、深いガスの中を出発。途中で散策コースに行く斉藤氏と別れる。その後坪庭を抜け、針葉樹林帯の中を高度を稼ぐ。前夜遅くまで語らっていたとは思えないほど軽やかな足取り。樹林帯の中で一度レストをし、12 時前に濃いガスと強風に覆われた北横岳南峰に到着。そのまま北峰まで足を延ばす。誰もいない北峰では「みはるかす」を合唱、鈴木氏がエールをかけた。12 時、早々にピークを後にする。下山途中、遅れて到着した上野ご夫妻とすれ違う。来た道を順調に下山し 1 時前には山頂駅に到着。第 1 回ＯＢ山行は、悪天と前夜の深酒をものともしないＯＢのパワーにより、無事終了した。

ロープウェイ山頂駅の休憩室で記念写真

■　第２回　茅ヶ岳（シニア月例山行合同）

総務委員長　田村顕洋(34 期)

日　程：　2001 年 3 月 24 日（土）
行　先：　茅ヶ岳（1704m）
行　程：　韮崎駅 9:50＝林道駐車場 10:15-37→女岩 11:18-30→稜線手前 12:05-10→茅ヶ岳 12:38-13:35→南稜線 14:06-11→饅頭峠手前→駐車場 14:40
参加者：　嘉納(1)、吉田(1)、吉野(2)、塚原(2)、宮崎(2)、腰塚(3)、塩谷(3)、白井(3)、谷上(4)、斉藤(4)、郡司(4)、横山(4)、岡田(6)、永井(6)、松本(6)、松本(7)、服部(7)、林(7)、細田(7)、八島(7)、能地(7)、小林(7)、池原(8)、松本(8)　シニアＯＢ：計 24 名（男 18 名、女 6 名）
日渡(9)、安藤(11)、狩野(14)、中島(15)、笹倉(30)、藤井(33)、Ｌ田村(34)、小野(34)、細谷(38)、神谷(38)、山崎(39)　　シニアＯＢを除くＯＢ：計 11 名（男 8 名 、女 3 名）

第２回ＯＢ山行は、第 25 回シニア月例山行と合同で開催され、 1～39 期まで 35 名もの参加を得て無事成功しました。当日は第１回ＯＢ山行（2000.10 北八ヶ岳)と打って変わり良い天気で、行動中は暑いほどの陽気でした。頂上からの展望は霞がかかり今ひとつでしたが、思いのほか他の登山者も多くなく、登り 2 時間下り 1 時間の快適な山行となりました。下山後は双葉ＳＡ近くの７期小林桂子さん経営の陶器店「器 桂処」に立寄り、おいしい山菜やビールをご馳走になりました(ありがとうございました!)。

■　第３回　水ノ塔山・篭ノ登山

ＯＢ山行担当　小野恵美子（34 期）

日　程：　2001 年 8 月 4 日（土）
行　先：　水ノ塔山（2202m）、篭ノ登山（2227m）
行　程：　佐久平 9:30＝車坂峠 10:10-30→高峰温泉 10:56-11:26→休憩 11:55-12:00→水ノ塔山 12:22-50→休憩 13:18-23→東篭ノ登山 13:37-55→池の平 14:24-15:30＝（シャトルバス）＝車坂峠 15:50-55＝佐久平 16:34-17:26
参加者：　嘉納(1)、吉野(2)、渡辺(2)、江崎(3)、亀井良英(5),亀井昭子(5)、小林(7)、池原(8)、安藤(11)、狩野(14)、中島(15)、小泉(15)、笹倉(30)、藤井(33)、Ｌ小野(34)、原田(36)
計 16 名（男 8 名、女 3 名）

佐久平駅集合（9:30）。今回は 6 名の方が初参加。佐久平駅までは好天で、 日焼けを覚悟する暑さでした。車に分乗して車坂峠に着くなり、一転雲行きが怪しくなりましたが、林道脇に咲く高山植物に立ち止りながら高峰温泉までの林道をのんびり歩きました。 高峰温泉で小泉さんと合流した途端に雷雨となり、軒下でしばし雨宿りした後、気を取り直して出発。約 1 時間の登りで水ノ塔山着（12:20）。風雨が強く、昼食後早々に出発。赤ゾレと呼ばれる古い噴火口の縁の豪快な尾根を歩き、篭ノ登山に着きました（13:35）。 ピークは暴風でしたが麓の市街地は晴れ渡り、浅間山や八ヶ岳も望めました。ここだけ雨か‥とボヤキつつ池ノ平に下山する（14:20）と好天に。しばし池ノ平を散策した後、バスで車坂峠に戻りました。天候には恵まれなかったもの、高山植物が咲き乱れる静かな良いコースでした。花の名前に詳しい方が多く、ヤナギラン、ツリガネニンジン、ホタルブクロなどたくさん学びました。予想外の寒さに見舞われましたが、雨慣れした（?）メンバーが多く、和気藹々と楽しい山行となりました。

後列　池原、嘉納、原田、小林、江崎、藤井、亀井、渡辺、小泉、安藤
前列　笹倉　　吉野(旗)　　亀井、狩野、小野、中島

■　第４回　鍋割山・塔ノ岳

ＯＢ山行担当　小野恵美子（34 期）

日　時：　2001 年 12 月 8 日（土）
行　先：　鍋割山（1273m）、塔ノ岳（1491m）
行　程：　渋沢 9:13＝二俣 9:45-10:05→休憩 10:25-30→後沢乗越 10:52-11:00→休憩 11:28-33→
鍋割山 12:05-13:00→休憩 13:50-55 塔ノ岳 14:10-25→花立 14:52-15:00→堀山の家 15:35-42→
二俣 16:29-40＝渋沢 17:09
参加者：　吉田輝(1)、吉野(2)、宮崎(2)、白井(3)、谷上(4)、原(4)、松本弘(7)、日渡(9)、安藤(11)、榎本(12)、
小口(14)、狩野(14)、小泉(15)、小浜(17)、山下(17)、　笹倉(30)、藤井(33)、Ｌ小野(34)
計 18 名

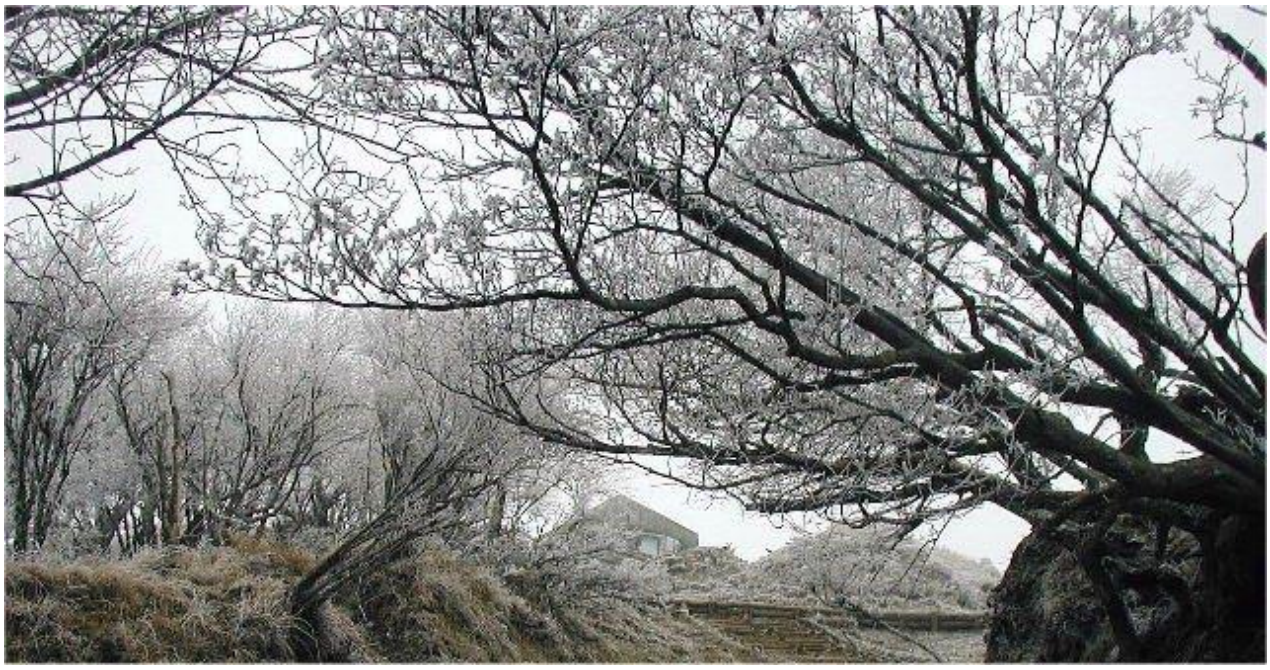
第４回ＯＢ山行は初冬の丹沢・鍋割山から塔ノ岳のコースで開催されました。生憎の曇空の上、かなり寒い日でしたが、長野の小口さん(14)を加え 18 名のＯＢが参加しました。　二俣まで車で入り、登山口で鍋割山荘の水ボトルを各自１本ずつ背負い、後沢乗越から鍋割山をめざしました。山下氏(17)が後沢乗越から寄に下り、17 名で鍋割山に向かいましたが、なかなか手ごたえのある登りでした。山頂は大変寒くてシニアは山荘に入りましたが、若手は外で昼食をとりました。昼食後、突然時田氏(5)が現れ、写真にだけ加わりいずこともなく立ち去りました。午後は塔ノ岳に向かいましたが、折からの寒さで霧氷ができて塔ノ岳が真っ白です。頂上はガスで何も見えませんでしたが、思わぬ霧氷には皆歓声をあげました。懐かしのバカ尾根を経て、堀山から二俣へ下りました。急な下りで筋肉痛になった人も多かったでしょう。
［所要時間］　6 時間 24 分

後列　　谷上、　吉田輝、日渡、松本、　安藤、小泉、小口、　小浜、　榎本、　原、　藤井
前列　　宮崎、　　狩野、　　白井、　　吉野、　　山下、　　小野、　　笹倉

参加者の声
（**7 期松本さん**）　幹事の皆さん大変ご苦労様でした。おかげでさまで楽しい山行でした。鍋割山、塔ノ岳は実に現役以来数十年ぶりでした。頂上の景色が大幅に変わっていたので、初めて来た山のように思えました。特に、　霧氷がすばらしく、記憶に残る山となりました。年を取ると反応が鈍くなるためか、ひどい筋肉痛はとくに出ていません。　明日ぐらいから出るかもしれませんね。今回の登山を初めとして、また丹沢の色々なコース

を歩きたくなりました。尚、我が家には、霧氷の写真をみて残念がっている足を痛めたＯＢがいます。次回のＯＢ山行には参加できると思われますので，その時はよろしくお願いします。
（**9 期日渡さん**） ＯＢ総会の写真受け取りました。有り難うございます。先日のＯＢ山行では参加者の方々の意見・感想が速やかに送られてくるので、メールの威力を再確認すると共に、アフター山行も充分楽しみました。吉田さんのカモシカの写真、谷上さんの樹氷第２弾等で、まだまだ楽しみが続きそうです。

丹沢霧氷



（**11 期安藤さん**） 12 月 10 日（月）仕事を終えて家でメールを開け，18 通と異常にあるので驚きました。ウィルスに感染したのかと思いましたが、皆様からのメールでした。土曜日は，ちょっと寒くはありましたが，感動的な塔ノ岳でした。日曜日は朝からよく丹沢と富士山が見えて相当風が強そうでした。写真ありがとうございました。次の機会を楽しみにしております。
（**14 期狩野さん**） 丹沢の素晴らしさを再認識した一日でした。突然現れた霧氷は夢の世界に迷い込んだような感じがしました。山下さん、小浜さん、失礼なこと言ってごめんなさい。期が近い２人に初めてお会いできて嬉しかったです。帰りは渋滞の中２時間半ぐらい掛かってようやく帰宅できたという感じです。厚木付近まで１車線なのでいつも渋滞するようです。渋沢で反省会？をしてから帰った方が良かったですね。帰りの車の中で１人反省していました。久しぶりの筋肉痛、学校には、最近取り付けたばかりの手すりがあって助かりました。１階から４階まで何度も上り下りするのは辛いものです。次回までには筋力トレーニングで鍛えておきます。
（**14 期小口さん**） 今日の夕方、好天の東京から長野に戻ったら、雪が舞っていて、とても寒さがこたえました。犀川にかかる橋を自転車で渡ったら冷えてしまいました。昨日の丹沢山行、大変お世話になりました。鍋割、塔ノ岳の山頂は寒かったですが、とても楽しい山歩きができました。丹沢の大きさと素晴らしさを見直しました。良かった。また、今回、近くの期の小泉くん、小浜くん、山下くんとも本当に久し振りに会うことができました。吉野大先輩、笹倉くん、藤井くん、幹事の小野さん、そして皆様のおかげです。ありがとうございました。狩野さん、車、ありがとう。それでは、山小屋か山行などで、また、お会いしましょう。お元気で。
（**15 期小泉さん**） ８日の山行楽しく参加させていただきました。近頃はなだめすかして同行させていた息子達も、それぞれに多忙で、淋しく１人で登っていました。久しぶりに、ＯＢの皆様との山行とても楽しいものがありました。それにしても、上の期の方々の健脚ぶりには圧倒されました。今後は、日々トレーニングに励み（といっても散歩程度ですが）次回からも参加させていただきたいと思っています。あの霧氷の美しさは筆舌に尽くしがたいものがありますが、送っていただいた写真を見て、また思い出しております。久しぶりに皆さんの元気なご尊顔を拝し、嬉しくもありまた懐かしい一日でした。幹事の皆様、ありがとうございました。
（**17 期小浜さん**） ＯＢ山行に参加させていただきまして、ありがとうございました。

本当に久しぶりの山で心配でしたが、17期の若さ（？）に任せてどうにか付いていくことができました。これを機会にまた始めたいと思っていますが、太股の筋肉痛は1週間は続きそうな気がします。吉野さんを始めとして、山行幹事の小野さん、笹倉さん、藤井さんには大変お世話になりました。また、久しぶりにお会いした小口さん、小泉さん、狩野さん懐かしかったです。また、ほかのＯＢの皆さんにもこれを機会によろしくお願いいたします。谷上さんから送っていただいた霧氷の写真を早速壁紙にして余韻を楽しんでいるところです。また、ＯＢ山行でお会いしたいものです。

（**17期山下さん**） 今やっとシンガポールに到着し、ホテルでこのメールを書いています。今の季節に丹沢で霧氷が見られるなんて信じられません。途中で帰って来ずに最後までご一緒出来たらなあ、と今思っている次第です。私も小野さんと同様足の筋肉痛で歩くのが辛いです（翌日、筋肉痛に悩まさせられるなんてまだ若い証拠でしょうか？（冗談、冗談）。今週は熱帯のシンガポールとバンコクで仕事ですが、来週は酷寒の北京で仕事です。この寒暖の差に体が付いていってくれるかどうか、今からちょっと不安です。シンガポールは今クリスマスの飾りでとてもきれいです。でも熱帯で聞くジングルベルって何だか変ですね。この出張中に何か面白いことがありましたらまたメールします。ではまた。

レスト①

ＯＢ山行の楽しみ方　あれこれ

小野恵美子（34期）

山の楽しみ方は人それぞれですが、ＯＢ山行では、皆さんの様子を見て「こんな楽しみ方もあるんだ」と感心し、またそれを享受して楽しみが倍増します。これまでの山行を思い出しながら項目を挙げて記してみます。

【景色・展望】

山では何よりこれが楽しみという方が多いと思います。ＯＢ山行で嬉しいのは、美しい眺望を皆で共有できることはもちろんですが、山座同定をご指南いただけることにもあります。地理に疎い私に皆さんが「あれが〇〇山、あちらは△△山」と教えてくれます。分かりづらい山があれば、地図を広げて皆でわいわい推測するのも楽しい時間です。でも天気が良くて展望がきく日ばかりではありません。基本的に延期をしないＯＢ山行では、展望は当日の天候次第。視界真っ白で一日歩くこともありました。そんな中きれいなお花が咲いていたり、一瞬霧が晴れて視界が開けたりすると喜びも一入です。誰が雨男だ、雨女だと文句を言い合いながら歩くのも楽しいものです。晴れた山行よりも雨降りやひどく寒かった日の山行のほうが印象深かったりします。

【食べ物（差し入れ）】

行動中の休憩時間や山頂での昼食時に、お菓子や果物が飛び交います。旅先や物産展での珍しいお菓子が配られたり、重いのに季節の果物をたくさん持って来ていただいたり。車に鍋を積んで、登山口で温かいお汁粉を振舞ってくださった方もいました。美味しかったなぁ。山で皆と笑いながら食べると、コンビニのおにぎりだっていつもより美味しくなります。参加人数の増えた最近は、差し入れでお腹いっぱいになり、山行前より体重が増えていたりするのが玉に瑕ですが。

【写真】

ＯＢ山行専属カメラマンお二人の手記にもありますが、皆それぞれ、お気に入りの風景やスナップをカメラや携帯電話に収めて楽しんでいます。機械（デジカメを含む）に弱い私は撮影しませんが、下山後にＥメールで写真が行き交い、楽しませてもらっています。これまでのＯＢ山行の写真を見返すと、懐かしさと共にその時交わした会話までもが鮮明に思い出されます。初代カメラマンの谷上さんが、集合写真撮影後カメラを片付けている間に皆が出発してしまったエピソードを書かれていますが、この場を借りて改めてお詫びいたします。ＯＢ山行委員会としては、その後十分に留意していますので、大きなカメラをお持ちの皆様、安心してご撮影ください。

（P19に続く）

■　第５回　那須茶臼岳（シニア月例山行合同）

ＯＢ山行担当　小野恵美子（34 期）

日　程：　2002 年 8 月 24 日（土）
行　先：　那須茶臼岳（1915m）
行　程：　東京 7:08＝ロープウェイ山麓駅 10:20-40→山頂駅 1046-53→茶臼岳 11:33-12:18→牛ヶ首 13:20-30→峰の茶屋 13:55-14:00→峠の茶屋 14:35-45＝湯泉望 14:55-16:05→お菓子の城 16:35-17:05＝東京 19:50
参加者：　吉田(輝)(1)、嘉納(1)、嘉納夫人、吉野(2)、北見(2)、宮崎(2)、塚原(2)、白井(3)、腰塚(3)、塩谷(3)、江崎(3)、吉村(3)、泉(4)、大黒(4)、谷上(4)、斉藤(貞)(4)、広川(郡司(4)友人)、亀井(良)(5)、亀井(昭)(5)、高須夫人、桜井(6)、古荘(6)、原(6)、岡田(光)(6)、岡田(美)(6)、岡田令嬢、林(7)、松本(7)、古宮(7)、久保木(7)、服部(7)、井上(7)、松本(8)、安藤(11)、中島(15)、田村(34)、Ｌ小野(34)　　計 37 名

第５回ＯＢ山行は、第 41 回シニアＯＢ月例山行と合同という形で開催し、噴煙と硫黄の香りに包まれた那須茶臼岳に行って参りました。

雲行きの怪しい中、朝７時に東京駅に集合。貸切の大型バスに乗り込み一路那須茶臼岳山麓へ。途中雨も強くなりびしょ濡れの山歩きを覚悟しましたが、山に近づくにつれ空が明るくなり、青空も垣間見えるようになりました。バスを降り、111 人乗りのロープウェイに乗って約４分で山頂駅に到着。ガスにまかれ幻想的な火山礫の斜面を登り、約 40 分でピーク着。広い旧火口を見ることができました。ピークで昼食をとり、元来たルートを下りる頃ガスが晴れ、お隣の朝日岳の雄姿も現れました。分岐まで下りて今度は茶臼岳を巻く形で緩やかな道を歩き、牛ヶ首、峰の茶屋跡へ。途中の無限地獄では、音をたててガスが湧くのが見られ、まさに山が生きているのを実感。ウラジロタデ、コメススキの群生が見られ、エゾリンドウの花も咲いていました。さらに下って、バスの待つ駐車場に到着。雨にあたることはなく、茶臼岳名物（？）の風もなく、実働約３時間の快適な山歩きを楽しみました。大丸温泉で汗を流して一息つき、お菓子の城でお土産を買い込んで帰路につきました。渋滞もなく夜８時前に東京に帰って来ました。

那須茶臼岳山頂にて

■　第６回　明神ヶ岳

ＯＢ山行委員長　小野恵美子（34 期）

日　程：　2002 年 12 月 7 日（土）
行　先：　明神ヶ岳（1169m）
行　程：　新松田 9:05＝道了尊 9:30-50＝見晴小屋 10:44-52→休憩 11:36-43→明神ヶ岳 12:21-52→
　　分岐 13:21-36→宮城野温泉会館 14:32-15:30＝湯本 16:05
参加者：　吉野(2)、腰塚(3)、松本(7)、松本(8)、日渡(9)、安藤(11)、小口(14)、狩野(14)、小泉(15)、
　　小浜(17)、白須(17)、渡辺(17)、田村(34)、Ｌ小野(34)　　計 14 名

朝から冷たい雨がぱらつく中、参加者が新松田駅に集まりました。第６回ＯＢ山行は箱根の外輪山、明神ヶ岳に行ってまいりました。雨でも皆さん登る気満々（？）、予約したタクシーに乗り込みます。最乗寺の立派な境内でウェアや傘など雨対策の姿に早変わり。9 時 50 分、天狗の高下駄の横を通って登山道に取り付きました。歩くと温まりますが、止まると途端に体が冷えるので、レストもそこそこにピークを目指します。雨は弱まったりまた強くなったり、展望もありませんでしたが、杉林の道や開けたススキの道など落ち着いた良いコースです。12 時 20 分ピークに到着。それぞれ心に大きな富士山を思い描いて、集合写真を撮影。ピークは冷たい風がもろに吹きつけて凍りつくような寒さでした。あわてて少し下ったところで昼食にしました。それでも寒さで長居できず、30 分後にはその場を後にします。少し歩くと寒さもやわらぎ、宮城野分岐のレストでは寒さで強張った顔にまた笑顔が戻りました。ピークでは出せなかったＥＰＩガスコンロとジョークも飛び出して、最後のレストを楽しみました。恐れていた下りも落ち葉が敷き詰められた歩きやすい道で、午後 2 時 30 分には下山地宮城野温泉に到着。揃って温泉会館に向かいました。冷えた体に温泉のお湯は優しく、心も体も温まって帰路に就きました。

適度なアップダウンとコースタイム、歩きやすいしっとりした山道で、ワンデーハイクとしてはとても良いコースだと思います。今回は終日雨でしたが、皆さんと賑やかに会話を楽しみながら歩くことができました。晴れも良し、雨もまた良し、です。それでも、「360 度の絶景を楽しみにいつかまた来よう」皆さんそう思ったのではないでしょうか。たいへんお疲れ様でした。

明神ヶ岳山頂で集合写真

稜線から明神ヶ岳方向を望む

小レスト１の①

2002 年 8 月 24 日　第５回　那須茶臼岳

■　第７回　榛名山　（シニア月例山行合同）

第７回ＯＢ山行リーダー　安藤貞利（11 期）

日　程：　2003 年５月 24 日（土）
行　先：　天目山（1303m）、相馬岳（1411m）
行　程：　7:30 新宿西口＝（パス）＝10:00 榛名湖→11:00 天目山→12:00 松之沢峠手前 13:00→14:00 相馬岳→15:00 ヤセオネ峠→15:30 温泉 16:30＝19:00 新宿西口
参加者：　嘉納(1)、嘉納夫人、吉田(1)、藤岡(1)、吉野(2)、宮崎(2)、渡辺(2)、腰塚(3)、塩谷(3)、江崎(3)、斎藤(4)、郡司(4)、谷上(4)、大黒(4)、泉(4)、広畑(友人)、亀井(5)、亀井昭(5)、松本君(6)、小林(7)、服部(7)、林(7)、井上(7)、小木曽(7)、古宮(7)、久保木(7)、松本弘(7)、今井(7)、白神(7)、池原(8)、池原夫人、松本真(8)、日渡(9)、Ｌ安藤(11)、狩野(14)、上野(14)、小浜(17)、田村(34)、小野(34)　　計 40 名

第７回のＯＢ山行（5 月 24 日）はシニア月例山行と合同で開催され、バスを使った榛名山を巡る山行でした。2002 年 12 月の氷雨の第６回ＯＢ山行、明神ヶ岳とは、うって変わって汗ばむ陽気でした。

7 時 30 分に一人の不参加者を除いて全員、新宿西口にそろい出発。途中関越道での渋滞もなく、10 時前に榛名湖湖畔に到着し、そこで車で来られた方たちと無事合流し、全員で写真撮影し出発となりました。湖畔から舗装道を登り、登山道に入ってから少し行くと新しい階段状の木道が急な坂道にも付いていて、石の階段と同じような登り難い道でした。ここまで整備されると文句も言いたくなるというところ。氷室山での休みもなく天目山目指しひたすら登り、もうすぐ天目山の頂上というところで休み。

天目山から松之沢峠までは、防火帯の切り開きの気持ちの良い道が続き、40 名がそれぞれのペースで歩いてヤマツツジ、 ミツバツツジ、 コナシの花を満喫していました。峠手前の分岐で丁度下から 12 時のチャイムが聞こえ、それぞれ好きなところで弁当を広げ昼食となりました。そこへ、時間を合わせて体調が患い池原さんが峠から登って来て昼食に合流。食休みで昼寝もしたいところで、集合となり全員での記念写真。この時を待っていたかのように太陽が顔を出し、フラッシュなしでの写真撮影。

13:00 出発し磨墨（するす）岩の奇岩を巻いたところで、ホトトギスが姿を見ることができるぐらい近くで鳴いていました。 沼の原からの登山道に出て、相馬山への石段の本格的な登りとなり、登りにうんざりしたところで、ヤセオネ峠への分岐。分岐で休まずそのまま登って行ったシニアの方もいて、元気なところを見せられました。

ここからは信仰の山らしく石柱があちこちにある中、いよいよ今日のハイライト、鉄梯子がある相馬岳への登り。途中で諦めようかと考えた人もいるぐらいきつい登りでしたが、全員無事頂上へたどり着きました。頂上からの眺望は、生憎良くなく山裾がようやく見える程度でした。頂上は 40 人が立ってやっと居られるぐらいのスペースで、写真撮影もそこそこにして今来た道を下りました。下りは問題の鉄梯子はあったものの、足取りも軽く、3 時前にバスの待つヤセオネ峠に着きました。

帰りは、渋川・伊香保インター近くの空中温泉で汗を流し、帰途につきました。5 月の行楽シーズンにもかかわらず、計画通り山行が出来ましたことは、計画立案者のおかげか、参加者の心がけが良かったのか、そのどちらとも言える十分満ち足りた山行でした。

■　第８回　乾徳山

第８回ＯＢ山行リーダー　小浜一好（17期）

日　程：　2003年９月６日（土）
行　先：　乾徳山（2031m）
行　程：　塩山9:00＝大平牧場9:45-58→休憩10:36-42→扇平11:21-56→乾徳山12:48-13:15→
休憩13:58-14:05→国師ヶ原14:37-40→大平牧場15:15-18＝塩山15:53＝花かげの湯16:08-17:30
参加者：　宮崎(2)、吉野(2)、腰塚(3)、谷上(4)、山本(陽)(10)、安藤(11)、上野(14)、上野ご主人、小口(14)、狩野(14)、中島(15)、Ｌ小浜(17)、白須(17)、渡辺(17)、笹倉(30)、藤井(33)、横井(33)、松尾(33期友人)、小野(34)、田村(34)　　計20名

第８回を迎えたＯＢ山行が９月６日（土）天候に恵まれ、奥秩父件乾徳山（標高2031m）で、これまで最大の20名が参加して行われました。

朝９時、ＪＲ中央本線塩山駅に集合しましたが、若手４人組は遅刻（寝坊？）で定刻までに集まった人たちは一足先に自家用車に分乗して大平牧場へ。出発前に恒例の自己紹介。

今回の参加者では10期山本さん、33期横井さん、ゲスト松尾さんが初参加、久しぶりの参加の30期笹倉さんと33期藤井さん、おなじみの34期田村さん、と若手の参加が増えました。ただし20期台の参加はなし。ちなみに２期吉野さん、11期安藤さん、34期小野さんは皆勤賞―８回連続参加。殊に安藤さんは今回所用があり、早く帰らなければならない状況の中で敢えて参加。皆勤を続けるのは努力が必要です。

登山道は所々眺望に恵まれましたが、かなり急な登りを約１時間半、樹林帯を抜けて広々とした扇平で早めの昼食、若手４人組もそこで無事合流しました。

乾徳はやや歩きづらい石の山の印象で、くさり場も３箇所ありました。特に頂上付近は20m以上の直登、手前では順番待ちで渋滞し、20分近くは待ったのではないでしょうか。

最初から最後まで富士山の眺望に恵まれましたが、高度を稼ぐほど富士山が高く見えました。

扇平から頂上までは約１時間。頂上では大菩薩連峰、眼前に黒金、その向こうに甲武信、破風、雁坂峠など奥秩父の山々―そういえば新人練成二次合宿当時主将だった今回参加の 15 期中島さんにはしごかれたなアと思い出しました。今はタメ口きいているけど、昔は近寄れない恐い存在でした。

それにしてもシニアＯＢの２期吉野さん、宮崎さん、３期腰塚さん、４期谷上さんはお元気です。僕ら10期代より体力があるのは間違いがない。急峻な登りもにこやかに談笑しながら平気な顔。いつも通り、出発時と頂上などでは名カメラマン４期谷上さん恒例の絶妙な間を取った記念撮影がありました。

下山時には２期宮崎さんと14期小口さんは産業廃棄物処分地についてそれぞれ住民側･行政側に立った情報交換。14期上野さんは仲良く御夫婦で参加(長年連れ添った夫婦は顔まで似てくるようです)。

何よりプロデューサー兼会計係 2 期吉野さんとＯＢ山行委員長の 34 期小野さんの熱意と労苦には感謝感謝です。何せ、今回のために３日前に全く同じコースをお二人で偵察されたとか。また、帰りの温泉も見つくろっていただきました。近くの牧丘町が経営する『花かげの場』は入場料３時間500円、休憩室利用料込み、硫黄の臭いがいかにも温泉らしい露天風呂もあり、超おすすめ。みんなで風呂上がりの生ビールやソフトクリーム、そばを楽しみ、再会を約束して散会となりました。

帰り、僕ら17期白須、渡辺、小浜の３名（期別では今回最多参加）は16号が渋滞したお蔭で十分会話を楽しむことができました。

次回の第９回は、14期狩野さんが幹事。狩野さんらしいユニークな山行が期待されます。個人的には帰りに是非、温泉で一汗流す行程を希望します。皆様、奮って御参加下さい。

僕自身、5 回目からの参加で最初は多少の決心が必要でした。（普段の運動不足と面倒くささの克服）でも、参加してわかったこと―①やはり都会暮らしの元ワンダーフォーゲル部だった人間にはたまに自然に抱かれることが必要である、ということ、②山の仲間はいくつになってもあの時と同じ仲間であること、③世代間を超えたYWVの交流は面白いこと、など。日頃の生活にくたびれ果てている（？）特に20期代の若手ＯＢ諸君へ、今、流行の癒しになることを請け合う。

レスト①（P14 から続く）

【植物】

コースや季節で違いますが、山では可憐な花々や雄々しい木々に出会います。植物に詳しい皆さんが、これまた疎い私に名前や特徴を教えてくださいます。似ている植物については、これは〇〇か△△かと、詳しい方同士で議論しているのを聞くのも楽しいです。私はといえば、せっかく覚えた名前も山から下りると忘れてしまい、次の山でまた出会っても「初めまして」。そしてまた教えていただく、を繰り返すのです。

【服装・装備】

山ガールなんて言葉も生まれて久しいですが、ＯＢの皆さんは新しいファッションに飛びつく人は少なく地味な印象です。さすが国大出身、などと思ったりします。それでも「新しいザックですね」「靴を変えましたね」といった会話も。今は無きキスリングや家型テント、大きな鍋や飯盒の話で盛り上がったりもします。最近では、携帯型の GPS や最新の万歩計等を持ち歩く方も。その機能について嬉々として話されるのですが、機械に弱い私には、これはもうさっぱり分かりません。

【結局、人】

他にも山中での楽しみは多々あると思いますが、どれをとっても、仲間がいるから一層楽しいのだなあと改めて感じます。こうして書いてみると、私は皆さんから楽しみを享受するばかりですね。YWV

ＯＢ会は、年齢も性別も職業も肩書も関係なく共に山を歩いて笑い合える、稀有な集団です。自然の中ではその人の飾らない本質が現れるからでしょうか、一度一緒に山を歩けばすぐに打ち解けられます。それぞれが若かりし頃、同じ大学の同じサークルに所属していたという一つの共通点があるだけなのに、不思議な絆があるようです。

ＯＢ山行はこれからも続きます。ＯＢ山行未体験の会員の皆様にも是非一度ご参加いただき、この楽しみの輪がさらに広がると良いと思います。

■　第９回　三ツ峠山

第９回ＯＢ山行リーダー　狩野一子（14期）

日　程：　2004年４月３日（土）
行　先：　三ツ峠山（1785m）
行　程：　河口湖＝三ツ峠登山口 9:30-35→ベンチ 10:10-16→三ツ峠山 10:56-11:15→木無山 11:33-12:33→休憩 13:21-30→林道 14:06-15→ロープウェイ駅 14:35-50→河口湖畔 15:05-10＝登山口駐車場 15:25-16:00
参加者：　宮崎(2)、吉野(2)、小林(7)、榎本(12)、上野(14)、上野ご主人、小口(14)、Ｌ狩野(14)、小浜(17)、山口(貢)(18)、藤井(33)、横井(33)、小野(34)、田村(34)　　計14名

暖かく穏やかな１日、のんびりと三ツ峠ハイキングを楽しんできました。小口さん、宮崎さん、藤井さんのうれしいドタ参と初参加の18期山口さん合わせて14名です。

河口湖畔駐車場に集合時刻９：00に全員揃いました。７期の小林さん、14期の上野さんの８人乗りワゴン車に分乗して三ツ峠登山口へ。途中、路上駐車の車が数台あったので、もしかしたら駐車場がいっぱいなのかしらと心配になりましたが、一番上の駐車スペースは余裕たっぷりでした。「ああよかった」　少しでも登りを少なくしたい私たちです。

開運山

さて、広くて歩きやすい登山道をひたすら三ツ峠山頂目指して歩き、ふと気づくと右手にドンと富士山が見えました。何回見ても感動しますね。もちろん、途中２回休憩はありました。山頂からの富士もすばらしいです。雲の影が雪に映り、形を変えていくのをじっと眺めたり、富士山頂付近から雪煙が上がっているのを見て、オホーツク沿岸の地吹雪を思い出したりして、ゆったりした時間を過ごしました。残念ながら南アルプス他、丹沢などの山々は春霞の中ではっきりとは見えませんでした。

山頂を後にして昼食に最適の場所である、木無山へ向かいました。少し手前で昼食です。風もなくとても暖かいのでいつまでもここでポケーっとしていたかったな。若者２人はベンチに仰向けになり、お昼寝タイム。いびきは聞こえてこなかったけれど、ほんとに気持ち良さそうでした。

木無山ってほんとに木が無い。登山道脇に植林されたカラマツが少しあるだけ。でも少し下ると、立派な天然カラマツがありました。さすが天然ものは木の太さも枝振りも違う。天カラやばんざいをしたもみの木を見ながら、ひたすらだらだらと天上山まで下るのでした。途中で黄色い花をつけたダンコウバイがありました。緑もカラフルな色の花もないこの季節に目に留まった黄色い花、暖かい風、霜解けのぬかるんだ道と共に春を感じました。

天上山ロープウェイ乗り場には、素晴らしいトイレがありました。靴を脱いで使用するのかなと思ってしまいます。床も壁もきれいに磨かれた天然木です。便座ぽかぽか気持ちがいい。

黒岳、釈迦ヶ岳

ロープウェイには乗らず河口湖を見ながらアジサイの道を一気に湖畔の駐車場まで下りました。そして小口さんの車で上野さん、小林さんのワゴン車を取りに三ツ峠登山口に行ってもらいました。ありがとうございました。下見の時は車１台だったのでタクシーで五千数百円も掛かりました。

展望所にて

■　第 10 回　御正体山

ＯＢ山行委員長　小野恵美子（34 期）

日　程：　2004 年 5 月 15 日（土）
行　先：　御正体山（1681m）
行　程：　都留市駅 8:35＝道坂トンネル 9:03-19→1228m9:39-45→岩下の丸 10:15-22→休憩 11:04-10→御正体山 12:00-13:00→峰神社 13:20-23→休憩 13:44-49→水場 13:15-30→デポ地 14:45-58＝道坂トンネル 15:10-15＝三輪神社 15:30
参加者：　吉田(輝)(1)、吉野(2)、小林(7)、山本陽(10)、榎本(12)、狩野(14)、中島(15)、小浜(17)、白須(17)、笹倉(30)、松尾(33)、田村(34)、Ｌ小野(34)　　計 13 名

記念すべき第 10 回目のＯＢ山行として、去る 5 月 15 日 200 名山の一つ御正体山に行ってまいりました。何故か悪天候の確率が高いＯＢ山行ですが、この日は風薫る爽やかな好天で、まさに絶好の登山日和でした。総勢 13 名、楽しい山歩きができました。山本さん、中島さんは千葉から始発電車でお越しくださいましたし、松尾さんは 33 期の正部員が不参加であっても参加してくださいました。有難いことです！　道坂トンネル横の集合場所には電車参加組と合流しながら数台のマイカーで乗りつけましたが、途中道に迷う車あり、買い物に寄ってしまう車あり。携帯電話での連絡が威力を発揮していました。大勢の待ち合わせには本当に便利なものですね、と未だ携帯不所持の私は思ったのでした。

開会式の後、朝９時 15 分に登り始めました。始めに急登が待ち構えていましたが、それを過ぎるとゆるやかな上り下りが続く快適な山道です。何より緑が美しく、緑の山の懐に入っていく感覚でした。ブナやらミズナラやら多くの樹木があり自然林として保護しているとの看板を目にしました。私は山行の下見として吉野さんと４月末に同コースを歩いたのですが、ほんの数週間で緑の色が変わっているのに驚きました。下見の時は淡くやさしい緑でしたが、山行当日は鮮やかな力強い緑でした。自然の息吹を感じて嬉しくなりました。同じ山に時期を変えて訪れるのもまた楽しいものです。緑の中にヤマツツジや時折小さな花が咲いていて、名前を教わりながら歩きました。山の植物に詳しい方が多くて、無知な私は感心するばかりです。私は教わってもしばらくすると忘れてしまうのですが。

山頂でのビンゴゲーム！

歩きながらや休憩中のお話は、学生時代の思い出やらそれぞれの仕事のことやらはたまた年金問題にもおよんで賑やかでした。年齢も職業も違う人たちが同じ時間をこんなに楽しく共有できるのは少し不思議な気がします。これもＯＢ山行の魅力の一つです。最後に急登を越えて正午過ぎに山頂に着きました。

木々に囲まれて展望はありませんが、広くてのんびり昼寝でもしたい頂です。昼食をとった後、第 10 回記念のビンゴ大会を行いました。熱戦（？）の末、榎本さんと中島さんがささやかな賞品を獲得されました。その後、恒例の集合写真を撮り、下山路に就きました。樹林越しに富士山を垣間見ながら急坂を下りて行きます。高低差 1000mの下りは途中から膝が笑いましたが、仏ヶ沢の水場でおいしい沢水を飲み、そこからはゆるやかな林道で下山地の三輪神社に到着しました。今回のコースは歩きやすく、コースタイムはガイドブックに書かれているよりずっと縮まりました。 展望が無く地味ではありますが、どっしりと落ち着いた山容で純粋に山歩きを楽しむことができました。

帰りの車の中で、吉野さん、狩野さんとこんな話をしました。山登りの後は身体は疲れているけれど、仕事の疲れと違って心地良い疲れですね。仕事で疲れて休日に家で過ごしているより、山に来たほうがずっと元気が出る。また頑張ろうって気持ちになる・・・。

私も本当にそうだと思います。皆様はいかがですか。しばらく山から離れていらっしゃる方も是非今後のＯＢ山行にご参加ください。楽しい時間と偉大なる自然の癒しが待っています。

御正体山山頂にて

■　第 11 回　磐梯山（シニア月例山行合同）

ＯＢ山行委員長　小野恵美子（34 期）

日　程：　2004 年 8 月 28 日（土）
行　先：　磐梯山（1816m）
行　程：　東京 23:00＝磐梯山ＳＡ3:30-5:00＝猫魔八方台 5:40-6:35→中の湯 7:05-10→休憩 7:45-50→弘法清水 8:30-42→磐梯山 9:10-22→弘法清水 9:46-50→沼ノ平 10:40-11:33→休憩 12:01-10→はやま温泉 13:01-15:01＝東京 19:29
参加者：　嘉納(1)、藤岡(1)、吉野(2)、北見(2)、白井(3)、腰塚(3)、塩谷(3)、吉村(3)、谷上(4)、原(4)、郡司(4)、大黒（4)、竹内(4)、永田明(4)、永田多(4)、松本(6)、古荘(6)、岡田光(6)、岡田美(6)、岡田令嬢、林(7)、古宮(7)、久保木(7)、小林(7)、八島(7)、今井(7)、小木曽(7)、田中(8)（山行幹事)、早坂(8)、松本(8)、日渡(9)、安藤(11)、榎本(12)、小口(14)、狩野(14)、大倉(狩野友人)、中島(15)、小浜(17)、白須(17)、山口(18)、植草慶(18)、植草美(18)、笹倉(30)、藤田(30)、Ｌ小野(34)　　計 45 名

猫魔八方台登山口 45 名

11 回目のＯＢ山行は第 63 回シニアＯＢ月例山行の企画に乗せていただいて開催しました。前日夜に貸切バスで出発して朝早くから磐梯山に登る企画です。金曜日の夜 11 時、東京駅前から出発。仕事帰りに大きな荷物を抱えて参加された方々もあり、7 期服部さんはお忙しいところお見送りに来てくださいました。ほぼ満席の大型貸切バスの中は子供の頃の遠足を思い出しました。早めに着いたＳＡで夜が明けるまで仮眠。男性には座席がやや狭かったようで、バスの床やＳＡ内のベンチで眠った方もいたようです。

八方台登山口で朝食。開会式の後 6 時 30 分から歩き始めました。山行幹事の田中さんが予め大所帯を 3 つに隊分けしてくださっていました。行動し易さや他の登山者への配慮もさることながら、それぞれ隊のカラーがあって楽しめました。中の湯跡では硫黄の香りにつつまれ、弘法清水では豊富でおいしい水を飲みました。晴れ間を期待しましたが、次第に霧がたちこめ辺りは一

頂上はガス

面真っ白に。幻想的に美しい白さの中、ゆっくりと頂を目指しました。何故磐梯山は宝の山なんだろう・・・考えながら歩いていたら木の枝に頭をぶつけて笑われました。頂上でも景色は望めず、有名な大パノラマを胸に描きながら隊ごとに記念撮影。寒さのため早々に引き上げましたが、下っていく間に少しずつ暖かくなり青空が見えてきました。10 時 40 分沼ノ平で昼食休憩。談笑していると雲が流れて行きアザミの咲く湿原と磐梯山頂の雄姿が見えてきました。100 余年前の噴火を想像させる様相で、さすが百名山の貫禄。完全に姿を出すまで、もう少しもう少しと長居をしてしまう美しさでした。後ろ髪を引かれながら下山地へ。眼下には大きな猪苗代湖と会津の町が望め、振り返ると先ほどの厳しい姿とうって変わってこんもりと穏やかな磐梯山頂が見られました。最後のグレンデ道は 40 数人が一列に見えるほどゆるやかに長く続き、その後の筋肉痛を予感させました。じんわり汗をかきながら下っていきましたが、パラグライダーが浮かぶ空は高く、ススキ野原を渡る風はもう秋のものでした。1 時 15 分に下山地猪苗代登山口に到着。温泉にゆっくりつかった後、再びバスに乗り込み帰路につきました。帰りも順調で予定通り午後 7 時半には東京駅に着き、解散となりました。貸切バスの旅は賑やかで楽しいものでしたし、なんといつても 7,000 円ポッキリ（！）で磐梯山まで往復できて温泉までついてくるのですから、たいへんお得な山行でした。夜行だと時間に余裕があるのも良い点でした。早朝に山歩きができるのは幸せですし、ピークに朝 9 時に立てるとはワンデーハイクでは考えられないことです。幹事の方は下見やお手配が大変だったと思います。ありがとうございました。皆様お疲れ様でした。

下山後の集合写真

小レスト2の①

2001 年 8 月 4 日
第 3 回　水ノ塔山

■　第 12 回　越前岳

ＯＢ山行委員長　小野恵美子（34 期）

日　程：　2004 年 12 月 4 日（土）
行　先：　越前岳（1504m）
行　程：　御殿場 9:05→十里木 9:33-45→笹峰 10:18-25→休憩 10:51-56→越前岳 11:21-50→富士見台 12:05-08→休憩 12:36-44→愛鷹山荘 12:57-13:02→山神社 13:24-26＝十里木 13:40＝ヘルシーパーク裾野 13:56-15:15
参加者：　吉田(輝)(1)、吉野(2)、谷上(4)、小林(7)、松本(7)、松本(8)、上原(9)、日渡(9)、山本(10)、安藤(11)、Ｌ小野(34)　　計 11 名

12 回目のＯＢ山行は、日本 200 名山の一つ愛鷹山の最高峰　越前岳に登りました。師走の忙しさや悪天候を見込んでのドタキャンもあり、参加者は総勢 11 名でした。松本さんはご夫婦でのご参加、9 期上原さんは初のご参加でした。悪天候といえば、少々の雨風には揺るがない(!) ＯＢ山行なのですが、この時期に台風が発生し山行予定日に日本に接近して来るとは、さすがに驚きました。当日の天気予報は曇りのち雨、展望は期待すべくもなくただ雨に当たらずに歩けたら良しとしよう、と思いながら集合場所に向かいました。

9 時に御殿場駅に集合、マイカー組と電車組が合流し、登山口の十里木駐車場へ。そこで目の前に大きな美しい富士を見ることができました。越前岳には何度か登られた方もいらっしゃいましたが（シニアＯＢ会でも数回登られたそうですね)、皆さんここで富士山を拝めたことが無いそうです。こんなに近いのに不思議ですが、貴重なことなのだ、と有難さを噛み締めました。雨が降る前に行けるところまで行こう、と開会式の後早々に出発しました。富士山を背に進むため皆振り返り振り返り歩きました。1 回目の休憩場所、笹峰では素晴らしい展望が待っていました。富士山が裾野からてっぺんまで遮るもの無く大きく聳えていました。12 月にしては雪の少ない富士山が曇天に浮かび上がって見えました。何とも言えないその形その色合い、目に焼き付きました。そして富士山の左側にはアルプスの山々、右側には丹沢山系が遠くに望め、しばし山の名前が飛び交いました。無いと諦めていたものが有るというのは本当に嬉しいものです。思いもしないご褒美でした。しかし振り返って目指す山頂を見ると雲の中。再び歩き始めてすぐに、「あ、富士山が消えちゃった」との声が。見ると辺りは真っ白になっていました。一度だけ薄い雲が流れてぼんやりと幻想的な姿を拝めましたが、あっという間の変化に驚きました。林に入って風が強くなり、遥か南方にいる季節外れの台風を確かに感じました。11 時 20 分に山頂（1504m）に到着。真っ白な中で記念撮影。風をよけて木々の中に入って昼食にしました。

谷上さんは腰痛のため大事をとってすぐに来た道を引き返されました。シニアＯＢの方々は冗談で故障者リスト云々の話をしていましたが、自分の体力・体調と相談しながら山と付き合うことは大事なことですよね。

ポツポツと雨も当たり、私たちも寒さで長居できずに 30 分そこそこで下山路につきました。下り始めると雨風はおさまり寒さも緩んできました。もちろん天気が回復する訳はなく、富士が見られぬ富士見台、富士見峠を通過。登りの道とはまた雰囲気が違い、しっとりと落ち着いた冬の山道でした。13 時半には下山口に到着。小さな神社で無事を感謝し、運転組は予め朝置いていただいていた小林

出発前（十里木登山口にて）

さんの車で登山口の車を取りに行きました。単独行の場合ここでなかなか来ないバスを待つか、同じ道をピストンするコースしかとれません。これもＯＢ山行の良い所です。早めに下ってきた分、温泉にゆっくりと浸かって解散となりました。

西から来る悪天に追われて山での滞在時間は短かったのですが、目を閉じると笹峰で見た富士山が浮かび、消えることがありません。私にとっては今年最後の山登りになると思いますが、良い山行でした。

越前岳頂上

小レストのおまけ

第 23 回火打山（P42）の写真を基に絵を描いてみました。
如何でしょうか。上手い！？　残念ながら小生には絵心は無く、
これはＡＩを使って絵を描くサイトで作ったものです。
思ったよりもできが良いので、ご紹介することにしました。（編者）

■　第 13 回　鷹ノ巣山

ＯＢ山行委員長　小野恵美子（34 期）

日　程：　2005 年 5 月 21 日（土）
行　先：　鷹ノ巣山（1737m）
行　程：　奥多摩 8:33＝峰谷奥 9:10-20→1250m10:00-06→避難小屋 10:58-11:10→鷹ノ巣山 11:33-12:21→休憩 13:07-19→倉戸山 13:53-14:15→倉戸口 15:06-10＝峰谷奥 15:30＝大麦代 15:55-16:10
参加者：　嘉納(1)、吉野(2)、小林(7)、松本(7)、松本(8)、山本(10)、安藤(11)、上野(14)、小口(14)、狩野(14)、笹倉(30)、Ｌ小野(34)　　計 12 名

5 月の爽やかな晴天のもと、奥多摩の鷹ノ巣山に登ってきました。参加者は総勢 12 名。13 回目を迎えるＯＢ山行の常連の皆さんです。初参加のご予定だった 10 期下村さんは直前に足を痛められたとのことで不参加となり、残念でした。当日はＯＢ山行にしては珍しい晴天と展望に恵まれ、最高の山歩きを満喫しました。

朝 8 時 30 分に奥多摩駅に集合。平日の都心かと思うほど人が多くて驚きました。行楽シーズンの週末ともなるとこんなに多くの人が山登りに来るのだなあ（下見の時は閑散としていました）と嬉しくなったり、若い人が少ないなあとちょっと寂しく思ったりしました。ぎゅうぎゅう詰めで発車していく路線バスを見送って、電車でいらしたメンバーと合流した私たちはマイカーに分乗し悠々と登山口を目指しました。運転手の皆さん、いつも感謝しています！下山地である倉戸口に 1 台停めて、2 台の車で登山口へ。峰谷登山口から更に林道を入った奥という所に車を停めました。すでに何台もの乗用車が停まっていました。

9 時 20 分歩き始め、最初こそ急登でしたが、すぐに緑が心地よい快適な登山道になりました。「金五十銭」などと書かれた木札が並んだ古い神社の横を通って、どんどん登って行きました。爽やかな風の中、美しい緑に囲まれて歩ける幸せを噛みしめました。杉や檜の濃い緑、ブナや楢の鮮やかな緑、カラタチのやさしい緑、そしてかわいいツツジの花が代わる代わるに楽しませてくれました。鷹ノ巣山避難小屋から山頂までは、展望を楽しみながらゆっくりと登りました。11 時 30 分山頂（1736.6m）に到着。たくさんの登山者が展望の良い南側を向いて休憩していました。奥多摩の山々の向こうに丹沢の山も見え、右側には美しい富士山が。ここからの富士はスマートできりっと見えました。景色を堪能しながら昼食をとり、恒例の記念撮影。50 分間の休憩を楽しんだ後、下山路に就きました。

下山地までの標高差は約 1200mもあるのですが、そうは感じさせない歩きやすい土の道でした。偽ピークが多く、どれだかわからなかった榧の木山付近で休憩。ミツバツツジが綺麗でした。広場のような倉戸山山頂では再び集合写真撮影。0 期代の皆さんが煙の出る写真機（？）の話をされて、私は衝撃を受けました。そういえばこの山行中には 1 円札や 100 円札などという私にはわからない昔の話から、GPS などというこれまた私にはわからない最新の話まで飛び出して、本当に賑やかでした。ＯＢ山行は楽しい話題と情報の宝庫、自然を楽しむことのほかにこれもまたＯＢ山行の醍醐味であります。奥多摩湖の輝く湖面がだんだんと近くなり、15 時に下山地の倉戸口に到着。電車組、車組とに分かれ、その場で解散となりました。混んでいたため温泉は諦めましたが、心地よい疲労が残る今回のコースで奥多摩の一日を十分に楽しみました。

登山口に向かう車の中で皆さんと話したように、山に登らない人から見たら「山に登るなんて人の気が知れない」のでしょう。それでも登らずにいられない私たち。言葉で説明できないけれど、たくさんの山の魅力を知っているからですよね。皆さんお疲れ様でした。

鷹ノ巣山頂上

大岳山、御前山

■　第 14 回　湯ノ丸山

ＯＢ山行委員長　小野恵美子（34 期）

日　程：　2005 年 10 月 1 日（土）
行　先：　湯ノ丸山（2101m）
行　程：　佐久平 9:35＝地蔵峠 10:20-53→休憩 11:22-27→湯ノ丸山 12:11-13:12→鞍部 13:39-43→
　　烏帽子岳 14:22-33→鞍部 15:06-11→地蔵峠 15:50-58
参加者：　宮崎(2)、吉野(2)、渡辺(2)、金田(3)、谷上(4)、原(4)、松本(弘)(7)、松本(真)(8)、安藤(11)、
　　榎本(12)、小口(14)、小浜(17)、小浜夫人・令嬢、白須(17)、Ｌ小野(34)　　計 16 名

紅葉の時期には少し早かったのですが、去る 10 月 1 日湯ノ丸山と烏帽子岳に登ってまいりました。雲が多かったけれどもまずまずのお天気（このところＯＢ山行は雨無しです！）。遠くの山まで望め、落ち着いた初秋の山歩きを楽しんできました。

朝 9 時半に佐久平駅で電車組と合流し、マイカー組の待ち合わせ場所地蔵峠へ。新幹線を使って日帰り登山とは何とも贅沢です。地蔵峠に上っていく道端には小さな石の観音様が何体も並んでいます。峠を越えて鹿沢温泉まで百体あるそうです。看板が無ければ見落としてしまうほどひっそりと立っており、とても和やかな気持ちになります。

10 時半に地蔵峠に集合としていましたが、小浜さんご一家と白須さんを乗せた車が渋滞にはまってしまったとのこと。行楽シーズンの週末はやはり要注意です。先に出発することにして、11 時、馬頭観音様に見送られて歩き始めました。牛たちがのどかに草を食むゲレンデの道は急登。振り返ると篭ノ登山が大きく見えます。そこを過ぎると静かな山道です。花の季節は素晴らしいだろうと想像しながらつつじ平を越え、遭難慰霊の鐘を過ぎると再び登りです。ここで小浜さん、白須さんが追いつきました。奥様と娘さんは後からゆっくりいらっしゃるとのこと。

景色を楽しみながら登り続けて 12 時 10 分湯ノ丸山山頂に到着。石がごろごろする広い頂は高山の雰囲気。軽く歩いて 2000m を越えられるので、得した気持ちになります。篭ノ登山の後ろに浅間山の頭と噴煙が見えました。

お待ちかねの昼食の時間。皆さんから秋の味覚のおいしい果物をたくさんいただきました。腹が満ちたら空身で北峰にお散歩（湯ノ丸山は二つ峰があります）。南峰に戻り恒例の記念撮影となりましたが、小浜さんのご家族はまだ見えず残念。

山は初心者とのことで心配でしたが、携帯も通じる良い時代。小浜さんはその場でご家族を待つことになり、私たちはもう一つのピーク烏帽子岳を目指しました。鞍部まで一気に急降下。鞍部にはかわいい実をつけた大きな木が一本立っていて、素敵な自然の休憩でした。ここからは自分の体力と相談し余力のある人たちは烏帽

子岳ピストンへ。

烏帽子岳付近は紅葉が始まっていて秋の様相でした。山頂では浅間山が浮き出るように美しく、新潟の山々も見ることができました。鞍部から元の地蔵峠まではなだらかな良い道でした。明るい林はずっと歩いていたいようでした。烏帽子岳から降りる途中にコケモモの実がたくさん実っていて、小口さんが手のひらいっぱいに採って私にくださいました。これは後日、小さな鍋で砂糖と煮たらおいしいジャムになりました。ちょうど食パン 1 枚に塗れる分で、山を想い出しながらいただきました。

15 時 30 分に地蔵峠に下山。ここでやっと小浜さんのご家族とお会いできました。烏帽子岳はカットして降りてきたとのこと。軽いハイキングだと思って来たのでかなりきつかったそうですが、これに懲りずに是非またご参加ください！体が山歩きに慣れたらしめたもの。日常生活では体験できない感動が待っているのですから。

ご参加された皆様、お疲れ様でした。またご一緒できますことを楽しみにしています。

下山口・地蔵峠で、やっと全員集合

小レスト１の②

2004 年 12 月 4 日　第 12 回　越前岳

2005 年 12 月 10 日　第 15 回　大菩薩嶺

■　第 15 回　大菩薩嶺

ＯＢ山行委員長　小野恵美子（34 期）

日　程：　2005 年 12 月 10 日（土）
行　先：　大菩薩嶺（2057m）
行　程：　塩山 9:00＝上日川峠 9:30-10:00→福ちゃん荘 10:22-30→休憩 11:13-18→雷岩 11:30-31→
大菩薩嶺 11:37-42→賽の河原 12:08-45→大菩薩峠 12:58-13:07→石丸峠 13:33-34→
下の林道 14:15-20→上日川峠 14:45-50
参加者：　嘉納(1)、吉野(2)、谷上(4)、小林(7)、松本弘(7)、松本真(8)、下村(10)、山本(10)、安藤(11)、
榎本(12)、小口(14)、山下(17)、Ｌ小野(34)　　計 13 名

去る 12 月 10 日の土曜日、日本百名山の一つ大菩薩嶺に登ってまいりました。山には数日前に降った雪がかなり残っていて、予想もしなかった雪山歩きを楽しみました。

朝 9 時塩山駅に 13 名が集合。10 期下村さんがＯＢ山行初参加です。少し寒いけれどお天気は上々、マイカーに分乗して登山口へ。

但し先の林道も凍結しているかもしれないとのことで、途中、営業前の大菩薩の湯に駐車させてもらい、雪道仕様の谷上さんと小林さんの車に皆乗り込んで上日川峠へ。

高度が増していくと、辺りはすっかり雪景色になりました。車を降りて開会式。そこで嬉しいプレゼント。下村さんからあったか～いお汁粉、安藤さんからかわいいキャンディーの詰め合わせの差し入れです。本当においしかった！ありがとうございました。

食いしん坊の私はそこですっかり満足したのですが、「そこに山があるから」やはり登らなければと支度をして（嘉納さんは立派なアイゼンを装着されました）10 時から登り始めました。

並んでザクザクと雪の上を歩いて行きました。とても気持ちが良い。福ちゃん荘まで来て、山下さんが足を痛めているとのことで別コースを行くことにされました。自分の体調に合わせて無理をしないのは大事ですね。きっとそちらのコースも素敵な山歩きだったでしょう。私たちは唐松尾根を登って大菩薩嶺を目指しました。雪の白と空の青が何とも美しく、幸せな気持ちになりました。振り返ると富士山と大菩薩湖の雄大な景色が。この日の富士はシルエットのように黒っぽく浮かび上がって見えました。横にもくもく雲をなびかせ、パーマをかけたようでした。少し汗ばみながら雷岩まで登りつめると、そこは冷たい風が吹きさらしで、じっとしていられない寒さでした。すぐに大菩薩嶺の頂をピストンして先を急ぐことにしました。

頂上は木々に囲まれて展望が無く、狭くて意外な程地味ですが、やはり恒例の記念撮影。そこからは寒さとの闘いでした。富士山を横目で見ながら早歩き。ちょうど 12 時に賽の河原の避難小屋に逃げ込んで昼食となりました。きれいな景色を楽しみたいのに寒さには勝てない。人間ってやっぱり自分を守ることが第一なんだなあと、なぜか切ない気持ちになったりして。

休憩も 40 分そこそこで出発、大菩薩峠に向かいました。峠

は中里介山の記念碑、句碑、売店などがあって頂上とは打って変わって華やかです。ここで山下さんと再会し、全員揃って記念撮影となりました。歩いて来られた道を戻る山下さんを見送って、私たちは石丸峠を経て上日川峠に戻ることにしました。

熊沢山という小ピークを越える日陰の道はまさに雪山。予想外の急登で皆少々無口になりました。石丸峠は熊笹が一面に広がる気持ちの良い場所でした。そこからまた登ったり下ったりしながら上日川峠へと戻りました。途中、「こっちの林道を行ったほうが近いのではないか」「何で最後に登りがあるのだ」などと賑やかなブーイングもありましたね。

皆様お疲れ様でした。楽しく貴重な山歩きでした。車を停めた大菩薩の湯にゆっくりと浸かり、帰路に就きました。

レスト②

シニア月例山行との合同

吉野大次郎（2 期）

ＯＢ山行は 2000 年 10 月第 1 回北横岳でスタートしました。当時はＯＢ山行委員会はなくて、田村総務委員長（34 期）がリーダーを勤めました。そしてＯＢ山行は年 3 回開催せよと言われました。専任の山行委員もいなくて、年 3 回とは無茶な話です。

働き盛りの田村総務委員長は、勤務が多忙でなかなか 2 回目が開催できません。年が変わり 2001 年になっても第 2 回が計画されませんでした。このまま途切れてしまっては困ったなと思い頭を悩ませている時、ふとシニア月例山行と合同という形を思いつきました。シニア月例山行は 1999 年 1 月に始まり、その時はすでに 2 年を過ぎて、毎月 1 回の月例山行が定着していました。そして 2001 年 3 月、第 2 回ＯＢ山行は第 25 回シニア月例山行との合同という形で茅ヶ岳で開催されました。

その年の第 3 回篭ノ登山からは小野恵美子さん（34 期）がリーダーになり、秋には総務委員（ＯＢ山行担当）に就任しました。そして翌 2002 年の 11 月ＯＢ山行委員会が新設され小野ＯＢ山行委員長が誕生しました。しかし、しばらくの間は小野委員長も多忙を極め、たびたび同様の状況に陥ったため、2002 年 8 月第 5 回那須茶臼岳、2003 年 5 月第 7 回榛名山、2004 年 8 月第 11 回磐梯山がシニアとの合同で行われました。これでシニアとの合同山行は計 4 回となりました。

案内状は両者連名、リーダーも両者から 1 名ずつ出すという形でしたが、実質は、シニアの計画にそのまま乗っかり、シニアに引率されて登山したものであり、ＯＢ山行の関係者は内心忸怩たるものがあったのではないかと推察しております。

しかし、そのおかげで、2002 年は合同を取り入れても年 2 回しか開催できませんでしたが、2003 年からは、きちんと年 3 回のペースで実施され、今年めでたく第 50 回を迎えられたことはご同慶に堪えません。

小レスト2の②

2016 年 5 月 13 日　第 16 回　檜洞丸

■　第 16 回　檜洞丸

ＯＢ山行委員長　小野恵美子（34 期）

日　程：　2006 年 5 月 13 日（土）
行　先：　檜洞丸（1601m）
行　程：　新松田 8:10→西丹沢 8:45-9:02→休憩 9:41-46→休憩 10:24-30→展望台 10:49-53→休憩 11:13-19
→檜洞丸 12:12-42→大笄 13:12→休憩 13:15-20→小笄 14:06-11→犬越路 14:51-15:01→
用木沢出会 15:56→西丹沢 16:22-35
参加者：　吉野(2)、谷上(4)、山本(10)、榎本(12)、Ｌ小野(34)　　計５名

5 月 13 日は天気予報どおり（予報よりも悪く）朝から雨でした。16 回目のＯＢ山行は、YWV のホームグラウンド丹沢の檜洞丸登山を予定し、10 名が参加をご希望されましたが、体調不良や天候の影響で一人減り二人減り・・・。当日、西丹沢自然教室前に集まったのは５名でした。

これは中止にした方がいいのかなと思っていると、山本さんが颯爽と雨具を着始めました。今日のコースは現役時代から実に 30 年振りで、絶対に登るつもりで千葉県佐倉市のご自宅から駆けつけたとのこと。その迫力に押されて残りの４人も雨の中登る支度を始めました。心が決まれば早いもの。色とりどりの雨具を着たゴレンジャーの誕生です。

檜洞丸山頂　ゴレンジャー

9 時過ぎには元気に歩き始めていました。自然教室の番犬（とても人なつっこい）が見送ってくれました。

頂上までの標高差は 1000m以上、登り甲斐があります。雨の中展望も無く黙々と歩くのですが、木々の緑から鋭気をもらいました。新緑の時期を過ぎ濃くなり始めた緑は、雨に濡れて一層つややかに美しく見えました。時々びっくりするほど大きな木にも出会いました。

ツツジ新道という名のコースで期待していたのですが、花の時期には少し早かったようです。それでも所々緑の中に薄紅色の花を見つけ、宝探しのように楽しみました。山頂近くではまだ山桜も咲いていました。クサリと階段の続く急登を進み 12 時 15 分檜洞丸の頂に到着しました。中央に小さな祠のある広い山頂ですが、この日は人影もほとんど無く、私たちも雨と寒さの中急いで昼食をとりました。「やっぱりこんな日に登るのは山バカだね」と笑いながら。

サクラの木の下で山バカ５人

下山は石棚山から箒沢へのコースを予定していたのですが、犬越路経由で用木沢に下りるコースを行きたいと意見がまとまり、急遽変更しました。後者のほうがコースタイムも長いのに、本当に山バカです。でも下りはじめて 40 分位した所で、きれいな花（コイワザクラというそうです）が咲いていて得した気分になりました。

コイワザクラ

マメザクラの木の下で記念撮影をし、1 ヶ月遅れのお花見を楽しみました。犬越路までの道はあまり人が通らないようで、倒木があったり幻想的な風景が見られました。しっとりとした良いコー

スでした。
　ぐるりと一周した形で自然教室に戻った時は 16 時を過ぎていました。休憩中もほとんど座らず、本当に良く歩きました。丹沢の大きさを改めて感じました。こんな天候でも山歩きができて嬉しかった。雨の日には雨の日の美しさがあります・・・というのは雨女の遠吠えでしょうか。中川温泉で疲れた体を癒し帰路に就きました。心地よい疲労でした。

■　第 17 回　瑞牆山

ＯＢ山行委員長　小野恵美子（34 期）

日　程：　2006 年 9 月 9 日（土）
行　先：　瑞牆山（2230m）
行　程：　韮崎＝瑞牆山荘 9:32-35＝下山口 9:45＝瑞牆山荘 10:00-02→富士見平 10:34-45→天鳥川 11:04-10→休憩 11:42-48→瑞牆山 12:24-13:00→元祖岩 13:37-45→不動滝 14:13-20→小川山林道 14:56-58→瑞牆山荘 15:10-12
参加者：　吉野(2)、谷上(4)、井上(7)、安藤(11)、小口(14)、狩野(14)、永石(狩野友人)、笹倉(30)、Ｌ小野(34)　　計 9 名

　9 月 9 日韮崎駅 9 時集合。瑞牆山山行には 9 人のメンバーが集まりました。この日は 9 がラッキーナンバーです。天気は良く、暑過ぎず清々しい一日でした。マイカーに分乗して瑞牆山荘前へ。ドライバーの皆さんは車を下山地まで置きに行ったため、他のメンバーは一足先に 10 時前に歩き始めました。朝の爽やかな山道をのんびり歩いて富士見平小屋前で休憩をとると、まもなく後発組が追いつきました。ここからは揃って出発。少し下って天鳥川を渡ったところでまた休憩。まずここで大きな岩との出会いがあります。岩の横の階段を上ると、その先は急登が続きます。シャクナゲの木がたくさんあり、花の時期はきれいだろうなぁと想像しながら歩きました。大ヤスリ岩、トサカ岩と呼ばれる巨大な岩が頭上に現れると、そこからは巨岩・奇岩のオンパレードです。思わず口をあんぐりと開けて見上げてしまいました。どうして山のこんなに高いところにあんなに大きな岩がたくさん乗っかって落ちないのでしょう。妙な隙間があったり変に水平な面があったり今にも落ちそうだったり。わくわくしながら歩きました。

　12 時 20 分過ぎに山頂に到着。岩だらけの頂で、高山の雰囲気です。雲が多く霞んでいて、残念ながら展望はあまりありませんでした。すぐ近くの金峰山もほとんど見られませんでしたが、お隣の小川山が瑞牆山と対照的な緑におおわれた丸い山容を見せていました。
　岩の上でのんびりと昼食と記念写真をとった後、下山路へ。北側の不動沢に下りていく道を行きました。林の急坂を過ぎるとややなだらかになり、そこからは岩と木と水が楽しめる変化に富んだ良いコースでした。弁天岩、夫婦岩など名前のついている岩がいくつもあり、名前をつけたい岩もいくつもありました。奇岩好きな人（？）にはたまらないコースです。岩の上に木が茂っているところもあり、岩と木々が同じ空間に溶け合っている感じが私は好きでした。きれいな沢で長い休憩をとり、みんなで冷たく澄んだ水に手を入れて、癒しのひとときを過ごしました。灰色の巨大な岩肌を水が流れ落ちてくる不動滝もなかなかの迫力でした。新しい木橋をいくつも渡って下山地の林道終点に到着。増富温泉にゆっくり浸かり、産地の野菜と林檎をお土産に買って帰路に就きました。　瑞牆山は眺めて美しい山、登って楽しい山。百名山に選ばれているのもうなずけます。充実した良い山行でした。

■　第 18 回　矢倉岳

ＯＢ山行委員長　小野恵美子（34 期）

日　程：　2006 年 12 月 2 日（土）
行　先：　矢倉岳（870m）
行　程：　新松田 9:01＝矢倉沢 9:30-44→休憩 10:19-25→休憩 11:00-08→矢倉岳 11:26-12:03→
　　万葉公園 12:51-52→足柄峠 13:35-40→地蔵堂 14:23-25＝新松田 15:10
参加者：　吉野(2)、谷上(4)、古宮(7)、松本(7)、下村(10)、山本(10)、安藤(11)、榎本(12)、小口(14)、
　　小浜(17)、Ｌ小野(34)　　計 11 名

暖かな冬晴れの下、足柄の矢倉岳に登って来ました。新松田駅に元気に 10 名が集合。揃って 9 時発のバスに乗り込みました。登山口の矢倉沢でバイクでいらした榎本さんと合流。開会式を行い、早速歩き始めました。

なぜか雨の想い出が多いＯＢ山行ですが、この日は文句なしの最高の登山日和でした。

見上げる山々の紅葉が美しく、足取りも軽くなります。この季節ならではのやわらかい日光とすっきりした青空は、色とりどりの紅葉によく似合います。みかん畑や小さな神社の横を通り、登山道に入って行きました。標高 870m の矢倉岳はこんもりとしたかわいい山ですが、登りはかなり急傾斜で、いい汗をかきました。足元で落ち葉がカサコソと楽しい音をたて、見上げると日を浴びた紅葉が美しいグラデーションを見せてくれました。2 回の休憩をとり、11 時 25 分に山頂に着きました。眼前には大きな富士山が。少し雲がかかっていましたが、雪をかぶった美しい富士山でした。箱根方面はやや霞んでいましたが、金時山や明神ヶ岳等なじみの山が並んでいます。

1 時間半程の登りでこの景色が見られるのは、得した気持ちになります。広い山頂には多くの人がいました。私たちも景色を楽しみながらお昼ご飯を食べました。谷上カメラマンのシャッターで恒例の集合写真撮影をして頂を後にしました。下山路は檜林が続きます。「昼なお暗き」しっとりとした道で、登りとはまた違った趣でした。1 時間程下ると足柄万葉公園に入りました。万葉集の中から足柄にまつわるものや木の名前が入った歌があちこちに書かれていて、読みながら歩きました。「これはなかなか色っぽい」（恋の歌が多くありました）「これはひねりが無い」等々、好き勝手に鑑賞し、時間をかけて楽しみました。思いを言葉にするのは素敵なことですね。昔の人は今よりもずっと感性が豊かだったのだな、と改めて感じました。

足柄峠まで足を延ばし、関所跡でさらに昔日に思いを馳せました。年譜によると足柄の歴史は日本武尊にまで遡り、数々の歴史上の人物がこの峠を越えているのでした。

そんな重みとロマンを感じながら足柄古道を下っていきました。地蔵堂のバス停では 2 時 30 分発のバスが停まっており、ちょうど良く全員飛び乗りました。歩程 3 時間 40 分のコースでしたが、中身の濃い充実した山行になりました。

帰り道、万葉集にちなんで私も一首詠んでみました。

足柄の紅葉愛(もみじめ)でつつ　古(いにしえ)の　心に触れる今日の幸せ

（掛けことばも含みもありません。お粗末）

■　50 周年記念山行　台湾 玉山

安藤貞利（11 期）

日　程：　2007 年
4 月 29 日（日）成田―台北　天成ホテル
4 月 30 日（月）マイクロバスと台湾高鉄に分かれ台北発＝嘉義駅にて合流＝阿里山大飯店
5 月 1 日（火）阿里山＝上東埔＝塔塔加－孟緑亭休憩所－西峰観光台－大峭壁－排雲山荘
5 月 2 日（水）排雲山荘－玉山山頂－排雲山荘－大峭壁－西峰観光台－孟緑亭－塔塔加＝
上東埔ロッジ＝台北康華ホテル
5 月 3 日（木）台北観光（關渡自然公園、故宮博物院、士林夜市）
5 月 4 日（金）台北－成田　6 名帰国
5 月 7 日（月）台北－成田　2 名帰国
行　先：　台湾　玉山（3952m）
参加者：　郡司(4)、松本(7)、佐木(8)、下村(10)、丸山(11)、Ｌ安藤(11)、榎本(12)、小野(34)　計 8 名

台湾の玉山の海外山行は、50 周年記念行事として計画され、広く参加者を募り 8 名もの大勢の方が参加され、無事全員山頂を踏んで帰国できたことを報告します。

玉山は、3952m と富士山よりも高いため高山病の心配もあり、また参加者の平均年齢が 58 歳と体力的にも衰えてきていることもあって、事前に六ッ石山でトレーニング登山をしました。そのほか、各自、四国遍路、大山、六ッ石山でトレーニングをしたそうです。

台湾の登山は、事前許可制でガイド付きで行うことになっているため、旅行の手配はすべて旅行会社に依頼をしました。そのため、一般公募の登山と変わらない行程になりましたが、ワンゲルＯＢ会という仲間で、和気藹々と時には助け合いながら、みんなが一体となって登ることができたワンゲルらしい山行でした。

1 日目は、成田から台北への移動で、成田では鈴木記念事業実行委員長に見送りをしていただき、8 名の海外登山隊が出発しました。

2 日目は、阿里山まで移動して、阿里山大飯店に宿泊。阿里山まで、麓の嘉義からマイクロバスで一気に 2200 m を 2 時間半で登りました。嘉義は、まさに亜熱帯という晴天で日差しが強い天気でしたが、阿里山は杉の木の生える温帯気候へ変わり、阿里山駐車場に到着した時は、土砂降りの雨でした。幸いすぐに雨は上がりましたが、肌寒い気温でした。夜は翌日からの登山に備え、翌日の天気、装備などを打ち合わせる作戦会議を開きました。この 2200m にある阿里山での宿泊が、高度順化に役立ったようです。

3 日目は、いよいよ登山開始となりましたが、天気予報が外れて塔塔加を出発するときは大雨となり、前から心配していた通りとなりました。幸い登るに連れて小降りとなり、太陽にガンガン照らされるよりはましな登りでした。ガイドの林さんは、台湾百岳を登ったというベテランで、コースタイムよりかなり早く排雲山荘へ着きました。山荘は玉山へ登るこのメインルート唯一の小屋で、100 名弱が宿泊できますが、登山者はこの宿泊人数で制限されており、山が人の手で荒らされるのを防いでいます。その日は、翌日に備え 7 時にはシュラフに入って休みました。

4 日目は、2 時前に起きて用意されたお粥を食べて山頂を目指し出発。ヘッドランプを点け、月明かりの中を黙々と登って行きました。他のグループの明かりを前後に見ながらジグザグのガレ場をひたすら登り、岩場を登っていく頃には薄明るくなっていました。玉山北峰からの道を合わせ、いよいよ頂上への最後の急登となりましたが、風が強く、前夜ほとんど眠っていなかったこともあって一番苦しいところでした。登り終えるとそこは頂上でした。全員の心がけが良かったせいもあり玉山山頂から 360 度の展望を楽しむことができました。頂上からの日の出は雲の中で見られませんでしたが、お茶を飲んでいる間に待望の太陽が顔を出して記念撮影をして下山しました。小屋で荷物をまとめて、昨日来た道を下りて来ましたが、太陽が後ろから照る中で、昨日は雨で見えなかった、日本の山とは違う峻険な山の景色を楽しみました。

お昼に登山口に着き、近くの山荘で昼食を取りましたが、いざビールで乾杯をしようとビールの注文をしたところ、“没有”（メイヨウ）でした。台湾では、山中でのアルコール類の販売はしていませんでした。これは、

今回の山行の中で最大の誤算でした。全員意気消沈で出された料理も半分以上残してしまいました。結局、打上は、台北のホテルに戻ってから盛大に行いました。

５日目は台北で観光して、帰国しました。

玉山は台湾最高峰で台湾人にとって一度は登りたい山になっており、日本人にとっての富士山と同じです。われわれが登った時は、台湾では平日だったにもかかわらず、若い人から年輩の人まで登っていました。“加油、加油”（チアヨウ）“ガンバレ、ガンバレ”とすれ違う人に声を掛け合っていました。ルートは整備が行き届き、太いパイプの基礎の上に板を張った頑丈な橋が、危険個所に架けられていました。台湾の陳水扁総統も数年前に登っていて、その時道を整備したのではないかと思われます。

登頂を果たした玉山をバックに

今回の海外山行は、台湾という食の国でしたので、食事はおいしく毎回満腹になるまで食べていたので、帰る時には体重が増えていたという幸せな山行でした。機会があれば、また海外の山を登りたいと思っております。

■　第 19 回　畦ヶ丸　（50 周年記念山行）

白神逸夫（7 期）

日　程：　2007 年 5 月 12 日（土）～13 日（日）

行　先：　畦ヶ丸（1293m）

行　程：　新松田 8:30＝西丹沢 9:15-40→権現分岐 10:13-20→下棚滝分岐 10:22-32→休憩 11:05-10→善六のタワ 11:27→休憩 11:44-50→畦ヶ丸 12:20-24→避難小屋 12:27-13:05→大滝峠 13:35→休憩 13:52-14:00→林道 14:52-15:10→箒杉 15:40→西丹沢 15:45-50→蒼の山荘 16:10

参加者：　嘉納(1)、吉野(2)、松本(7)、林(7)、井上(7)、白神(7)、＊菅谷美(7)、＊池原(8)、鈴木(9)、日渡(9)、上原(9)、三浦(9)、安藤(11)、＊丸山(11)、榎本(12)、＊山川(12)、小口(14)、狩野(14)、小浜(17)、白須(17)、山口(18)、向井(18)、鴨志田(22)、鴨志田周(24)、同娘、笹倉(30)、Ｌ小野(34)、石川(41)、塩野(46)、石倉(50)、中野(51)、マーティン(51)

〈＊宿泊のみ、＿登山のみ〉

登山・宿泊 16、登山のみ 12、宿泊のみ 4、登山計 28 名、宿泊計 20 名

登山当日は快晴、登山参加者は同伴家族含め 28 名、当日の中川温泉宿泊者は 20 名となった。

ＯＢ、現役共健脚者揃いで、メンバーには、創設時の１期から本年入部の新人までおり、途中新旧の会話や、現役時の思い出を語り合う姿も見られた。頂上直下で宝くじを景品とする抽選会を行い、盛り上がった。

夜の宴会では、各期の自己紹介、スライドによる台湾遠征報告などが活発に行われた。

西丹沢・畦ヶ丸山頂にて

■　第 20 回　妙高山（50 周年記念山行）

山本陽一（10 期）

日　程：　2007 年 10 月 13 日（土）
行　先：　妙高山（2454m）
行　程：　妙高高原 6:10＝燕温泉 6:30-50→休憩 7:19-23→休憩 7:54-59→休憩 8:40-45→天狗堂 9:23-33→休憩 10:23-33→妙高山 11:17-12:02→天狗堂 13:12-20→大谷ヒュッテ 13:44-54→休憩 14:30-37→リフト上 15:02→新赤倉温泉
参加者：　嘉納(1)、吉野(2)、宮崎(2)、小林(7)、山本(10)、Ｌ安藤(11)、榎本(12)、小口(14)、葛窪(17)、小浜（17)、長谷川(17)、渡辺(17)、山口(18)、小野(34)、塩野(46)、小林(49)、高岩(50)、石倉(50)、渡辺(51)、田辺(51)、茂呂(51)、中野(51)　　計 22 名　　平均年齢 43.73 歳

妙高山は私が 1 年生であった 1966 年の夏合宿で登った山だ。

その隊の名称は「名香山隊」、妙高山の昔の名前からとったものだ。

その山がこの記念山行の目的地に選ばれたとは何ともめでたいことである。

10 月 13 日（土）朝 6 時過ぎにＪＲ、バスで上越に来た 4 人を乗せた妙高 2 号は妙高高原駅に着いたが、何と雨が降っていた。吉野さん、宮崎さんなどの出迎えを受け、車で来たメンバーを合わせて燕温泉に全員が集合した。

そこには最近階段で脚を痛めた 8 期の佐木さんも見送りに来てくれた。メンバーは 1 期から 51 期まで（70 歳から 18 歳まで）の 22 名。平均年齢は推計 44 歳であった。出発する頃になると、雨が上がってきた。6：50 に出発。先頭は 50 周年記念山行委員長の 11 期安藤さん、殿（しんがり）は 2 期吉野さんと思われたが筆者は前の方にいたため確認はしていない。登山口とおぼしきところに登山者カウンターがあり通過した人数を数えている。ここまでは舗装された車道で、この先は細い道に入るが、そこも舗装されている。源泉小屋に行くためのようだ。しかし右側は深く切れ落ちておりバランス感覚の鈍ってきた中高年には一寸怖いところもあった。道ばたには所々温泉が湧いていて硫化水素の臭いが漂っている。前方に滝が見えたところで休憩。ここも足元が切れ立っておりやはり怖い。ここからもしばらくは沢沿いに歩く。他の登山パーティーとは抜きつ抜かれつ状態となるが、そのたびに 22 人が通過するので相手のパーティーには迷惑であったと思われる。

麻平分岐を過ぎると、いよいよ尾根への登りで急登となった。登山者が多いせいか登山道が深くえぐれたところがありアルバイトを強いられた。胸突き八丁という急坂を過ぎると広場に出た。（9：20）そこが天狗堂という分岐であった。今山行のＯＢ中の最大勢力である 17 期が自然の中の生活と都会生活のバランスについて議論していた。

ここにも登山者カウンターがある。この記録はどのように利用されているのだろうか。ここからしばらくは傾斜が緩く、光善寺池という池もある。その先には冷風が吹き出しているという風穴があったが、なぜか風は殆ど吹いていなかった。

この当たりから山頂部に入り傾斜が急になってくる。その入口が鎖場という名前の岩場になっている。鎖場を過ぎても山頂までずっと急登が続くが、足元には粉砂糖のような新雪が現れてきた。また、西方には北アルプスの山々が望まれた。

11：00 安藤委員長の予定通り妙高山南峰に到着した。妙高山の最高点即ち山頂はこの南峰であり、それが 2454ｍという妙高山の標高となっている。かつては、山の標高は三角点の標高で表わされており、妙高山の標高も北峰にある一等三角点の高さ 2446ｍとされていた。

今から 10 年ほど前、国土地理院は山の標高を見直し、三角点ではなくて最高点をその山の標高とすることにした。妙高山の標高もこれに倣って南峰の標高である 2454ｍとなった。

しかし、北峰の方に三角点があり、広くて休むのに向いているため、2446m三角点の目の前に2454mという標識が建っているという奇妙なことになっている。その北峰の頂上で昼食を取り、記念撮影をした。

また筆者は一通り現役諸君との相互紹介をした。

頂上に名残を惜しみつつ天狗堂まで往路を戻る。(13：09) ここから右にコースを取り新赤倉温泉へ下る。すぐに林道に出て、しばらく行くと大谷ヒュッテが建っている。無人だが綺麗な小屋であった。林道をそのまま行くと山小屋の近くに出るのだが、工事中のため通行止めになっている。しかたなく左の山道にはいるが、結構傾斜がきつく最後の力を振り絞って歩くといった状態となった。その甲斐あって前方が開けスキー場に飛び出した。すぐ下にスカイケーブルの駅があった。(15：00) ここで一応記念山行は終了した。が、歩き足りない(？)現役と34期の小野さん(普段のＯＢ山行委員長)と筆者は、スキー場のゲレンデを滑るように下っていった。新赤倉温泉の岡山館で汗を流して記念山行は完了した。

仙人池・トウヒの森散策　　山本陽一(10期)

参加者：　高橋(8)、綾部(8)、鈴木(9)、山本(10)、Ｌ安藤(11)、大森(11)、小口(14)、鈴木(14)、葛窪(17)、小浜(17)、長谷川(17)、山口(18)、笹倉(30)、小野(34)　　計14名　平均年齢54.4歳

苗名小屋での記念式典から明けた10月14日(日)は、小屋と笹ヶ峰牧場の間にある仙人池と笹ヶ峰ドイツトウヒの森を散策した。メンバーは8期から34期まで14名。因みに平均年齢は昨日より10歳増しの推計54歳であった。

9：30 に小屋を出発し笹ヶ峰牧場へと続く車道を歩いて行くと昨日登った妙高山が遠望できる。都会の道路と違って、通過する車が例外なく徐行してよけてくれるのが嬉しい。標識もない分岐を左に曲がると仙人池である。すると昨晩聞いたアルプホルンの響きが漂ってきた。8 期の池原さんたちホルンの会の皆さんが先回りして池を囲むようにしてホルンを演奏していて、後から来る我々をホルンの音色で迎えてくれたのだ。池の周囲は響きもよく、我々散策隊は大いに喜んだ。暗い中で聞くよりはこの池の畔で、池に写る黒姫山を眺めながら聞くアルプホルンの方が何倍も素晴らしく、思わず「Sound of Music」の世界にいる気分になった。

池を半周すると今度は逆さ妙高が見られた。ホルンの音色とお別れし、トウヒの森に向かう。途中にヤマブドウがあって皆で味見をするが、味は今一であった。

階段状の道をかなり下るとドイツトウヒの森がある。皆が持ってきた食料を回してここで昼食にするが、小屋に沢山残っていたビールを持ってこなかった事を悔やんだ。この先の広場を探索し、そこから帰路についた。

この広場の藪の中で筆者だけが鮮やかな青い実を見たが、その鮮やかさが印象的であった。来る時に下った分を登り返し県道に出ると、笹ヶ峰牧場の向こうに1966年の夏合宿で登った焼山、天狗原山等が眺められた。下りの車道の長さにうんざりしたころ小屋に着いた。(13：00)

苗名小屋での祝賀会・懇親会

苗名小屋での50周年記念祝賀会・懇親会は、会員41名＋部外者6名＋来賓の岡田氏という多くの人の参加を得て行われました。

祝賀会では嘉納ＯＢ会長、後藤小屋委員長のご挨拶の後、記念植樹(ヤマザクラ苗木 10本)を行いました。

懇親会では、名物のバーベキューや闇なべをお腹一杯いただきながら、特別ゲスト；玉川アルプホルンクラブの合奏、全員合唱、エール交換、踊りなどで楽しく過ごしました。

五右衛門風呂にも入浴して、翌朝は小屋の修理もしっかりやりました。(YWV ＯＢ会ホームページより)

■　第 21 回　蕨山

ＯＢ山行委員長　小野恵美子（34 期）

日　程：　2008 年 2 月 16 日（土）
行　先：　蕨山（1044m）
行　程：　名郷 9:28→休憩 10:12-22→休憩 11:43-50→休憩 11:25-35→蕨山 12:23-55→藤棚山 13:17-22→大ヨケの頭 13:52-57→金比羅宮 14:45-56→さわらびの湯 15:26-16:50
参加者：　吉野(2)、谷上(4)、佐木(8)、鈴木(9)、下村(10)、山本(10)、安藤(11)、榎本(12)、山口(18)、直井(28)、Ｌ小野(34)　　計 11 名

今年は東京でも何度か雪が降り、2 月の半ばという最も寒い時期に、山に行きたいという人がどれだけいるのだろかと不安がありましたが、さすがは YWＯＢ会です。11 名が飯能は名郷のバス停に集まりました。ドタ参あり、初参加あり、賑やかな開会式の後、早速歩き始めました。

この日はすっきりとした冬晴でしたが、ちょうど一週間前に降った雪がどの位残っているか心配でした。最初の林道から雪があり、山道に入るとかなりの残雪。

歩き始めて 30 分で、アイゼン装着のレストとなりました。山行案内で「防寒対策はしっかりと。念のためアイゼンの準備を」と書いていたことを、皆さんしっかりと守ってくださっていました。書いた本人が忘れて、お借りすることに。雪道では、滑り止めがあるのと無いのとで歩き易さはまったく違いました。山をなめてはいけません。装備は万全に。（反省）

尾根に出ると、遠く新宿の高層ビルまで望めました。蕨山はかわいい名前の低山ですが、この登りはかなり急です。雪も多いところでは 30ｃｍほど積もっていたでしょうか。直登の正規ルートを逸れて、歩き易いところに足跡がついている箇所もありました。澄んだ空気と良い景色、足元は白い雪。どこか遠くの雪山に来たようで嬉しくなりました。

出発から約 3 時間で山頂に到着。最高点（1044m）は少し離れたところにあり、見晴らしの良い展望台（1033m）に蕨山の標識があります。遠くに雪を被った日光の山々まで見ることができました。奥多摩、丹沢方面も雪混じりでとても綺麗でした。この気持ちの良いピークで昼食と記念撮影。下山路に就くと、すぐに雪の急坂がありました。大先輩であるＯＢ諸兄が、ルート脇の踏み跡の無い雪の上を子供のように駆け下りていたのが印象的でした。足跡の付いていない真っさらな雪の上を歩きたい好奇心は、年齢を問いませんね。

その後は小ピークを越えながら、長く緩やかなコース。右下に名栗湖の緑の湖面が見え、金比羅神社跡でお世話になったアイゼンを外しました。さらに下って、下山地さわらびの湯のバス停に到着。ここで閉会式となりました。

さわらびの湯に浸かって疲れをとりました。その後数名はすぐ近くにあるという 18 期向井さんの山荘に招かれ、アフター登山を楽しまれたようです。

湯を出ると冬の穏やかな夕暮れで、一日雪の上を歩いてきたことが夢のようでした。

■　第 22 回　笠取山

ＯＢ山行委員長　小野恵美子（34 期）

日　程：　2008 年 5 月 17 日（土）
行　先：　笠取山（1953m）
行　程：　塩山 9:05→作場平橋 9:55-10:13→ヤブ沢峠分岐 10:36-41→休憩 11:12-16→笠取小屋 11:37-12:08→急坂上 12:50-55→笠取山 13:05→水神社 13:25-30→黒エンジュ 14:03-07→一休坂分岐 14:43-47→作場平橋 15:20
参加者：　嘉納(1)、吉田(1)、吉野(2)、腰塚(3)、谷上(4)、小林(7)、鈴木博子(7)、松本(7)、松本(8)、佐木(8)、鈴木弥栄男(9)、山本(10)、山本夫人(部外)、山本友人(部外)、榎本(12)、小口(14)、山下(17)、Ｌ小野(34)　　計 18 名

新緑の５月の土曜日、笠取山に登ってまいりました。笠取山は多摩川の源流で最初の一滴がここから始まるという山です。でも地味な山容とアプローチの不便さのためかややマイナーであり、ＯＢ山行としてはそれがかえって良かったのか、18 名という大所帯での山歩きとなりました。

電車組とマイカーでのお迎え組は 9 時に塩山駅に集合。この時点ではよく晴れて爽やかなお天気だったのですが、登山口である作場平橋に着いたころには怪しい雲行きに・・・。直接登山口に来た方々と合流し、開会式を行い、気を取り直して 10 時過ぎに歩き始めました。時々雨粒を感じながらも、歩きやすい山道を進み、程無く笠取小屋に到着。立派な山小屋の前は広場になっており、ここで昼食にしました。山桜が咲いていて良いお花見ができました。今回初参加の鈴木博子さんは、現役時代以来の登山とのことでしたが誰よりも重い荷物で来られ、ここで皆にたくさんの差し入れを振舞ってくださいました。おいしいお稲荷さんとサクランボ、ご馳走様でした。

30 分の休憩後再出発。景色が開け、まもなく小さな分水嶺がありました。ここに落ちた雨水は、多摩川、荒川、富士川のいずれかに分かれていくそうです。さらに少し歩くと頂上に向かう急登が見えてきました。山の上に山があるようにきれいな円錐が目の前にあり、標高差約 100m の急勾配にため息が出ました。ゆっくりゆっくり進んで登りきったところが山頂かと思いきや、さらに進んだ狭いところが本当の山頂でした。狭いので数人ずつ記念撮影をしました。少し下って分岐から水干神社までピストン。多摩川の最初の一滴を祀っているそうですが、その一滴は確認できず。実際にはそこからさらに下った水場がそれのようです。そこからは下山の一路。何だか眠くなるようななだらかな下りでした。晴男・晴女と雨男・雨女の攻防が続いていましたが、下山中に雨脚が強くなり、観念して雨具を着けた頃には雷まで鳴り始めました。

やはりここは水の神様の山。水の大切さを思う山行に雨は必要だったのだと雨女は思います。最後に車道を歩き、15 時半に作場平橋に戻ってきました。閉会の後、大菩薩の湯に寄った頃には珍しい天気雨が降っていました。

新緑の中を出発

山頂手前にて

■　第 23 回　火打山（苗名小屋 40 周年記念）

ＯＢ山行委員長　小野恵美子（34 期）

第 23 回ＯＢ山行は苗名小屋 40 周年を記念して、火打山登山と笹ヶ峰散策を実施しました。2 日間にわたり天候、展望、紅葉ともに最高で、参加者も多く、苗名小屋のお祝いにふさわしい山行となりました。

火　打　山

日　程：　2008 年 10 月 12 日（日）

行　先：　火打山（2462m）

行　程：　笹ヶ峰 5:50→黒沢 6:44-54→十二曲り 7:28-35→休憩 8:00-05→富士見峠 8:33-40→高谷池 9:32-40→休憩 10:40-46→天狗の庭→火打山 11:31-12:06→高谷池 13:22-34→富士見峠 14:14-19→十二曲り 15:04-08→黒沢 15:40-43→笹ヶ峰 16:47

参加者：　嘉納(1)、吉田(1)、宮崎(2)、吉野(2)、郡司(4)、諸角(絢)(5)、林(7)、細田(7)、松本(7)、早坂(富)(8)、松本(8)、鈴木(9)、下村(10)、山本(紀)(10)、山本(陽)(10)、山本(陽)友人、安藤(11)、榎本(12)、小口(14)、鈴木(14)、小浜(17)、葛窪(17)、蜷川(17)、長谷川(17)、Ｌ小野(34)、後藤(39)、後藤息女、後藤友人、島田(48)、高岩(50)、茂呂(51)、鈴木(52)　　計 32 名

高谷池にて
背景に火打山を望む

8 時間を超えるコースタイムに備えて、朝 5 時半に笹ヶ峰の駐車場に集合。昨年の妙高山を上回る 32 名が大集結です。それぞれが前日に妙高入りをして、苗名小屋、黒姫のバンガロー（17 期葛窪さんのご主人が経営）、赤倉温泉の旅館に分散して宿泊していました。苗名小屋では予定外にお酒が進み、翌日歩けるのかしらという人もいましたが、暗いうちから起きだして何とか小屋を出発しました。夜中のうちに到着した現役 3 名も眠い目をこすりながら参加。

前日は雨もありましたが、この日は朝から良いお天気。笹ヶ峰の美しい紅葉に期待は高まります。2 つの駐車場は既にほぼ満車の状態でした。開会式、自己紹介の後、6 時前には長い列を作って歩き始めました。直江津のご自宅から直行でいらした 14 期鈴木さんもワンピッチ目で追いつきました。黒沢までの約 1 時間は緩やかな傾斜で木道が続きます。紅葉を楽しみながら歩きました。黒沢には立派な橋が架かっており、渓谷美に見とれながらしばし休憩。39 期後藤さんの 3 歳のお嬢さん安栖香ちゃんは沢遊びにご満悦で、その後お父さんとご友人と一緒に小屋に戻って行きました。

ここからは急登。十二曲りの急傾斜でヒーヒー言いながらも、陽が当たり始めて美しく輝く紅葉に感動していました。新緑は雨でもきれいですが、紅葉にはやはり青空と陽の光が似合います。

秋の山はいくつも登りましたが、私が見た中で一番見事な紅葉でした。登りが一段落して富士見平を越えると、今度は足元のぬかるみに閉口しました。前日の雨と霜が溶け出した山道はかなり歩き難いものでした。雪を被った北アルプスも望め、焼山と紅葉の中に小さく見える高谷池ヒュッテの景色が素晴らしく、周りを眺めたり足元に注意したり、忙しく歩きました。色とりどりのテントが張られ人で賑わう高谷池ヒュッテに到着。広がる湿原と優しい輪郭の火打山は時が止まったような風景です。ここで記念撮影。3 名が黒沢池を経由して下山路につき、残る 26 名が火打山頂を目指しました。天狗の庭までは湿原の中の木道を気持ちよく歩き、雷鳥

平を経て山頂直下の最後の登りです。下山してくる人たちとのすれ違いとここまでの歩き疲れで、かなり時間が掛かりました。それでも振り返ると妙高山と遠く富士山まで見ることができ、励まされました。

11 時 30 分に山頂に到着。北側は日本海が広がり、360 度の大展望が待っていてくれました。妙高山、焼山、雨飾山、戸隠山など近隣の山も美しく、次はあの山へ、という気持ちになります。こんな素晴らしいところに苗名小屋があることの有り難さが、40 周年おめでとうの思いとともに湧き上がりました。こんなに晴れたのも苗名小屋のパワーでしょう。景色を楽しみながら昼食と記念撮影を済ませ、後ろ髪を引かれる思いで下山路につきました。来たとおりの道を逆戻りです。眼下に小さく見えるヒュッテと木道はジオラマのようでした。午後の光に輝く湿原と紅葉を愛でながら、ひたすらに歩きました。

本当にここを登ったのかと思う急な傾斜を降りて黒沢まで戻った時は正直ホッとしました。笹ヶ峰駐車場に着いたのは 16 時を回っていました。

実働 8 時間強、行動 10 時間以上。皆さん本当によく歩きました。充実した山行に満足しながら、苗名小屋での記念式典・懇親会へと流れ込みました。

笹　ヶ　峰（ヒコサの滝コース・夢見平コース）

日　程：　2008 年 10 月 13 日（月・祝）

行　先：　ヒサコの滝

行　程：　苗名小屋 9:15→笹ヶ峰Ｐ9:30-50→遊歩道入口 10:30→ヒサコの滝 11:13-25→昼食 11:41-55→笹ヶ峰 12:28-37→林道 13:02-03→笹ヶ峰Ｐ13:20

参加者：　嘉納(1)、吉田(1)、吉野(2)、林(7)、細田(7)、松本(7)、早坂(富)(8)、鈴木(9)、下村(10)、山本(紀)(10)、安藤(11)、榎本(12)、小口(14)、西浦(15)、笹倉(30)、Ｌ小野(34)　　計 16 名

行　先：　夢見平

参加者：　宮崎(2)、郡司(4)、諸角壮(5)、諸角絢(5)、鈴木（7)、池原(8)、高橋(8)、松本(8)、山本陽(10)、山本陽友人、Ｌ親跡(34)、島田(48)　　計 12 名

翌日はさらに天候が良く、雲ひとつない快晴でした。前夜の懇親会は大いに盛り上がり、皆さんお疲れかと思いきや、この日も 9 時 30 分には 28 名の方々が元気に笹ヶ峰駐車場に集まりました。

苗名小屋では朝からバーベキューの残りを食べ、22 合のお米を炊いて皆で昼食用のおにぎり作りまで行なっていたのでした。

笹ヶ峰散策は 2 グループに分かれ、16 名がヒコサの滝コース、12 名が夢見平コースに参加されました。笹ヶ峰の紅葉は、百名山を記した深田久弥氏が日本で最も美しい紅葉と讃えたのだとか。

ここ数年は遊歩道もきれいに整備され、散策しながらその美景を楽しむことができます。私はヒコサの滝コースを回りました。紅葉を楽しみ、きのこを探し、木の実を拾いながら、のんびりと歩きました。ヒコサの滝は、近くまでは行けず展望台から眺めるだけなのですが、山の岩肌から勇壮に流れていく様は、一見の価値があります。しばし見とれてしまいました。落ち葉の上で昼食をとった後、健脚自慢の 8 名は笹ヶ峰（1544m）まで登りました。笹ヶ峰の名前は現役時代から親しんでいましたが、その名のピークがあるなんて知りませんでした。急登に汗を流しましたが、頂はひっそりと落ち着いた佇まいでした。

2 グループは 13 時半に駐車場で落ち合うことになっていましたが、夢見平のグループがなかなか戻ってきません。これはコース設定が甘かった主催者（私）のミスです。

皆さん本当にご迷惑をおかけしました。それでも、最高の天候と景色の中、皆さんが散策を楽しまれたことと信じます。妙高の自然を満喫し、ＯＢ同士の親睦を深めた秋の連休でした。

〔夢見平コースに参加して〕

松本真理子（8 期）

昔の森林軌道の跡に作られた夢見平遊歩道は、ブナやミズナラ、カラマツなどの大木が自生していて、気持ちよく森林浴ができました。

途中の稲荷神社にお参りをし、夫婦泉では美味しい水を味わいました。

製材所跡で昼食後、引き返してきました。

■　第 24 回　九鬼山

ＯＢ山行副委員長　山口貢三（18 期）

日　程：　2009 年 1 月 17 日（土）
行　先：　九鬼山（970m）
行　程：　禾生 9:10→休憩→9:57-10:03→展望所 10:13-16→展望台 10:58-11:03→九鬼山 11:05-45→
紺屋の休場 12:20-25→稜線 13:00-05→馬立山 13:34-42→御前山 14:23-31→猿橋 15:38
参加者：　嘉納(1)、吉田(1)、吉野(2)、松本(7)、佐木(8)、早坂(8)、松本(8)、下村(10)、山本(10)、安藤(11)、
榎本(12)、小口(14)、小浜(17)、山口(18)、Ｌ小野(34)　　計 15 名

長野、静岡、千葉、東京、神奈川から YWVＯＢ15 名が、山梨県の富士急行線禾生（かせい）駅に 9 時 00 分集合した。今回の九鬼山（くきやま）は、その小さな駅の大きな案内板によると、山梨県大月市が選定した秀麗富嶽十二景のひとつだそうだ。標高は 970mだが、 その後に猿橋までの鬼のように長い縦走が控えている。 いつものように各自の自己紹介をすませ出発した。駅から 10 分ほど車道を歩き明治期の古い水道橋をくぐって少し行った民家の角に小さな道標があり、愛宕神社（道の脇に小さな祠がある程度）からの登山口であることがわかる。道は雪にほぼ覆われていたが、特に問題なく歩けた。

登るにつれ体も温まり調子付く。山頂直下の急登ではさすがに口数がやや減ったものの、終始わいわい言いながら元気に登ることができた。

11 時 5 分山梨百名山でもある九鬼山山頂に到着。ここからも遠くに大菩薩嶺、北岳、雲取山、近くは岩殿山、扇山が見える。しばし景観を楽しんだ後で昼食をとる。

これから先の下りは北斜面となるので軽アイゼンを装着し、11 時 45 分猿橋に向けて縦走を開始した。山頂直下の下りが急なので慎重に足を置かなければならない。トップを行く小浜さんがうまくリードし全員が遅れることもなく九鬼山の難所を下ることができた。12 時 19 分紺屋の休み場という場所に到着し、そこからは小さな登り下りの連続で 13 時 33 分馬立山、14 時 20 分最後のピークとなる御前山に着く。振り返れば九鬼山が小さく見える。よく歩いたものだ。ここから下って 15 時 30 分には全員が猿橋駅に到着していた。

歩行距離 8ｋｍ、標高差登り 830m下り 910m、所要時間 6 時間 30 分（休憩含む）

■　第 25 回　皇海山

ＯＢ山行副委員長　小浜一好（17 期）

日　程：　2009 年 5 月 16 日（土）
行　先：　皇海山（2144m）
行　程：　皇海橋 10:10→休憩 10:48-57→不動沢のコル 11:48-54→休憩 12:25-30→皇海山 12:45-13:25→
不動沢のコル 14:05-15→休憩 15:09-16→皇海橋 15:40
参加者：　嘉納(1)、吉田(1)、吉野(2)、腰塚(3)、谷上(4)、小林(7)、林(7)、松本(8)、早坂(8)、佐木(8)、
下村(10)、安藤(11)、榎本(12)、狩野(14)、小口(14)、山下(17)、小浜(17)、山口(18)、安武(20)、
水田(20)、Ｌ小野(34)　　計 21 名

昔は足尾の庚申山経由で山中泊しないと登れなかった皇海山。『颯爽と峰頭をもたげ、一気に下の沢まで落ちている姿は思わず脱帽したいほど気品をそなえていた』と百名山に数えられている。筆者は 30 年ほど前の現役時代、5 月の残雪期に山中 3 泊の行程で足尾から皇海山に登り、日光中禅寺湖に下りた経験がある。

その時の山行については今回も同行した 17 期山下氏に「これまで山でバテたことが 2 回あるがその中の 1 回」と言わしめる山行であった。まさに『皇海山は今なお静寂の中にある』雰囲気が色濃く残り、踏み跡も定かではなく道に迷い山中で逢った登山者は皆無であったと記憶している。

それが今、 栗原川林道の開通により日帰り登山が可能な山となった。しかし、今にも崖崩れが起きそうな悪路で名高い林道 20ｋｍを 1 時間の緊張するドライブ、連転手の皆様にはお疲れ様であった。

何年か前、皇太子殿下がこのルートを使って皇海山の登山を楽しまれたそうで、その折、林道や登山口である皇海橋のトイレ、駐車スペースも整備されたそうな。登山道も十分わかりやすく今時は百名山ツアーで登る人も多いらしい。隔世の感、これあり。

集合は 8 時半に関越沼田ＩＣから 10 分ほどの道の駅「白沢」。ここは下山後お楽しみの温泉施設「望郷の湯」が併設されている。今回の初参加は、久しぶりの 20 期代、安武、水田の両氏。それぞれ住まいが那須塩原、高崎と地の利を生かした参加であったが明るいキャラに山行の雰囲気もさらに弾んだ。登山が久しぶりとのことだったが、これを機会に登山靴を購入するとの入れ込み。今後の常連化に期待するとともに、これを契機に 20 期代の参加の輪を広げていただきたい。

皇海橋で白己紹介を済ませ 10 時 10 分登山開始。樹林帯を少し登ってから不動沢の沢筋を詰めていく。1 時間半ほどかけて最後の急傾斜を登ると不動沢のコルに出る。ここから観る鋸山の険しい山容が素晴らしい。その後、稜線上の植生豊かな森の道で高度を稼いでいく。12 時 40 分、皇海山の山頂(2144m)は木々に囲まれておりガスも出てきて眺望は今一といったところ。ここで昼食休憩。恒例の谷上専属カメラマンによる記念写真。いつもの軽妙なやりとりに皆が沸いた。13 時 20 分、帰路は今来た道をそのまま戻る。急登のあとは急降下と相場は決まっていて、そこはベテランの用心深さで全員無事 15 時 40 分下山した。

その後三々五々、温泉組と直帰組に分かれて次回第 26 回ＯＢ山行、荒船山での再会を期した。
歩行距離約 7.2ｋｍ、高低差約 800m、所要時間 5 時間 30 分（休憩を含む）

（写真提供　谷上氏）

レスト③

小旗物語

吉野大次郎（2 期）

バスツアーに参加すると添乗員が会社名の入った小旗を持っています。集合に、引率に、写真にと随所に活躍します。それでは我がワンゲルにもと 2001 年に 2 本作りました。色もフォントもデザインも自分で勝手に選びました。1 本 15,750 円の高級品です。そのうち 1 本はＯＢ山行に寄贈し、もう 1 本はシニアＯＢ月例山行（現在はシニアＯＢ月例会）に提供し、こちらからは代金をいただきました。

ＯＢ山行では 2001 年 3 月第 2 回茅ヶ岳から使用しました。以来 16 年、常に小野委員長（現副委員長）が持参し、集合写真には必ず写っています。

実は、私はこの小旗を 2 回紛失しているのです。最初は 2004 年 3 月のシニア月例山行で失くしました。予備はありませんでしたので、新たに 2 本作りました。それで予備が 1 本できました。

2 回目は 2012 年 10 月シニアＯＢの集い塩原で失くしました。また予備がなくなりました。そこで今度はいつ紛失してもいい安いものを 2 本作りました。今度は予備が 2 本になり、それ以降は紛失していません。

結局私は小旗を 6 本作成し、2 本紛失しましたので、現在はＯＢ山行に 1 本、シニア月例会に 3 本、計 4 本あります。相変わらずＯＢ山行に、シニア月例会に活躍しています。

実はもう 1 回失くしているのですが・・・

2008 年 10 月、苗名小屋 40 周年記念第 23 回ＯＢ山行火打山の折、高谷池で写真を撮りました。小旗は上着のポケットに入れてすぐ出発しました。そして頂上で写真を撮る時・・・旗がありません。弱ったなと思いながら下る途中、天狗の庭を過ぎたあたりで前方から登ってくるグループの人が、ワンゲル小旗を掲げて「この旗どなたか心当たりありませんかー！!」・・・いや助かりました。感謝、感謝です。

■　第 26 回　荒船山

ＯＢ山行副委員長　小浜一好（17 期）

日　程：　2009 年 10 月 17 日（土）
行　先：　荒船山（1423m）
行　程：　道の駅しもにた 8:40＝相沢 9:10-15→荒船不動尊 9:40-45→休憩 10:28-35→経塚山 11:10-20→
　　艫岩 12:00-43→休憩 13:24-29→相沢 14:00＝荒船の湯 14:10=荒船不動尊 14:30＝荒船の湯
　　14:50-16:00＝こんにゃく 16:05-20
参加者：　嘉納(1)、塚原(2)、吉野(2)、渡辺(2)、谷上(4)、小林(7)、鈴木(9)、安藤(11)、丹羽(11)、榎本(12)、
　　小口(14)、狩野(14)、小浜(17)、小浜絵梨(家族)、Ｌ小野(34)　　計 15 名

遠くから望むと荒海を航海する船を思わせる異様なフォルム。クレヨンしんちゃんの作者の転落事故で一気に有名になった荒船山である。事故が参加人数に影響しないか懸念されたが、結局15名といつも通り？であった。新顔は11期丹羽さん。還暦を迎えた証の赤いキャップで颯爽と登場、たまに山に出かけているそうで、これを機会に是非常連になっていただきたい。

集合は8時30分、上信越道下仁田ＩＣから10分程度の道の駅「しもにた」に車で三々五々集まった。その後、下山口である相沢に車2台をデポし、登山口の荒船不動尊で1時間以上お待たせした小林さんと合流し、全員集合。お不動様に登山の安全を祈り、記念写真撮影を済ませてから9時45分出発。このルートはガイドブックではサブルートとなっているが、登山道はよく整備されており、一部沢筋を横切る時に多少荒れた部分がある程度でお薦めのコースであった。

登山口　荒船不動

写真提供
4期谷上氏

経塚山頂上

今回の一番の参加人数を誇るのが2期の強力トリオ、塚原、吉野、渡辺各氏。1期の嘉納前会長を含めて、齢古稀以上と察せられるが、とても見えない若々しさ。山をやる人は何時までも颯爽としているのか、我々後輩もお手本として見習いたい方々である。谷上さんはおなじみ専属カメラマン、記念写真ではいつも通りのとぼけた味にその他全員からの突っ込みの構図。鈴木会長は愛娘がアーティスト。安藤さんの昼食のラーメンはいつもうらやましい。榎本さんは笑うと目がなくなることを発見。小口さんとは今や同業者で今度、東京での委員会をご一緒することに。狩野さんの昔から下級生が憧れたクールな美貌は衰えなし。そしてＯＢ山行と言えば小野委員長。看護師の勉学やアルバイトに多忙な中でＯＢ山行には全回参加、これからもよろしく！

11時15分、荒船山最高点の経塚山（1423m）到着。その後、トモ岩までの山頂の稜線は笹と雑木林に覆われた幅広い溶岩台地で、あの岸壁に囲まれた山の上だとは思いつかない平らな散歩道だ。尾根筋の微妙なアンジュレーションに小さな沢も流れている。12時、トモ岩到着。下は断崖絶壁で気をつけたい。眺望は晴れていれば浅間山や妙義山が望めるのだがこの日は残念。展望台にはそこから転落したと思われる作者を偲ぶ献花があり、普段山では見かけないような格好の若い人たちが慰霊のためであろうか、集まっていた。昼食休憩後、12時40分下山開始。本隊11名は車をデポした相沢へ向かい、ベテランワンダラー2人（塚原、渡辺両氏）と小浜親子は荒船不動へ戻る。帰りには全員、「荒船の湯」で集合し疲れを癒した。やはり山と温泉はセットですよね。帰りの途中、個性あるドライブインで、下仁田こんにゃくを使った味噌田楽の食べ放題を堪能した（何と200円！）。狩野さんはでかいのを3本平らげていた。多分美容にも効果があるのだろう。皆様、次回2010年1月16日（土）伊豆ヶ岳でまたご一緒しましょう。

歩行距離約6.5ｋｍ、高低差　登り約350m下り約850m、所要時間5時間（休憩含む）

（追伸）ＯＢ山行2回目の娘を連れて行ったが、温かく迎えていただき深謝。

■　第 27 回　伊豆ヶ岳

ＯＢ山行副委員長　山口貢三（18 期）

日　程：　2010 年 1 月 16 日（土）
行　先：　伊豆ヶ岳（851m）
行　程：　吾野 8:05＝子の権現 8:30-9:05→休憩 9:37-38→天目指峠 9:50-51→休憩 10:34-39→古御岳 11:28-32→伊豆ヶ岳 12:00-30→休憩 13:18-22→向井山荘 14:05-50
参加者：　嘉納(1)、吉野(2)、腰塚(3)、谷上(4)、松本(7)、佐木(8)、松本(8)、鈴木(9)、下村(10)、安藤(11)、榎本(12)、小口(14)、梅野(17)＊、小浜(17)、渡部(18)＊、山口(18)、笛木(19)＊、武藤(20)＊、井口＊(武藤友人)、Ｌ小野(34)　　計 20 名、＊初参加

子の権現にて

先輩方の間でも話題になったようだが、伊豆ヶ岳の「岳」はどうも高い山という意味ではなさそうだ。

「岳」の命名に謎は残るが、それはさておき今回は新年山行ということで、初詣、初登山、新年会と初物企画をたくさん用意しており、梅野さんら 5 名の初参加者も加え 20 名が寒い中を参加いただいた。

スタート地点の子の権現（標高 600m）に車で到着すれば、下村さんからは熱いお汁粉が全員にふるまわれ、そのおいしさと心遣いに大感激。体も気持ちも温まり、足腰にご利益のある子の権現に参拝し、今年のＯＢ山行の安全を祈願してスタートした。幸い雪はなく、よく整備された道を登ってゆく。低山といっても思いがけなく小さな登り下りの連続で体はすぐ温まる。途中東京の高層ビル群も見えたりして少し休みたくなるが、気温が低く体が急速に冷えるので長くは止まれない。

伊豆ヶ岳頂上

そうはいっても疲れるし、休むと寒いしと・・それほど楽ではない。そうこうしている内に伊豆ヶ岳（標高 851m）に着いていた。そこでは山の会らしき集団が二組いて鍋を囲んで占拠している。我々は、素早く昼食を終え、ワンゲル旗を囲んだ恒例の記念撮影の後、素早く下山にかかる。なにしろ寒いので早く下りたいと、山頂からは踏み跡もかすかな山道を急降下にかかる・・と誰かいないらしい。記念撮影後機材をしまっていた谷上さんを置いてけぼりにしていたのだ。山行委員会として深く反省しています。人数を数え直し再び仕事道をたどり沢伝いのルートを下る。途中の滝には大きな氷柱が下がっていて依然として寒いのである。花桐という山村にある 18 期向井くんの別荘が今回のゴールだ。

そこには 18 期有志が新年会の準備をして待っていた。さっそく焚火を囲み全員が熱い豚汁をごちそうになり、さらに新年会へと突入した。体が温まるとともに寒さも忘れて日も暮れかかるまで飲食歓談は続いた。皆さんが帰った後も外の焚火を囲んだ大騒ぎが深夜まで続き最後はきちんとみはるかすで締め括ったのでした。

歩行距離 7.5ｋｍ、累積登り　670m　累積下り　980m
所要時間　5 時間 20 分（休憩含む）
（写真撮影　4 期　谷上氏）

18 期　向井、塩川、壷井氏が準備した新年会

■　第 28 回　川苔山

ＯＢ山行副委員長　小浜一好（17 期）

日　程：　2010 年 5 月 15 日（土）
行　先：　川苔山（1363m）
行　程：　奥多摩 8:35＝川乗橋 8:50-9:02→休憩 9:45-50→細倉橋 9:51-54→百尋の滝 10:45-50→休憩 11:32-38→休憩 12:20-25→川苔山 12:39-13:06→休憩 14:00-06→大根の山の神 15:02-10→鳩ノ巣 15:50
参加者：　嘉納(1)、吉野(2)、佐木(8)、鈴木(9)、山本(10)、榎本(12)、小口(14)、狩野(14)、中島(15)、白須(17)、山下(17)、梅野(17)、梅野佐保子(家族)、小浜(17)、山口(18)、Ｌ小野(34)　計 16 名

今回のＯＢ山行は 5 月 15 日（土）、奥多摩の川苔山に行って来ました。天気にも恵まれ、五月の新緑が輝き、藤の花やつつじが山々に彩りを添える気持ちの良い山行でした。

参加者は 16 名、初参加は 17 期梅野氏の長女佐保子さん、さわやかな笑顔で登場しました。父親に似なくてよかったという声もありましたが、ジーンズとスニーカーの出で立ちで楽々と踏破していました。

8 時 28 分奥多摩駅着の電車組と車組が集合し、揃って 8 時 35 分のバスに乗りました。さすがこの時期は登山客でごった返し、1 台には乗りきれず増発が出て、2 台に分乗することになりました。9 時登山口である川乗橋を出発してしばしの林道歩き、山道に入り谷沿いを詰めると落差 20mを超える百尋ノ滝に出ました。水量の多さに涼味を感じた後、よく整備された山道を歩き最後の急登を過ぎて、12 時 40 分、川苔山山頂（1363m）に到着しました。

昼食休憩の後、長～い下りをひたすら歩きました。3 月に偵察に行きましたが、その時は至る所で倒木があり、乗り越えたり潜ったり迂回したり難儀しました。今回、登山道はかなり整備されていましたが、それ以外は暴風雨の爪痕が痛々しく残っていました。

15 時過ぎに鳩ノ巣駅に直接下りて来て、電車を待つ間、駅前の食堂の屋外テーブルで打ち上げ。
ビールで乾杯し、つまみはわさびこんにゃく、ぬか漬け、枝豆といった地の物で山行の無事を祝い、再会を期しました。

佐保子さん曰く「こんなに多くのおじさんたちとご一緒するのは初めて。おじさんは面白い。またＯＢ山行に参加したい」とのこと、褒められたのか、それとも呆れられたのか。

いずれにせよ、皆様 10 月 16 日（土）の赤城山でまたご一緒しましょう。

歩行時間　5 時間 20 分、歩行距離　12.3ｋｍ、標高差約 1000m

川苔山山頂にて　　撮影　山口貢三氏（18 期）

■　第 29 回　赤城山

ＯＢ山行副委員長　山口貢三（18 期）

日　程：　2010 年 10 月 16 日（土）10 時 15 分 赤城山ビジターセンター集合
行　先：　黒檜山（1828m）、駒ヶ岳（1685m）
行　程：　赤城神社参拝→11:00 登山口→12:25 黒檜山(赤城山最高点)13:33→13:45 大タルミ→14:00 駒ヶ岳→15:00 駒ヶ岳登山口－覚満淵周遊
参加者：　嘉納(1)、吉野(2)、佐木(8)、鈴木(9)、安藤(11)、丹羽(11)、榎本(12)、山川(12)、小口(14)、小浜(17)、植草(18)、植草(美)(18)、山口(18)、安武(20)、Ｌ小野(34)、高野（安藤友人）
計 16 名

「あかぎさん」はいくつかのピークを持つ外輪山を含めた総称であり、赤城山という名前の山頂はない。大沼（おの）というカルデラ湖を取り巻く外輪山の黒檜山（くろびさん 1828ｍ）、駒ヶ岳（1685ｍ）が今回の目的地だ。

赤城山は観光地のイメージから登山の対象として捉えていなかったためか、初めて登るという人が多い。夏はボート遊び、冬は氷上のわかさぎ釣りなどもっぱら観光に近いアウトドアが展開されている。「頂上直下まで車で楽をしておいて山行と言えるのか」と現役だったら思っていただろう。利用できるものは遠慮しないのがＯＢのやり方なのだ。

前橋市内の広い道路が、幅はそのままに長い裾野を一直線に上まで続いている。沿道には食事処が軒を連ね、やはり観光地の雰囲気が濃厚だ。やがて道はカーブが連続する山岳路となり、峠を越えた赤城山のカルデラ内に入ったところから風景は一変する。四方を山に囲まれた大沼周辺は夏なら格好の避暑地となり、冬は白い氷の世界になるのだろう。秋も格別だ。抜けるような青い空と秋色に染まった山に囲まれた大沼が静かに水を湛えている。

今回は 1 都 4 県から 16 名のＯＢが参加した。赤城神社で参拝をすませてから黒檜山登山口に向かう。最初から急登が続く道は黙々と登るしかない。途中大沼が見下ろせる場所で休憩をとったりしてゆっくりと登る。外輪山の稜線に着き左に少し行ったところが黒檜山山頂だった。ここで昼食とする。山頂は既に人で一杯で人気の山だとわかる。展望が利く場所まで行き、昨年登った皇海山などの展望を楽しむ。次は駒ヶ岳へのミニ縦走だ。ここからの道はよく整備されていて階段もあるくらい急な下りになる。少し広くなった気持ちの良い鞍部で一休みした後に、少し登り駒ヶ岳に着く。

名前ほどには印象の薄かった山頂からは急な下りとなるが、手すり付きの階段のおかげでどしどしと降りてゆく。下山しそのまま覚満淵を全員で周遊する。カルデラという地形のおかげで赤城山は稀有な景観を有し、上毛三山、百名山、日本百景の 3 冠にも輝く素敵な山であった。

今年のＯＢ山行は天気 3 勝 0 敗、延べ 50 名以上の方が参加された。20 期代が加わるようになり、今後も層が広がることを期待する。

黒檜山山頂にて　　撮影　山口貢三氏（18 期）

覚満淵にて：
遠く見える山も赤城の外輪山のひとつ

■　第 30 回　箱根駒ヶ岳（30 回記念山行）

ＯＢ山行副委員長　小浜一好（17 期）

日　程：　2011 年 1 月 22 日（土）
行　先：　神山（1438m）、駒ヶ岳（1356m）
行　程：　海老名 7:42＝大涌谷 9:10-17→休憩 9:49-54→冠ヶ岳 10:27-30→分岐 10:37-42→神山 10:53-11:01→駒ヶ岳（ロープウェイ駅、神社）11:58-12:50→休憩 13:39-46→休憩 14:45-48→姥子 15:17-25→強羅文の郷 16:00（泊）
参加者：　嘉納(1)、吉野(2)、亀井夫妻(5)、松本(7)、松本(8)、早坂(8)、佐木(8)、下村(10)、山川(12)、小口(14)、狩野(14)、小浜(17)、堀内(18)、山口(18)、Ｌ小野(34)　【以上 山行＋懇親会】
谷上(4)、榎本(12)、白須(17)　【以上 懇親会のみ】　　計 19 名

今回のＯＢ山行は 30 回目の記念ということで、1 月 22 日（土）～23 日（日）の泊まりがけで箱根山と強羅温泉での懇親会に行ってきました。

天気にも恵まれ、箱根としては静かな山、源泉かけ流しの温泉、海山の幸をそろえたおいしい料理、楽しい仲間、と全て（？）を取りそろえた山行でした。

参加者は計 19 名、初参加は 18 期堀内さん、同期の中では一番の山女と呼ばれていた彼女ですが、長い間、山には行っていないとのこと、ウェアから足元まで新調し、やる気を見せての初登場でした。

7 時 40 分、海老名駅集合、車に分乗し一路大涌谷へ。下山先の姥子に車をデポし、相変わらず硫黄の匂いが鼻を突く大涌谷を 9 時 30 分出発しました。

この時期は静かな箱根の山を味わえる時期で、すれ違う登山客はたまにしかいません。今回の最高峰神山（1438m）を難なく過ぎ、12 時には駒ヶ岳に着きました。

駒ヶ岳は湖尻からロープウェイで上がれるので流石に観光客でいっぱい。亀井夫妻とはここで合流し、冷たい風を避けながら昼食をとり、箱根神社に皆で揃って初詣をしました。

下山路はポピュラールートから外れて、芦ノ湖を左手に見ながら山を巻くように長く続く道を進みました。ここでは誰にも会いませんでした。最後は雪がたっぷり付いている北斜面の急な下り、アイゼンを持ってきた人は装着してスリルある下りを楽しみました。

姥子に着いたのは 3 時 30 分、車に乗り込み本日宿泊の強羅温泉へ、ここで懇親会から参加の 3 名と合流。

駒ヶ岳山頂にて富士山をバックに第 30 回記念撮影

「強羅文の郷（ふみのさと）」という旅館でしたが、土曜日の宿泊の割には 1 泊 2 食付きで 9,500 円／人とリーズナブルでした。旅館名物の岩風呂と懇親会での豪勢な舟盛りや鮑の踊り焼などの料理で山の疲れを癒しました。

また、恒例の自己紹介やＯＢ山行の思い出話などで記念懇親会は盛り上がりました。

さらに小野ＯＢ山行委員長が独自に選んだＯＢ山行の功労者表彰で盛り上がりは最高潮に。ベスト差し入れ賞の下村さん、ベストカメラマン賞の谷上さん、影のリーダー賞の吉野さん、今回残念ながら不参加でしたが、ベストドレッサー賞の鈴木会長が表彰されました。

小野さんが徹夜で仕上げた表彰状が秀逸でした。今度はＯＢ山行に貢献して自分がもらいたいと誰もが思ったことでしょう。

吉野さんが用意された「ＯＢ山行 10 年の歩み」のパワーポイントが見られなかったのは唯一残念でしたが、またの機会を作りますのでその時にお願いします。

初参加堀内さんは今後常連になっていただけそうですが、すぐ仲間として溶け込める YWＯＢ会の絆を今回改めて強く感じました。

最後に今回の記念山行にシニアＯＢ会から多大なご寄付をいただいたことを報告し、深く感謝申し上げます。

それでは皆様、次回第 31 回ＯＢ山行（5 月 14 日（土）、毛無山）でお会いしましょう。

歩行時間　約 5 時間、歩行距離約　10ｋｍ、標高差約 800m

駒ヶ岳神社にて集合
2011.1.22
撮影　よその人

小野山行委員長ご挨拶
撮影　谷上氏（4 期）

盛り上がった懇親会　　撮影　山口氏（18 期）

■　第 31 回　毛無山

ＯＢ山行副委員長　山口貢三（18 期）

日　程：　2011 年 5 月 14 日（土）晴れ　9 時 20 分　麓登山口の駐車場に集合
行　先：　毛無山（1964m）
行　程：　9:47 登山口→ 10:25 不動の滝見晴台 → 11:08 レスキューポイント →12:06　7 合目 →
12:54 展望台→ 13:22 山頂 14:07 → 14:57 地蔵峠 → 15:27 水場 → 16:48 登山口
参加者：　嘉納(1)、吉田(1)、吉野(2)、佐木(8)、早坂夫妻(8)、鈴木(9)、安藤(11)、榎本(12)、山川(12)、小口(14)、狩野(14)、渡辺(17)、白須(17)、小浜(17)、堀内(18)、山口(18)、武藤(20)、Ｌ小野(34)
計 19 名

「毛無山」は調べただけで全国に 26 山もあるようで、これも各地にある「駒ヶ岳」より多いことはあまり知られていないだろう。その毛無山でここが全国最高峰であることも初めて知った。神社仏閣でいうと総本山なのだ。朝霧高原から頂上まで一気に 1000m 以上立ち上がったその姿もなかなか立派である。しかし近所にはスーパースターがいるため、その権威に圧倒され、富士山展望の山としての存在にとどまるのが精一杯という印象の山なのだ。また鉄道、バスといった交通網から遠いのも人気が今一つの理由であろうか。しかし我々が訪れたこの季節は新緑が美しく空気も冴え、特に朝方はドライブするだけでも来た価値があるくらい素敵な場所であった。朝霧高原は観光地というほどの賑わいを見せていないことも我々にとっては幸いである。

千葉、長野、静岡、東京、神奈川から 7 台の車に分乗して 19 名のＯＢが参加した。
今回は、各地の道路事情から、到着時間に開きがあったことと、人数も多かったため、2 組に分けて出発することになった。全員の挨拶が済み、いつものようにワイワイと進むが、すぐに急登の連続となる。それでも口数も少なくなる頃には手頃な休憩場所があるので助かる。

不動の滝　榎本さん（12 期）撮影

先発隊が登る　吉野さん（2 期）撮影

最初のレストは不動の滝が見える場所となる。次にレスキューポイントという開けた場所で休憩をとる。この登山道からは富士山は樹木越しにしか見えず富士山の展望台といわれる所は一ヶ所しかない。ここからも急登は続くが 9 合目から傾斜が緩み稜線につくと平らな道となる。

ここも樹木に遮られるが、途中では南アルプスが展望できる岩がありしばらく感激に浸る。

この山の本領はその頂上にあった。そこは富士山に向って刈り込みを入れたような草地になっていて、富士山が真正面にあるのだ（冷静に考えると富士山はどこから見ても真正面なのだが）。

毎日見ている富士山、いろんな山から遠望する富士山、ここでも富士山は同じに見えるのだがなぜかいつも感激してしまう。その存在はやはりスーパースターなのだとつくづく思う。

山頂からの富士山　吉野さん（2 期）撮影

山頂にて　榎本さん（12 期）撮影

後発隊が頂上に達するころには先発隊が昼食を済ませ、そこで全員が記念撮影を済ませると、先発隊が出発した。下りは地蔵峠から沢沿いの道を行く。この道は古く金山だった頃の痕跡が随所にあり、途中には金鉱石を焼いた窯跡や、そこに人が暮らした痕跡が今も残る。

途中から後発隊が休憩場所に着く頃先発隊が出発するようなペースで、後半からは水量豊かな渓谷を鑑賞しつつ順調に下ることができた。この道は雨後の増水時渡渉が困難な個所があり、注意が必要で往路を戻る人も多いようだが、往路にない味わいを持つこの下りを使った方が毛無山の印象は良くなる。

渓谷を下る
榎本さん（12 期）撮影

金鉱石粉砕機遺構　榎本さん（12 期）撮影

車で帰る頃には、西日によって富士山が赤く染まり辺りが暗くなる頃までも富士山が際立った山行となった。これを書き終えて富士山の名前が圧倒的に多く出てくるのに気づくが、これしか言いようのない富士山好きにはうってつけの山だった。

小レスト 1 の③

2012 年 5 月 12 日　第 34 回　両神山

2013 年 10 月 19 日　第 38 回　日光白根山

■　第 32 回　西沢渓谷

ＯＢ山行副委員長　小浜一好（17 期）

日　程：　2011 年 10 月 22 日（土）
行　先：　西沢渓谷
行　程：　塩山 8:58＝道の駅 9:25-50→ネトリ橋 10:10-15→大久保の滝先 10:55→ネトリ橋 11:20-55→大展望台 12:52-57→遊歩道終点 13:20-25→（方丈橋往復）→遊歩道終点 14:03-10→道の駅 15:42
参加者：　嘉納(1)、吉野(2)、佐木(8)、鈴木(9)、小口(14)、狩野(14)、渡邉(17)、山下(17)、小浜(17)、堀内(18)、壷井(18)、笛木(19)、Ｌ小野(34)、親跡(34)、みどり（狩野妹）　　計 15 名

今回は当初、金峰山の計画だったが登山出発点の大弛峠までの道が台風の影響で通行止めとの親跡氏からの情報。急なことで他の山への下見の時間もなく、観光地でもある西沢渓谷の紅葉見物に予定変更。ところが当日朝、4 時半に目覚めると天気予報通りのどしゃ降り。夜が明けるのも遅くなり、真っ暗な闇の中の激しい雨音。今日は本当に行くの？と疑問が湧く。それでも車を出す役目だし、ＯＢ山行副委員長だし、直前に小野委員長から雨でも行くという檄メールでのお触れもあり、仕方なく 5 時半自宅発。二俣川で 18 期の二人、その後、同期の渡邉雅子宅にお迎えに行く。期待通り、渡邉夫君（実は小浜と同じ職場）がみんなの朝食（おにぎりとおかず）を作ってのお見送り。相変わらず美味しかったー。混んでいると予想された中央高速も流石にガラガラ、久しぶりの再会で車内での会話も弾み、8 時半過ぎには塩山駅に到着。その頃には雨も小降りになり、考えてみれば人気の渓谷も空いていて静かだし紅葉見物にはもってこいかも、と期待に変わっていた。

待ち合わせ一番乗りと思っていたが既に吉野車、小口車は到着済みであった。塩山駅を予定通り 9 時出発。9 時半に渓谷の道の駅に到着。駐車場もガラガラ。ここで狩野姉妹（ゴージャスな感じです）と合流。狩野さんも直前のメールでは雨なら行かないかも、とのことだったが、♪山の子は山の子はみんな強いぞ♪。

西沢渓谷 1 周、3 時間 30 分コースを予定していたが、1 時間ほど歩くと先頭の吉野さんが、すれ違ったグループからその先貞泉の滝手前で橋が冠水のため通行不能との情報をゲット。

仕方なく来た道を戻り、昼食後に逆ルートで渓谷一番の見どころである七ツ釜五段の滝へ。雨のため水量が多く迫力満点の滝だった。往復約 3 時間かけ道の駅に戻ったのが 15 時 45 分。観光地ではあるが歩いた充実感があったのも雨のせいか。紅葉も雨にぬれた鮮やかさはなかなかのもの、風情もあった。

帰りに全員で近くの花かげの湯に寄りさっぱりして解散。今回、初参加は 18 期壷井さんと狩野さんの妹みどりさん。壷井さんはこれを機会にぜひ常連に、みどりさんはアナハイム在住で滞米 30 年、たまたま帰国していたので参加したとのこと。また、機会があればご一緒しましょう。

では、次回、第 33 回ＯＢ山行は 1 月 14 日（土）奥多摩三頭山（みとうさん）（歩行時間 3 時間程度の手頃な山です）で

See you again !!

（歩行距離 13ｋｍ、歩行時間 5 時間、高低差 200m）

■　第 33 回　三頭山

ＯＢ山行副委員長　小野恵美子（34 期）

日　程：　2012 年 1 月 14 日（土）
行　先：　三頭山（1531m）
行　程：　武蔵五日市 9:00→都民の森 9:38-10:10 三頭大滝 10:35-40→休憩 11:00-05→ムシカリ峠 11:32-45→西峰 12:02-40→中央峰→東峰展望台 13:17-27→鞘口峠→都民の森休憩所 14:05-35→駐車場 14:40
参加者：　嘉納(1)、吉野(2)、谷上(4)、細田(7)、佐木(8)、早坂夫妻(8)、鈴木(9)、山本(10)、小浜(17)、白須(17)、渡邉(17)、Ｌ山口(18)、堀内(18)、笛木(19)、武藤(20)、親跡(34)、小野(34)　計 18 名

関東では記録的に雨が降らず冬晴れの続く 1 月のとある土曜日､奥多摩三山の一つ三頭山を登ってきました。登山口の都民の森は、売店もある立派な駐車場。今回もドタキャンありドタ参あり、乗り合わせ場所を間違えてなかなか出会えなかったマイカー組もありましたが、いつも元気な皆さん、18 名が集合しました。細田さんがＯＢ山行初参加。この日も爽やかな晴天で、絶好の冬山ハイク日和。早速開会式の後、10 時過ぎに歩き出しました。ここ数年、冬のＯＢ山行は期せずして雪の上を歩くことが多かったのですが、今回はほとんど雪は無し。代わりに素晴らしい自然のプレゼントがありました。歩き始めて約 30 分のところにある三頭大滝（落差約 33m）が全面凍っていて、美しい姿を見せてくれたのです。展望用の滝見橋から一同感嘆の声を上げ、しばし見入りました。そこからの登山道も、沢の水がところどころ凍って小さな氷の芸術があちこちに見られ、飽きることなく歩けました。

尾根に出ると、少し雲をまとった富士山の雄姿も。何とも目を楽しませてくれる山行です。ちょうどお昼に山頂に到着。奥多摩の山々と奥多摩湖も眺めることができました。お楽しみのお昼ご飯の後、恒例の谷上カメラマンによる集合写真撮影。山本さんから、「山頂なのに三頭（未踏）山」との名言（親父ギャグ？）が飛び出して大笑い。残り 2 つの小さなピークを踏みながら（だから三つの頭なんですね）、下山へ。途中、展望台や見晴らし小屋があり、しっかり整備されたコースです。しかし、乾燥していて歩くたびに砂埃が上がるのには閉口しました。都民の森の施設、森林館では木工センターを見学し、ゆっくりお茶飲み休憩をしてから駐車場に戻りました。閉会式の後、武蔵五日市駅近くの瀬音の湯で温まり、帰路に就きました。

山麓にある、人里と書いて「へんぼり」と読む地名の由来については、山行後数日間、メール上で意見が飛び交っていて、大勢で山に行く楽しさの広がりを感じます。高低差約 500m、歩行約 3 時間という手軽なコースですが、見所満載、充実した山歩きでした。

三頭大滝の前で　　谷上さん（4 期）撮影

三頭山山頂　　谷上さん（4 期）撮影

■　第 34 回　両神山

ＯＢ山行副委員長　小浜一好（17 期）

日　程：　2012 年 5 月 12 日（土）
行　先：　両神山（1723m）
行　程：　白井差 10:00→休憩 10:30-32→休憩 11:18-24→休憩 11:32-40→笹平 12:10-31→両神山 12:55-13:10→笹平 13:25-30→ブナ平 13:58-14:05→休憩 14:40-49→白井差 15:18＝薬師の湯
参加者：　吉野(2)、腰塚(3)、谷上(4)、佐木(8)、鈴木(9)、山本(10)、安藤(11)、榎本(12)、山川(12)、小口(14)、狩野(14)、吉田(14)、白須(17)、小浜(17)、向井(18)、Ｌ山口(18)、堀内(18)、植草(18)、植草(美)(18)、小山(18)、塩川(18)、壷井(18)、塩川(19)、小野(34)、親跡(34)　　計 25 名

今回は百名山、両神山（標高 1723m）。一般コースである清滝小屋を通るコースだと岩場やクサリ場が続き、日帰りでは厳しいが、私有地の中を通る白井差新道のおかげでＯＢ山行でも行けることになった。アカヤシオツツジなど花種も多く新緑の秩父を十分楽しんだ。

9 時に西武秩父駅に集合。今回は 18 期の参加者が 8 名と多く、総勢も 25 名と久しぶりの 20 名超え。目標（？）の 30 名は近い。初参加も多く、14 期吉田さん、18 期塩川夫妻、小山さんの 4 名。塩川夫人の 19 期脇さんと会うのは卒業以来で懐かしかったー。また、シニア海外協力隊でベトナム赴任中の安藤さんが一時帰国中で久しぶりの参加など、話題豊富で話の花が咲いた。皆さん是非今後も参加をお願いします。

10 時に登山口の白井差を地権者の山中さんに送られて出発した。ちなみにルート維持のため予約制、往復原則、犬連れ禁止、また入山料として千円（記念バッジ付）が必要。山中さんは両神山のガイドとして著名な方で先祖の話から両神山の動植物、山岳救助など話題も豊富というか際限がない。4 月の下見の時は全行程同行だったが、今回も下山の途中で合流しマシンガントークが炸裂、ＯＢ山行の語り草になった。

釣りも禁止されているため岩魚の魚影が濃い水無沢を遡行し、尾根上をジグザグに高度を上げ、傾斜が緩むと 12 時過ぎ笹平に着く。ここで昼食休憩。女性が多いせいか差し入れが豊富で食後や休憩のたびにお菓子をいただき感謝。頂上剣ヶ峰に 13 時着。天候に恵まれれば奥秩父、八ヶ岳、北アルプス、浅間山など 360 度の眺望だが今回はイマイチであった。15 時 20 分白井差に下山し、恒例の温泉（薬師の湯）で汗を流し帰路に着いた。

今回、20 期代の参加者がいないのが寂しい。何かと忙しい世代とは思うが、たまには山もいかが？

女性初参加者に感想を聞いた。（　）内は筆者。

小山さん「とても気持ち良い疲れでした。また是非参加したい」(久しぶりの山なのにさすが元体育科！）

塩川夫人「花の名前を覚えたが、きっと明日には忘れてしまう」（旦那は忘れないでね）

それでは次回は 10 月 13 日（土）第 35 回ＯＢ山行、紅葉の滝子山（山梨）でお会いしましょう。（高低差 860m、歩行時間 6 時間 10 分）

■　第 35 回　滝子山

ＯＢ山行委員長　山口貢三（18 期）

日　程：　2012 年 10 月 13 日（土）
行　先：　滝子山（1615m）
行　程：　笹子駅 7:40（大月駅 8:30－タクシー）－道証地蔵 9:00－11:30 滝子山－12:00（昼食）12:35－大谷ヶ丸 13:36－14:06 米背負峠－14:45 大蔵林道－16:05 やまと天目山温泉 17:10－バス－17:20 甲斐大和駅 17:30
参加者：　嘉納(1)、吉野(2)、谷上(4)、佐木(8)、早坂夫妻(8)、鈴木(9)、山本(10)、山川(12)、※榎本(12)、小口(14)、吉田(14)、葛窪(17)、小浜(17)、Ｌ山口(18)、堀内(18)、岡田(18)、小野(34)、親跡(34)
人数計　18 名　　※偵察山行参加

滝子山は南大菩薩連嶺の最南端にふさわしい立派な山である。また笹子駅から登って初狩駅に下山でき、アプローチの良さから中央線沿線では人気の山の一つである。しかしながら「山」と言えば「温泉」とこだまのように跳ね返る YWＯＢ会においては、この沿線には温泉がないことが滝子山から遠ざかっていた大きな要因でもあった。しかし色々と調べてみて滝子山から北に縦走し米背負峠から天目山温泉に向うガイドブックに載ってないルートの存在を見つけたことで、ひとつの問題が解決した。それでも若干歩行時間がいつもより長くなることの懸念があった。そこで本番では笹子駅から歩く組と、大月駅からタクシーを使う組に分かれてもらうことで、歩行時間の問題も決着した。

当日 9 時、初参加の 18 期岡田さん、久しぶりの 17 期葛窪さんを加えた 18 人が道証地蔵に集合、いつものように自己紹介を済ませ出発した。ルートは沢沿いにあり、滝子山の名前にもあるように水流の豊富なナメ滝や 3 段の滝などが連続して現れるので単調な登りの疲れも消してくれる。2 度目の休憩をとるあたりから水流も緩やかになりやがて源頭と思われるところまで詰めると、見通しのよい広い尾根となり大菩薩連嶺の稜線に到着した。滝子山へはここから往復となる。三角点のない最高峰である 1620mの山頂に立った。そこには 360 度の大展望が広がっていた。まず富士山の圧倒的な大きさが目に入る。そして、八ヶ岳、奥秩父、大菩薩方面、南アルプス北部と一同大感激に浸る。

記念撮影の後ここから元来た道を少し戻った広い草地で昼食をとった。ここからは大谷ヶ丸方面に向かう縦走路となるが、頂上にいた人々は殆どが初狩駅に向うようで、ここからは踏み跡も小さく、倒木もそのままにされた心細い道になっていて、我々だけの静かな山を味わうことができた。そこは植林もなく自然の姿が残された癒しの森といった風情で、もうすぐ素晴らしい紅葉の時期を迎えるはずだ。縦走 1 時間ほどで今回の最高点である大谷ヶ丸（1644m）に到着したが、展望はないのでここはおまけである。米背負峠からは沢沿いを一気に下るとたちまち舗装、橋のある人工的な林道に到着した。やれやれと一休みし、ここからはいくつかのグループに分かれ、栗拾いや近況の話などして 1 時間の林道歩きでやまと天目山温泉に全員元気に到着した。

滝子山山頂にて：1 期～10 期です。
背筋が伸びて堂々の立ち姿。

滝子山山頂にて：12 期～34 期です。座ったまま失礼。

■　第 36 回　筑波山

ＯＢ山行副委員長　小野恵美子（34 期）

日　程：　2013 年 1 月 19 日（土）
行　先：　筑波山（877m）
行　程：　筑波山神社 10:00―弁慶茶屋 11:30―女体山 12:20―せきれい茶屋 12:40（昼食）13:30―
御幸ヶ原 13:40⇔男体山 14:20―ケーブルすれ違い場 15:00―筑波山神社 15:40
参加者：　嘉納(1)、吉野(2)、郡司(4)、谷上(4)、佐木(8)、早坂夫妻(8)、鈴木(9)、山本(10)、山川(12)、鵜飼(14)、小口(14)、狩野(14)、吉田(14)、中島(15)、小浜(17)、渡邉(17)、壷井(18)、Ｌ山口(18)、白木夫妻(21)、親跡(34)、小野(34)　　計 23 名

今年度のＯＢ山行はすべて百名山！その第一座は筑波山でした。個人的に筑波山といえば、観光地と四六の〇〇しか思い浮かばず（私は「虫偏に土二つ」が大の苦手）、良いイメージが無かったのです。しかし、実際は山容・コース・展望すべて楽しめる素晴らしい山でした。

1 月の晴れた朝、筑波山神社に集合。三千年の歴史があるという荘厳な神社で、三々五々今年の幸運と山での無事を祈願しました。境内で開会式をして出発。今回は宇都宮在住の鵜飼さんと、ＯＢよりも足腰の強い素敵な奥様を連れた白木さんが初参加。しばらくは樹林帯の山道。12 月の下見では、しっとりとした霊験あらたかな道と感じたものですが、そこは賑やかなＯＢ山行、ワイのワイのと登っていきます。予定の次のバスに乗って来られた山川さんもすぐに追いつきました。標高を増すと残雪があり、アイゼンの出番。弁慶茶屋跡を過ぎると、名前の付いた奇岩の連続で飽きさせません。弁慶も進むのを躊躇ったという「弁慶七戻り」、生まれ変われるという「胎内くぐり」等々、奇岩好きにはたまらない楽しいコースです。程なく女体山山頂に到着。狭い山頂で詰め合って記念撮影。360 度の眺望で、関東平野の広さを実感でき、遠くに都心のビル群、うっすらと富士山も拝めました。

少し下ってせきれい茶屋にお邪魔して昼食。つ・く・ばの頭文字を具にしたうどん等、それぞれの好みでお腹を満たしました。寒い冬の山歩きで温かい物を頂けるのは何とも有り難い。大勢の注文にてんてこ舞いだったおかみさん、お世話になりました。

茶店の並ぶ御幸ヶ原を越えて男体山へ。双耳峰である筑波山は、いざなぎの尊（男体山）といざなみの尊（女体山）を祀っているのだそうです。独特なその山容から、昔の人が神様の力を感じたのがよくわかります。再び御幸ヶ原に戻り、ここから郡司さんはケーブルカーで下山。体調に合わせてコース取りをする、長く山を楽しむコツですね。歩き組は、雪が残った急斜面を慎重に下りました。百人一首の陽成院の歌で有名な男女川（みなのがわ）の源流を越え、休憩中のお楽しみはケーブルカーのすれ違い。赤と緑の鮮やかなケーブルカーよりも、子供のようにフェンスにかじりつく皆さんの後ろ姿のほうが見ものでした。

筑波山神社に戻って閉会式。ＯＢ山行恒例の下山後温泉はありませんでしたが、興趣に富んだ山歩きの余韻に浸りながらそれぞれの帰途に就きました。

■　第 37 回　丹沢山

ＯＢ山行副委員長　小浜一好（17 期）

日　程：　2013 年 5 月 18 日（土）
行　先：　丹沢山（1567m）、塔ノ岳（1491m）
行　程：　札掛 8:37＝塩水橋 8:50-55→本谷橋 9:20-23→休憩 9:46-51→休憩 10:39-44→堂平分岐 11:33-39→丹沢山 12:21-55→塔ノ岳 13:45-14:05→新大日の頭 14:40-54→休憩 15:32-38→休憩 16:10-18→札掛 17:05
参加者：　嘉納(1)、吉田(1)、吉野(2)、早坂(8)、佐木(8)、山本(10)、安藤(11)、山川(12)、榎本(12)、小口(14)、吉田(14)、白須(17)、小浜(17)、梅野(17)、壺井(18)、Ｌ山口(18)、白木(21)、小野(34)、以上 18 名（参考：偵察参加者　渡邉(17)、武藤(20)、親跡(34)）

今年のＯＢ山行はたまたま、すべて百名山である。1 月の筑波山、今回の丹沢山、10 月の日光白根山。山行委員会としては、年間 1 回は百名山を計画したいと考えている。

丹沢山へのルートは通常、表尾根など縦走コースがメインだが、今回は塩水橋からの直登ルートを選択した。そのため、登山口までのアプローチは秦野駅からマイクロバスをチャーターし、下山口の札掛に帰りの足のマイカーをデポする段取りとした。安藤さんがシニア海外ボランティアとして赴任されていたベトナムから帰国されて久しぶりの参加となった。

9 時から登山開始、天王寺尾根のさほど急ではない道をひたすら登る。5 月の雑木林の緑が美しいが、眺望はほとんどない。頂上直下の長い階段を息を切らしながら進み、丹沢山には 12 時 20 分到着。山頂では 19 期の笛木さんがサプライズ登場。前日から塔ノ岳に登り、我々を迎えてくれたとのこと。その後は下山までご一緒した。山頂で昼食休憩。3 月末の下見の際は寒くて頂上の山小屋に逃げ込んだが、今回は快適な気候でゆっくり食事と記念撮影。というわけで天気はまずまずであったが、眺望は尾根に出てもよくない中で、富士山が薄く見えた。縦走路を進むと塔ノ岳は大賑わい。次々と新旧の山ガールや山ボーイたちが表尾根や大倉尾根から到着してくる。それでも新大日から長尾尾根に下れば静かな丹沢を味わえた。広く長い尾根を皆でわいわいと札掛に下ってみれば、ロングコースながらコースタイム通り歩いていた。（拍手）

今回はＯＢ山行の中でもハードな部類で体力は三ツ星を付けており、参加者数を心配したが、結果としていつもと変わらない参加者数であった。それにしても、1 期、2 期の大先輩たちがこのロングコースを軽々こなすのには敬服。継続は力なのか、それとも持って生まれた体力なのか、これからリタイアを間近に迎える我々世代にとって手本にすべき方々である。恒例の下山後のひとっ風呂は適当な温泉が見当たらず、次回のお楽しみとなった。

その次回は10月19日。紅葉真っ盛り（予定）が魅力の秋の日光。標高は2578mと高いが、ゴンドラ利用で歩行時間の短縮も図ります。お誘い合わせの上、多くの方（特に若いＯＢ世代）の参加をお願いします。参加者数によっては再度バスのチャーターも考慮します。ではまた、日光でお会いしましょう。

丹沢山データ：歩行距離　約15ｋｍ、高低差　約1150m、行動時間8時間（休憩含む）

■　第38回　日光白根山

ＯＢ山行委員長　山口貢三（18期）

日　程：　2013年10月19日（土）
行　先：　日光白根山（2578m）
行　程：　丸沼高原山頂駅10:30→七色平分岐11:07→休憩11:57→山頂12:57（昼食）13:29→14:07（応急措置）14:17→14:20（応急措置）14:45→15:18（休憩）→七色平15:45→丸沼高原山頂駅16:17
参加者：　吉野(2)、郡司(4)、佐木(8)、鈴木(9)、安藤(11)、山川(12)、榎本(12)、小口(14)※、鵜飼(14)、吉田(14)、狩野(14)、葛窪(17)、渡邉(17)、小浜(17)、Ｌ山口(18)、堀内(18)、岡田(18)、福田夫妻(18)、植草(18)、壺井(18)、笛木(19)、西田(20)、白木夫妻(21)、小野(34)、親跡(34)
人数計27名、※偵察山行参加、

日光白根山（にっこうしらねさん）は、栃木と群馬の境界にある標高2578mの山。日光白根山の山体は成層火山であるが、最高峰の奥白根（おくしらね）は安山岩のみから成る溶岩円頂丘である（出典：ウィキペディア）、とあり特徴のある姿はこのことから説明がつく。また呼び名は、奥白根山と日光白根山のどちらも正解の呼び名であるが、国土地理院の地図によれば正式には白根山となる。

この日光白根山をYWV歴史資料館から検索すると、現役では1970年代によく登られ、これまでに12回登っているが、いずれも日光側から険しい外輪山を越えて登っているようである。1983年を最後に現役が登った記録はない。

左）白根山　　中）ゴンドラ　　右）日光側から見える白根山（2012年6月撮影）

その後マイカー登山の普及、ゴンドラの完成（1998年）によりアクセスが便利になり急登も少ない丸沼、菅沼ルートは日帰りが可能なことから、年間を通して登山客が訪れる人気の山となっている。筆者も現役時代ＰＷでは2泊3日で登ったように遠く険しかった山の記憶があったが、使えるものをフルに活かせば日帰りができる幸せな時代になっている。

マイカーを使って今回は新潟、長野、栃木、千葉、東京、神奈川各地から集合していただいた。車で移動中に雨となるが、ゴンドラで上がると雨雲の上に出たようで、白根山が正面に見えていた。

最初は樹林帯をしばらく巻くように進み、直登し始めるとやがて森林限界に到達する。

2500m級の山はさすがである。頂上からは日光連山、上州武尊、尾瀬の山々、浅間山、富士山も見えていた。しばらく展望を楽しみ頂上直下で昼食とする。

左）山頂直下、右端は偶然 41 期石川乱入。　中）男体山、中禅寺湖　　右）弥陀ヶ池

頂上から弥陀ヶ池を真下に見るように急斜面を下る。20 分ほど下った所で負傷者が出た。転倒した際、額を岩角にぶつけ出血されていた。参加者から三角巾、ガーゼ、包帯、消毒薬をいただき何とか応急措置ができた。

周囲は心配したがご本人からは大丈夫と言っていただいたので、ともかく下に降りることにした。そこから更に 1 時間半歩いて二荒山神社のある登山口に到着した。ここではきちんと礼拝し帰りの安全をお祈りしたのは言うまでもない。ゴンドラ営業時間終了前にはなんとか下山でき、スキー場の治療室では包帯などを替えていただき、現地スタッフの方にも大変お世話になった。その後お怪我の痛みをこらえ 1 週間後には大きなイベントの大役を果たされた。登山時のリスクはどんな時、どんな所にも存在する。起きない努力ももちろん大切だが、いざという時に仲間が多いほどこうした困難もそれだけ助け合うことができ、大変心強いことであった。

山行委員としては反省すべき山行であったが、その後多くの方から、それでも楽しかったとのメールを頂き仲間のありがたさを強くした山行でもあった。参加者は 27 名（偵察含む）と大盛況で、福田さん夫妻（新潟）、西田さんに初参加いただき、秋の山を存分に楽しんでいただけたものと思う。

今回の反省）・頭部プロテクターとして帽子等の着用や体調管理を事前にお願いする。
・救急品を見直しＯＢ山行委員携行、参加者へ三角巾携行の呼びかけ。

小レスト2の③

2007 年 10 月 13 日
第 20 回　妙高山

■　第 39 回　竜ヶ岳

ＯＢ山行副委員長　小浜一好（17 期）

日　程：　2014 年 1 月 18 日（土）
行　先：　竜ヶ岳（1485m）
行　程：　長後 6:45→本栖湖キャンプ場 9:43→休憩 10:33-43→あずまや 11:07-17→竜ヶ岳 12:12-57→
　　本栖湖湖岸 15:30＝いずみの湯 16:00-17:25＝長後 19:28
参加者：　嘉納(1)、吉田(1)、吉野(2)、郡司(4)、早坂(8)、早坂富(8)、佐木(8)、山川(12)、太田(13)、
　　狩野(14)、吉田(14)、小口(14)、中島(15)、山下(17)、小浜(17)、堀内(18)、壷井(18)、Ｌ山口(18)、
　　小野(34)　　人数計 19 名
　　※参考　偵察山行 12/7　　参加者　榎本(12)、白須(17)

1 月のＯＢ山行の山選びは難しい。高い山は本格的な冬山になるし、あまり低いと物足りない。そこで、そこそこ雪道歩きも楽しめて、安全で景色が楽しめる山ということになる。その選択肢としては今回の竜ヶ岳（標高 1485m）はベストチョイスの内に入るだろう。あまり知られていない山ではあるが、本栖湖湖畔からの 2 時間半くらいの登りで頂上に着けば 360 度の大パノラマ、富士山～遠くに駿河湾～天子山塊～南アルプス～八ヶ岳～奥秩父連峰～富士・御坂山塊が素晴らしい。当日は晴れ時々曇りの予想で眺望を心配したが、杞憂であった。富士の眺めは雲がかかって今一であったが、南アルプスや八ヶ岳、奥秩父はよく見えた。

参加者数は 19 名とまずまず。集合場所の本栖湖キャンプ゛場の広い駐車場に 9 時 30 分までそれぞれが車で全員集合。横浜方面からは 10 名が一緒に山口ＯＢ山行委員長が手配したハイエース（レンタカー）で集合。山口氏には往復全行程運転してもらって世話になった。曇りがちな天気の中 10 時に予定どおり出発した。登りは東側斜面のため、道は雪が解けてぬかるみ、歩きにくい箇所もあったが、順調に山頂に 12 時過ぎに到着した。この時間には晴れ間が広がり、予想したほど寒くはなく快適に昼食や眺望を楽しみ、写真を撮り合った。

帰路は本栖湖に飛び込むような北側斜面の下りである。13 時過ぎに下山開始。コース上は踏み固められた雪がびっしり付いていたが、全員が軽アイゼンを装着し、サクサクとよく効かせながら、我々のグループしかいない静かな山を下りて行った。メンバーの一人のアイゼンがうまく雪面に届いていないようで、足に負担がかかり膝にダメージを受けたようであった。そのため下山に想定外の時間がかかってしまったが、15 時 30 分、全員無事下山した。

前回のＯＢ山行（日光白根）の経験から、救急セットを携行していたが、今回のＯＢ山行でその中の湿布薬がすぐに役立つことになった。ＯＢ山行委員会が一番心がけていることは、事故のない安全で楽しい山行である。それには参加メンバー一人一人の体調管理や用具等の準備が欠かせない。今回の山行は体力難易度とも★1 つで比較的楽なコースであったが、改めて周到な準備の大切さを実感した次第であった。

帰りは温泉組（西湖いずみの湯）と直帰組に分かれて解散。

次回は、5 月 17 日（土）百名山の蓼科山です。40 回目に当たる記念山行であり、希望者は白樺湖周辺で宿泊を計画します。翌日も自然散策など春真っ盛りの信州を楽しむなど、交流をさらに深めたいと思っています。是非多くの方の参加をお待ちしています。

今回　高低差 570m、歩行距離約 6ｋｍ、行動時間 5 時間 30 分（休憩含む）

■　第 40 回　蓼科山・車山（40 回記念山行）

ＯＢ山行副委員長　小野恵美子（34 期）

日　程：　2014 年 5 月 17 日（土）～5 月 18 日（日）
行　先：　蓼科山（2531m）、車山（1925m）
行　程：　1 日目：　七合目登山口 10:20→休憩 11:05-20→休憩 11:57-12:05→将軍平 12:11-35→
蓼科山 13:20-40→将軍平 14:10-19→天狗の露地 14:37-45→七合目 15:35-45→
白樺湖晴明荘 16:05　　ホテル晴明荘にて懇親会、宿泊
2 日目：　晴明荘 7:50→八島湿原 8:25→車山肩 8:45→車山 9:25-40→蝶々深山 10:20-56→
物見岩 10:55-11:09→旧キャンプ場 11:35-42→八島湿原 12:09-15
参加者：　嘉納(1)、吉田(1)、吉野(2)、佐木(8)、榎本(12)、山川(12)、鵜飼(14)、小口(14)、狩野(14)、
吉田(14)、中島(15)、小浜(17)、壷井(18)、向井(18)、Ｌ山口(18)、西田(20)*、白木(21)*、親跡(34)、
小野(34)　計 19 名（1 日目参加　17 名、懇親会参加　16 名、2 日目参加　15 名　*宿から 2 名）

2000 年にスタートした YWVＯＢ山行も 40 回目を迎えました。実に 14 年の歳月。今回は記念山行として蓼科まで足を延ばし、百名山山行に懇親会、さらに翌日の爽やかハイクと、てんこ盛りの楽しい行事となりました。

1 日目、朝からお天気は上々。マイカーに分乗し登山口に集合。道中も八ヶ岳や南アルプスの山々が見えて、展望への期待が高まります。出発後早々に残雪の道となりアイゼンを装着。雪の白と空の青が本当に美しい。

将軍平で昼食。山頂手前のロープが張られた直登（帰りは直降）はスリルを楽しみながら一気に標高を稼ぎます。山頂は広大な岩の原で、雪も無くアイゼンを脱いで散策。少し雲が出てきましたが、360 度の展望を満喫しました。登山口から 3 時間足らずで標高 2500mを越え、高山気分を楽しめるたいへんお得なコースです。

蓼科山山頂にて

蓼科山からの眺望

雪道の下りは快適で、15 時過ぎには元の登山口に到着。初日の閉会式を終えて、日帰り参加の 1 期、14 期の吉田さん両名と山川さんが帰られました。

ＯＢ山行 40 回を祝って乾杯

宴会後記念撮影、この後二次会へ

白樺湖畔の晴明荘がこの日のお宿。宴会場も二次会の集会部屋も提供してくれました。西田さん、白木さんが加わりお楽しみの夕食・宴会。吉野さん作成の「ＯＢ山行 14 年の歩み」のスライドで 40 回の軌跡を懐かしく振り返りました。40 回中 31 回ご参加の小口さんに賞状・賞品を授与。いつも遠方から会を盛り上げていただき本当に感謝です。同数回ご参加の 11 期安藤さんはご都合により欠席でしたが、後日お渡しいたしました。
今頃はカメルーンでご活躍です。裏方ながら私もサプライズで最多参加賞を頂戴しました。恐縮です。くじ引きと親跡さん撮影の当日の写真を楽しんだ後、一旦閉会。食後は場所を変え、歌声喫茶よろしく山の歌を合唱。先輩方の現役時代はこんなにも山に歌声が響いていたのですね。名曲多し、伝えていくべき文化です。音頭を取ってくださった向井さんは翌朝お仕事でお帰りに。

2 日目も快晴でハイキング日和。二日酔いの身体にも優しいコースで、それでいて展望は抜群。車山、蝶々深山では北アルプス、八ヶ岳、富士山、南アルプス等々・・・一か所でこんなに多くの山々が見渡せる場所は他に無いのではないでしょうか。あまりにも贅沢。時節柄、水のない八島ヶ原湿原の脇を歩き、山行は終了。
2 日間とも好天・展望に恵まれ、40 回記念を祝福してくれているようでした。

蝶々深山山頂で

八島湿原で記念撮影、閉会式

14 年の歳月で世の中の移り変わりはめまぐるしいばかりですが、山と山仲間の笑顔は変わりません。最近のＯＢ山行はコースもバラエティーに富み、参加者も増えています。これは山口委員長、小浜副委員長のご尽力によるもの。このところ晴天続きなのも晴れ男パワーかもしれません。以前 YWV に所属していて自然を愛することだけが共通点。年齢・性別・職業・経験問わず、山ではどなたでもすぐに仲間になれます。初参加の方、大歓迎。40 回を重ねたＯＢ山行、これから 50 回、60 回、20 年、30 年と続けていきましょう。

小レスト１の④

2016 年 10 月 22 日　第 47 回大峰山・吾妻耶山

2017 年 9 月 23 日　第 50 回　幕山

■　第 41 回　宝剣岳・木曽駒ヶ岳

ＯＢ山行副委員長　小浜一好（17 期）

日　程：　2014 年 10 月 18 日（土）
行　先：　宝剣岳（2931m）、木曽駒ヶ岳（2956m）
行　程：　菅の台 8:25→しらび平 9:00-20+++千畳敷 9:30-43→休憩 10:05-12→乗越浄土 10:42-50→
中岳 11:08-13→休憩 11:28-30→木曽駒ヶ岳 11:50-12:30→鞍部 12:45-50→宝剣小屋 13:18-21→
A 宝剣岳、B 伊那前岳→乗越浄土 14:16-15:10→千畳敷 15:37-48+++しらび平 15:55-16:00＝
菅の台 16:30
参加者：　嘉納(1)、 吉野(2)、早坂(8)、早坂富(8)、佐木(8)、鈴木(9)、山川(12)、榎本(12)、小口(14)、
狩野(14)、中島(15)、萩生田(15)、白須(17)、渡邉(17)、小浜(17)、壺井(18)、L 山口(18)、白木(21)、
白木夫人、親跡(34)、小野(34)　　計 21 名

今年最後の第 41 回ＯＢ山行は中央アルプス。百名山木曽駒ヶ岳（2956m）と宝剣岳（2931m）を目指した。紅葉は既に山麓に降りて、山頂はうっすらと雪化粧が始まっていた。相当な冷えを覚悟して、各自十分防寒着を用意したが、千畳敷駅の温度計はなんと 18℃で山麓と同じ気温であった。天気も快晴で、この時期でこの標高で、望外の快適さに恵まれた山行であった。

今回は少し足を延ばしたのと基本前泊ということで参加人数を心配したが、20 名超えでまずまずであった。初参加は 15 期の萩生田さん、通称うださん。17 期の私からすればリーダー学年の先輩でいろいろ教えていただいた。前泊のホテルで久々の再会ではあったが、人なつこい笑顔も包容力ある人柄も変わりはなかった。これからは常連になってくれるとのこと、楽しみにしています。

9 時 30 分にふもとの菅の台バスセンターに全員集合、しらび平までバスで、そこからロープウェイで標高差日本一（950m）を千畳敷まで一気に駆け上がる。混雑を心配したが、千畳敷の紅葉シーズンが終わり観光客の出足も落ち着いたようで待つことはなかった。ロープウェイから見下ろす山麓の紅葉と滝のコントラストが見事であった。

まずは、全員で木曽駒を目指す。南アルプスとその向こうの富士の眺めを楽しみながら、八丁坂を乗越浄土まで一気に登れば、後は高山散策。中岳経由で難なく山頂到着。暖かな陽気の中でゆっくり昼食タイム。昨年の同じ時期に登った日光白根の山頂で寒さに震えながらの昼食とはえらい違いであった。

直前の 9 月 27 日に御嶽山の噴火があり、今更ながらの登山の予見できない危険性を実感した。山頂から御嶽山自体は雲がかかって見えなかったが、噴煙が立ち昇っており、遠く八ヶ岳の方に流れていく様子が見られた。お亡くなりになられた方々に合掌。

乗越浄土まで戻り、二手に分かれて一方は宝剣岳、他方は伊那前岳を目指した。宝剣は岩稜をよじ登るところもあるが嘉納さんや鈴木会長らが果敢に挑戦。まだまだ衰えぬチャレンジ精神を示された。伊那前岳グループは散策を十分楽しんだようである。ここで私自身の反省をしなくてはならない。それも二つである。
（一つ目）偵察山行の時、中央高速で覆面パトカーに人生初のスピード違反（32ｋｍオーバー）で捕まる。
（二つ目）本番山行ではポケットに入れた携帯電話を落としたと思い込み、乗越浄土から再度宝剣に引き返し、山頂まで行って探したが見つからず。ザックの奥にしまっていたという間抜けな落ちであった。
ということで、偵察メンバーに罰金をカンパしていただいたり、皆さんをお待たせしてしまったりと会報紙上をお借りして深くお詫びいたします。
下山後はコマクサの湯でさっぱりした後、名物のソースかつ丼を食べた。これがまた美味しかった。何はともあれ、天候に恵まれ、眺めも良く、十分楽しめた山行であった。
次回第 42 回は年明けの 1 月 31 日（土）北高尾でお会いしましょう。

■　第 42 回　北高尾山稜・景信山

ＯＢ山行副委員長　小野恵美子（34 期）

日　程：　2015 年 1 月 31 日（土）
行　先：　北高尾山稜　景信山（727m）
行　程：　高尾 7:55＝八王子城跡バス停 8:05-22→高丸 8:50-55→城山（本丸跡）9:08-22→詰の城 9:47-52→富士見台 10:18-23→小下沢キャンプ場 11:40-12:10→小仏分岐 13:12-15→景信山 13:37-55→小仏峠 14:20-25→小原宿バス停 15:35-16:12＝高尾 16:45
参加者：　嘉納(1)、吉野(2)、郡司(4)、谷上(4)、佐木(8)、早坂夫妻(8)、鈴木(9)、小口(14)、狩野(14)、吉田(14)、牛窪(15)、小泉(15)、萩生田(15)、小浜(17)、渡邉(17)、Ｌ山口(18)、磯尾（19)、西田(20)、武藤(20)、白木夫妻(21)、親跡(34)、小野(34)　　計 24 名

前日は東京でも雪が舞った 1 月末の冬晴れの朝、高尾駅前のバス停に、ご参加の皆さんが長い列を作りました。八王子城跡まで 15 分程バスに乗ると、日陰にはかなり雪が積もっていました。タクシーで追いかけてきた萩生田さんがジーパン姿で颯爽と合流し、24 名で恒例の開会式。牛窪さんと磯尾さんが初参加です。数年ぶり

のご参加の方、役員会や小屋活動でもご活躍の方、皆笑顔で、賑やかに歩き始めました。

八王子城は 1585 年頃に築城された山城で、城主は北条氏照。城のあった山頂に、かつて牛頭天王と 8 人の王子が現れたとの縁から八王子権現が祀られていたため、八王子城と名付けられたとか。現在の市名もこれに由来するのですね。城跡ではありながら日本百名城の一つに数えられており、歴史好き、城好きな方はとても楽しめるコースです。歴史に疎い私も、400 年以上前に同じようにここを歩いただろう人々に思いを馳せました。

本丸跡ではかつての城を想像し、眼下に広がる多摩から都心に続く街並みとの対比に、また感慨も深くなるのでした。新宿のビル街もスカイツリーも筑波山の双耳峰も見えました。それからはアップダウンの連続。途中の富士見台では片側に雲をまとった雄大な富士を眺めて小休止。一旦下りきったところが小下沢登山口で、一面の雪野原の端の丸太に、横一列に並んで昼食をとりました。ここで白木さんご夫妻が下山することに。揃って東京マラソンにエントリーしているとのことで大事をとって。

八王子城跡本丸跡にて

小下沢キャンプ場にて昼食

気合いを入れなおして景信山の登りに取り付きました。茶屋の前にたくさんのテーブルとベンチが並ぶ山頂は、時期によってはかなりの賑わいになるのでしょう。私たちはゆったりと大展望を満喫。眼前に富士山、丹沢、遥かに相模湾、東京湾も輝いていました。

再び気合いを入れて、下山へ。雪が融けてチョコレートフォンデュのようになった山道を、慎重かつ大胆に下っていきました。小仏峠からは、小泉さん、西田さん、武藤さんが高尾方面に下山されました。残るメンバーは小原まで下り、小原宿の資料館と本陣を見学。小原本陣は江戸時代の大名が宿泊した建物とのことで、ここでも歴史に触れることができました。小原バス停から高尾方面のバスに乗り、それぞれの帰路に。

見所が多く、大人の遠足といった趣の充実した一日でした。低山ながらアップダウンの多いロングコースで、かなり歩き甲斐がありました。皆様お疲れ様でした。

小下沢キャンプ場にて

景信山山頂より

■　第 43 回　小野子山

ＯＢ山行委員長　山口貢三（18 期）

日　程：　2015 年 5 月 23 日（土）
行　先：　小野子山（1208m）
行　程：　渋川駅 9:00＝9:35 小野子山登山口Ｐ（下山用車デポ）＝10:00 十二ヶ岳登山口Ｐ 10:05→
12:00 十二ヶ岳（昼食）12:40→13:20 中ノ岳→14:20 小野子山→雨乞山→16:15 小野子山登山口Ｐ
＝車回収＝17:00 小野上温泉駅
歩行距離　7.1ｋｍ　累積登高差　登り 770m下り 910m
（歩行時間 4 時間 10 分）　体★★　技・危★
参加者：　嘉納(1)、吉野(2)（車）、佐木(8)（車）、鈴木(9)、山本(10)、大吉さん一家４人（車）、山川(12)、小口(14)（車）、鵜飼(14)（車）、吉田(14)、萩生田(15)（車）、中島(15)、小浜(17)（車）、白須(17)、Ｌ山口貢(18)、山口幸(18)、岡田(18)、壺井(18)、磯尾(19)、石垣(20)、親跡(34)、小野(34)

小野子三山を巡る山旅には、1 期嘉納さん、鈴木会長他、小中学生のお嬢さん 2 人を含む 25 人もの参加をいただき、また 18 期山口幸子さん、20 期の石垣さんがＯＢ山行初登場となった。

このところＯＢ山行では晴天続きであり、天候不順が続いた時期の中ではあったが今回も晴天が約束され登山日和りとなった。日差しの強い中ではあったが、樹林の新緑に覆われた山道はおだやかに涼しく快適に登り始めることができた。稜線に近づくにつれ急になる道をあえぎながら登り、稜線に出てしばらくすると十二ヶ岳山頂に到着した。ここでは残雪の上越国境、巻機、上州武尊を見ながらの昼食となった。

ここから小野子三山の縦走である。この先の急な男坂を避け、一旦戻り山頂を巻くように女坂を下る。こんなに？というほど下ると次に待ち構えるのが中ノ岳、その山頂に着きやれやれと思うと次の下りもまたこんなに？と下る。最後の急登を登り詰め三山目の小野子山に到着。最後となる展望を楽しみながら一休みとした。

14 時 30 分小野子山を後にして長く急な下りにとりかかる。ここの尾根筋にはつつじが多かったが、ここまで来ると花を楽しむのも忘れ、ひたすら下りに専念していた。下山地にて解散とし、デポした車で渋川駅または小野上温泉へと向かった。今回は登山口、下山地には車が必須の地であったが、マイカーを快く提供していただいた方には誌面を借りて御礼申し上げる。

小野子三山（左から十二ヶ岳、中ノ岳、小野子山）は独立峰

■　第 44 回　鼻曲山

ＯＢ山行副委員長　小浜一好（17 期）

日　程：　2015 年 10 月 17 日（土）
行　先：　鼻曲山（1655m）
行　程：　横川駅 9:30→霧積温泉駐車場 10:15→温泉分岐 10:40-45→休憩 11:15-20→休憩 12:20-30→
鼻曲山 13:40-14:15→休憩 15:38-48→分岐 16:30-32→霧積温泉 16:48-58＝もみじの湯 17:45-19:00
歩行距離　9.7ｋｍ　高低差　700m
参加者：　嘉納(1)、吉野(2)、佐木(8)、鈴木(9)、鵜飼(14)、吉田(14)、中島(15)、萩生田(15)、白須(17)、小浜(17)、渡邉(17)、Ｌ山口(18)、岡田(18)、福田(18)、壺井(18)、磯尾(19)、石井(19)、親跡(34)、小野(34)、佐野(渡邉友人)、入交(佐木姪)　　計 21 名

鼻曲山（はなまがりやま）とは変わった名前で、諸説ありますが、東側から見ると尖った山頂が北側に傾いて，曲った鼻に見えることが由来とのこと。群馬県と長野県の県境にある碓氷峠のすぐ北に位置しており、浅間山の展望が素晴らしい人気の山です。山行には 21 名が参加しました。初めての参加者は 19 期の石井さん、この山行報告も石井さんに協力をお願いしました。また、ゲストは渡邉さんの友人で山と旅好きな晴れ女、佐野さん、佐木さんの姪御でプロのバイオリニスト、入交（いりまじり）さん。このような輪が広がるのもＯＢ山行のいいところです。

小雨交じりの出発

今や信越本線の終着駅となった横川駅に各自、電車や車で 9 時 30 分に全員集合。横川名物「峠の釜めし」はその昔よく食べました。

そして車に分乗しての出発になりました。天気予報では 50%以上の降雨予想で、霧積温泉からの登山開始時には、霧か小雨かの微妙な空模様であり雨覚悟の出発となりました。緩やかな 1 時間の登り、稜線上での 1 時間の平坦な登山道が続きました。この頃には霧が晴れ、青空ものぞき、鮮やかな紅葉真っ盛りの中での山歩きとなりました。

落ち葉を踏みしめて山頂を目指す

やがて、斜面が厳しくなると 1 時間ほどで鼻曲山の頂上に到着しました。眺めが良ければ、前回行った小野子山も望めるはずでしたが、残念ながら、楽しみにしていた近くの浅間山さえ、見えませんでした。でも、我々の到着を歓迎するように晴れ、快適な昼休憩をとることができました。下山では、いつもの和やかなおしゃべりを楽しみながら、休憩を取るのも忘れて（？）2 時間強の連続歩行となりました。今回、天気予報のせいか、たった一組のペアにしか出会わず、我々がほぼ独占した静かな晩秋の山行でした。帰りにはお楽しみの温泉で汗を流し、食事をしながら交流を深めました。

今年のＯＢ山行も今回で〆となります。このところ、常連に加えて少しずつ新規の方が増えてきています。初めての参加でも、すぐ溶け込むことができるのがＯＢ山行の不思議なところです。きっと世代を超えて、YWV という山仲間意識がそうさせるのでしょう。勿論、関係者の方の参加も歓迎です。特に 20 期代以降の方、お誘い合わせの上、参加してみませんか？

■　第 45 回　奥武蔵　日和田山・物見山

ＯＢ山行委員長　山口貢三（18 期）

日　程：　2016 年 1 月 23 日（土）
行　先：　日和田山（305m）、物見山（375m）
行　程：　武蔵横手駅 10:00→五常ノ滝→11:30 北向地蔵→12:05 物見山→13:30 日和田山→14:24 高麗駅
　　歩行距離　9.4ｋｍ　標高差　300m　　（歩行時間 3 時間 25 分）　体★　技・危★
参加者：　吉野(2)、諸角夫妻(5)、佐木(8)、早坂(8)、鈴木(9)、山本(10)、山川(12)、小泉(15)、萩生田(15)、中島(15)、白須(17)、小浜(17)、壺井(18)、渡部(18)、Ｌ山口(18)、磯尾(19)、鳥井(21)（初）、親跡(34)、小野(34)、偵察時参加　榎本(12)、小口(14)　　計 22 名

月曜日の大雪は都内の通勤の足を直撃し、電車などが混乱していました。寒い日が続いたので土曜日になっても雪があることを予測しアイゼン携行をお願いしました。直前の予報では低温注意報がでていましたが雪は夕方から降るということだったため、日中は天気が崩れないと判断し山行を実施しました。登山道と林道が平行している場所が多い里山であることが偵察結果よりわかっていましたので、これも安心材料の一つでした。

集合場所の武蔵横手駅に 20 人のＯＢが集まり、賑やかに出発できました。五常の滝、北向地蔵など名所を巡り、順調に物見山に到着しここで昼食をとりました。

空を見上げるとなんと快晴。陽だまりでお弁当を食べることができました。日差しが暖かく感じられる一方で指先が痛いので気温はかなり低いのでしょう。ここが本日の最高峰(375m）なので全員で記念撮影しさらに先に進みました。

日和田山では、眼下に曼珠沙華で有名な巾着田があり遠くには都心ビル群、スカイツリーも見えました。雪は日蔭にわずか残る程度でしたので、歩行に難渋することもなく天気にも恵まれ皆さんは何やら楽しそうに話しながら歩いていました。

話に夢中になって気が付いたら下山していたようです。

解散のあいさつとして山頂の標高はＯＢ山行史上最低記録でしたが、のんびりと山を歩けて良かったですと私が言うや、ろくに休憩も取らずのんびり山行どころではなかったとのお叱りも受け、後で調べてみると偵察山行より 20 分も早く下山していました。

いやはや皆さん健脚ですね。次回もそこに留意しつつ、また皆さんとＯＢ山行をご一緒したいです。

当初天気が心配されましたが、予想外にも最高の登山日和となりました。しかし、寒さは緩むことなく帰り着く頃には雪が降っていました。雪で落ちたゆず（野生です）を家の風呂に入れ体を暖めました。

（山行費徴収　2 期吉野さん　撮影協力　34 期親跡さん　いつもありがとうございます）

■　第 46 回　万二郎岳・万三郎岳

ＯＢ山行副委員長　小野恵美子（34 期）

日　程：　2016 年 5 月 21 日（土）
行　先：　万二郎岳（1299m）、万三郎岳（1406m）
行　程：　伊東 8:05＝天城高原ゴルフ場 8:45-9:25→四辻 9:48-54→万二郎岳 10:55-11:05→
石楠立 11:58-12:18→万三郎岳 12:58-13:10→休憩 13:51-14:02→休憩 14:46-51→休憩 15:32-40→
四辻 15:50→天城高原ゴルフ場 16:06-20
参加者：　嘉納(1)、吉田(1)、吉野(2)、向井(5)、諸角夫妻(5)、松本(6)、佐木(8)、入交(佐木姪)、
早坂夫妻(8)、鈴木(9)、山本(10)、山川(12)、竹村(13)、小口(14)、吉田(14)、中島(15)、
萩生田(15)、渡邉(17)、白須(17)、Ｌ山口(18)、壺井(18)、植草夫妻(18)、奏くん(植草孫)、
磯尾(19)、伊藤(23)、親跡(34)、小野(34)　　計 30 名

百名山に挙げられる天城山は伊豆半島のほぼ中央にある天城山脈の山々の総称で、今回のＯＢ山行ではそのうちの万二郎岳（1299m）、万三郎岳（1405m・伊豆半島最高峰）を目指しました。演歌「天城越え」の妖艶な雰囲気はまるで無く、なだらかな山容で、5 月の晴天の下、爽やかな山歩きとなりました。参加者は、恒例のドタキャンありドタ参あり、前泊組もあり遅刻者もあり。総勢 30 名の大盛況でした。初参加は向井さん、竹村さん、伊藤さん、そして特別ゲストの奏（かなで）くん。奏くんは植草ご夫妻のお孫さんで小学 1 年生、ＯＢ山行参加最年少です。

登山口の駐車場に、伊東駅からチャーターしていたマイクロバス組とマイカー組が集合。大きな輪になって開会式を行い、9 時半に歩き始めました。ブナやシャラの豊かな森の中をゆっくりと登っていきます。あちこちでツツジの花が目を楽しませてくれました。万二郎岳は木々に囲まれてこぢんまりとした山頂。万三郎岳に向かう山道は、楽しみにしていたアマギシャクナゲの群生地。残念ながら花のピークを過ぎていましたが、皆思い思いに写真に収めていました。万三郎岳の手前で昼食。大所帯なので食事も一層賑やかでした。万三郎岳山頂で集合写真を撮り、帰りは涸沢分岐を経て周回コースを進みました。登山口と山頂との標高差は 350m 程ですが、小さなアップダウンが延々と続き、かなり歩きでのある道でした。最年少の奏くん、しっかりとした足取りで歩き通し、見事完歩！行動時間約 7 時間で、元の駐車場にゴールインしました。世代を超えて山歩きを楽しめるのは素敵なことですね。ＯＢ山行の魅力の一つです。いつまでも自然と自然を愛する人間との関わりが平穏に続きますように。小さな背中を見つめて歩きながら、そんなことを思いました。

時間差でマイクロバスとマイカーに分かれ、それぞれ長い家路に就きました。皆様お疲れ様でした。

■　第 47 回　大峰山・吾妻耶山

ＯＢ山行委員長　山口貢三（18 期）

日　程：　2016 年 10 月 22 日（土）晴れ
行　先：　大峰山（1254m）、吾妻耶山（1341m）
行　程：　上毛高原駅 9:20→車→9:35 大峰沼登山口（駐車場）9:50→10:24 大峰沼→11:15 大峰山（昼食）
12:04→13:18 吾妻耶山→15:30 大峰沼登山口
歩行距離　10.2ｋｍ　標高差　462m　　歩行時間 3 時間 25 分　　体★　技・危★
参加者：　嘉納(1)、吉野(2)、諸角夫妻(5)、佐木(8)、鈴木(9)、安藤(11)、榎本(12)、山川(12)、竹村(13)、鵜飼(14)、狩野(14)、吉田(14)、中島(15)、壺井(18)、Ｌ山口貢(18)、西田(20)、石垣(20)、村松(21)、白木夫妻(21)、親跡(34)、小野(34)　　計 23 名
偵察参加者　白須(17)、小浜(17)、堀内(18)、岡田(18)、山口幸(18)、福田(18)

上毛高原駅は登山客が大勢降りてきます。しかしながら駅から最も近い吾妻耶山では出会う人はわずかでした。皆さんは尾瀬に行ったのでしょう。登山口はここから車でわずか 15 分という交通至便な山です。登山口で恒例の挨拶を済ませ最初の目的地、大峰沼に向かいます。この周辺がヒルの多いところですが、さすがにこの季節は気配すら感じられなく（万全のヒル対策も肩透かし）個人的には残念でした。

この先から急登がしばらく続き電波塔の立ち並ぶ大峰山に到着しました。標識がなければ頂上と気づかない平らな山頂で昼食を取りました。そして恒例の記念撮影を済ませ次の山頂を目指しました。一度下り登り返しますが、ここから地形が大きく異なるようでした。

吾妻耶山には露出した大岩がそこらじゅうにごろごろしていて、わずかな紅葉が良いアクセントとなっています。仏岩方面の切り立った岩壁を横目に通る頃には晴れ間も広がり、吾妻耶山頂に到着することができました。谷川岳を中心とした上越国境を一望しつつ、誰もが現役時代の思い出に浸ったことでしょう。

頂上には３つの石の祠があり、真田領であったことを証明する六文銭が彫り込まれていました。麓の信仰を集めた名山なのですね。

名残り惜しく頂上を後にし、下るとすぐにスキー場にでます。ここからはスキー場の中をたどり大峰沼を経て登山口に戻りました。初参加の 21 期村松さんを加え 28 名（偵察組含め）が集うことができました。

期別も幅広く、特に 8 期から 21 期までほぼ途切れずに参加いただいていることは山行委員会として嬉しいことでした。

これをもって今年のＯＢ山行を無事終了することができました。来年もよろしくお願いします。

■　第 48 回　仏果山・経ヶ岳

ＯＢ山行委員長　山口貢三（18 期）

日　程：　2017 年 2 月 4 日（土）快晴
行　先：　仏果山（747m）、経ヶ岳（633m）
行　程：　本厚木駅 8:40＝バス＝9:23 仏果山登山口～11:30 仏果山～14:00 半原越～14:40 経ヶ岳～16:20 半僧坊前バス停＝17:20 本厚木駅
標高差　登り 700m　下り 900m　歩行距離 8.4ｋｍ
体　★☆　技　★　危　★
参加者：　吉野(2)、谷上(4)、諸角夫妻(5)、細田(7)、佐木(8)、早坂夫妻(8)、鈴木(9)、山本(10)、安藤(11)、岩崎(12)、榎本(12)、小口(14)、狩野(14)、吉田(14)、中島(15)、小浜(17)、渡邉(17)、堀内(18)、Ｌ山口(18)、磯尾(19)、石垣(20)、西田(20)、鳥井(21)、池野(27)、楠本(28)、小野(34)、親跡(34)
偵察参加者　白須(17)、壺井(18)　　計　31 名

2 月としては雪もなく暖かい快晴に恵まれ、29 名のＯＢが参加しました。本厚木駅前から路線バスを利用しますが、一般客も多くバス停では我々も含め大変な行列となりました。事前にお願いしたこともあってすぐにバスを増車していただけたのも、大きな街ならではのことでした。

仏果山は低山とはいえ、登りは 600mと思いのほか手ごわい山でしたが、この季節でも大勢の人が頂上で昼食と展望を楽しんでいました。それでも仏果山から先に進む人はなく、この先からは両側が切れ落ちた狭い道を下ります。ここの難所を過ぎたあたりで足を挫かれた方が出て、途中から帰る予定の車で来た谷上さんらと共にエスケープすることになりました。本隊は更に先を進み林道と合流する半原越に到着。

各自所用を済ませここから経ヶ岳の登りに掛かります。これまで長い距離を歩いた足には気の毒なくらい急な階段を一気に登り返して経ヶ岳に着きました。頂上からは長い下りの一本道です。ここから足の速い組、後発の組と分かれての下山となりました。先発組に 30 分遅れて後発組はバスに乗り、どちらも何とか座席が確保できましたので、二組に分かれたことは結果オーライとなりました。

バスにのんびり揺られ本厚木駅に着くや都会のスピードでそれぞれの帰路に就きました。

初参加の細田さん、池野さん、楠本さんの 3 名を加えた 29 名と大勢のＯＢに参加していただきました。また 27 期、28 期の初参加は 20 期代の参加が今後広がってゆくことを期待させるに十分です。

■　第 49 回　入笠山

ＯＢ山行委員　磯尾典男（19 期）

日　程：　2017 年 5 月 27 日（土）晴れ
行　先：　入笠山（1955m）
行　程：　新宿西口 7:00＝双葉ＳＡ 9:35＝沢入登山口 10:30
（この後ゴンドラ組はパノラマリゾート駐車場でバス下車 11:00）
沢入登山口 10:37～11:40 入笠湿原（山彦荘）11:50～12:30 入笠山（昼食）13:15～13:35
仏平峠～14:15 山彦荘前 14:20～14:40 ゴンドラ山頂駅＝パノラマリゾート 15:20＝ふれあいセンター（入浴）16:10＝双葉ＳＡ＝新宿駅 19:15
標高差　500m　　歩行時間実績　3 時間 3 分　　体　★☆　　技　★　　危　★
参加者：　嘉納(1)、三階(嘉納友人)、吉田(1)、吉野(2)、吉村(3)、郡司(4)、諸角夫妻(5)、高須(5)夫人、佐木(8)＆姪、鈴木(9)、山本(10)、安藤(11)、安藤夫人、岩崎(12)、山川(12)、榎本(12)、竹村(13)、小口(14)、吉田(14)、中島(15)、小浜(17)、白須(17)、壺井(18)、Ｌ山口貢(18)、植草夫妻(18)＆孫、岡田(18)、山口幸(18)、磯尾(19)、石垣(20)、青山(20)＆愛犬メロー、西田(20)、白木(21)、白木夫人、池野(27)、親跡(34)、小野(34)　　計　40 名＋わんちゃん

朝 7 時、新宿駅西口から 37 名を乗せたバスが予定通り出発しましたが、途中事故渋滞につかまり予定より 1 時間遅れて、現地に到着しました。現地ではマイカー参加の方々を含め総勢 40 名＋わんちゃんの大部隊となりました。今回は 1 期嘉納さんの同窓三階さん、5 期高須さん、11 期安藤さんの奥様、20 期青山さんとその愛犬が初参加でした。また、前回の山行で足を痛め当分欠場かと思われた小口さんも元気に参加されました。

出発はゴンドラと沢入登山口からの二手に分かれて、山彦山荘前で集結した後に恒例の挨拶を済ませ、山頂に向かいました。この時期でも桜の花が残る登山道を登り詰めれば、そこは広い頂上で 360 度の大展望と青空が待っていました。雪を頂く槍穂、乗鞍、御岳、中央アルプス、甲斐駒、仙丈そして真正面には八ヶ岳の全貌が望めました。来られなかったＯＢの皆様にも、是非、お届けしたいとても素晴らしい眺望でした。

到着が遅れたため、大阿原湿原は今回カットしましたが、下山途上、山彦山荘前で、諏訪アルプホルンクラブの演奏を聴くことができました。50 周年記念行事で演奏していただいた池原さんの玉川アルプホルンクラブで、ご一緒だった方も演奏されていたそうです。

ひと風呂浴びた後の帰りのバスはほぼ予定通り 19 時に新宿に到着しました。40 名のＯＢ山行は初体験で、行き届かない点もあったと思いますが、皆様のご協力により無事完遂でき感謝しています。

■　第 50 回　幕山

ＯＢ山行委員長　山口貢三（18 期）

日　程：　2017 年 9 月 23 日（土）
行　先：　幕山（626m）湯河原
行　程：　先発組（1 期～12 期、29 期～46 期、リーダー山口　22 名）
湯河原駅 9:00＝バス＝9:15 幕山登山口 9:30～10:55 幕山 11:30～12:23 南郷山～13:55 五郎神社（鍛冶屋バス停）
後発組（14 期～25 期、リーダー磯尾、小野　22 名）
湯河原駅 10:00＝バス＝10:15 幕山登山口 10:35～11:50 幕山 12:30～13:20 南郷山～14:55 五郎神社（鍛冶屋バス停）
参加者：　吉田(1)、吉野(2)、谷上(4)、向井(5)、諸角夫妻(6)、松本(7)、早坂(8)、佐木(8)、鈴木(9)、※上原夫妻(9)、三浦(9)、安藤(11)、丹羽(11)、榎本(12)、※左藤(12)、岩崎(12)、小口(14)、上野(14)、※岩船夫妻(15，16)、中島(15)、※大場(16)、※清水(16)、白須(17)、植草夫妻(18)、向井(18)、渡部(18)、Ｌ山口(18)、Ｌ磯尾(19)、笛木(19)、※小松(19)、※林(19)、石井重(19)、石垣(20)、安武(20)、村松(21)、※柏木(25)、※松本(29)、親跡(34)、Ｌ小野(34)、塩野(46)
（※印　初参加）
今回の参加者は 44 人、内初参加者は 11 人。ともにＯＢ山行新記録でした。

朝方の雨も出発する頃には止み、青空がのぞく登山日和となりました。今回は多くの参加申し込みをいただきましたので、二組に分けて 1 時間の時差をもって出発することになりました。

名所の梅林を通り抜けた後、樹林がうまく日差しを遮る中を登ることができ、残暑はさほど感じません。樹林が海の景色を遮るのが難点ですが、ぜいたくは言えないでしょう。真鶴の海が望める広く開けた頂上で昼食をとった後は至福の笑顔で恒例の記念写真を撮りました。この先は南郷山を目指しますが、竹やぶが覆いかぶさる道をひたすら進むとぽっかりと空間があります。ここが南郷山山頂です。といっても「頂上らしくない」と大ブーイング。頂上らしくない小さな広場は膝ほどの草で覆われ座る場所もありませんでした。偵察は今回に限り 3 月に済ませていました。そのときは草もなく格好の休憩ポイントと思っていたのですが、これは大誤算。ここからしばらくは藪道となりましたが、途中ではアケビを採ったり真鶴半島や海を眺めつつ、ワイワイとゴールの五郎神社に向かいました。

■　ＯＢ山行委員の横顔

18 期　山口貢三　（ＯＢ山行委員長）

・出身地　広島県福山市
・出身学部　工学部造船工学科
・趣味　始めたばかりのゴルフ　・好きな山　南アルプス
・山で好きなもの　カップヌードル、下山直後のビールとカツ丼
・山で嫌いなもの　ヘビ（まむし草も嫌いです）
・ＯＢ山行への信念　安全に楽しく

貢三さんは 2008 年、小野前ＯＢ山行委員長を補佐する副委員長に筆者とともに就任した後、2011 年小野さんの後任として委員長に就任した。現役時代、同期に山口がもう一人いたため、名前で呼ばれていたのが今に至っている。小野さんが委員長を降りた際、ＯＢ山行への集客力の低下を密かに懸念したが、小野さんが副委員長として残ってくれたので、貢三さんの隙のない山行計画と小野さんの集客力でＯＢ山行は着々と実績を重ね、2017 年 9 月にめでたく 50 回目の記念を迎えた。新たに、磯尾さんもＯＢ山行委員に加わり機動性が増している。貢三さんは私より 1 期下であり、現役時代も北海道や南アルプスなど一緒に登っていたが、ＯＢ山行委員になってからは、ＯＢ山行で偵察を含めて年 6 回、それと私的に北アルプス縦走など結構な頻度で同行している。私にとって一番気のおけない山仲間になった。

現役時代の印象は静かで控え目な感じだったが、社会に出てからは美人の奥さんを迎え、会社でもプライベートでも充実しているようでご同慶の至りである。特に山については期の前後を含めて質量ともにトップレベルの実績と言っていいであろう。何せ、地方出張に行く度に山の道具を別便で送り、隙を見て登っていたそうである。ちなみに 100 名山はあと 4 から 5 座を残すのみだそうだ。

そういう貢三さんにとって、ＯＢ山行委員長は天職ともいえるほどピッタリはまった、と思う。山への知識・経験や情熱、ＯＢ会活動への思い入れ、山行計画策定の緻密さや参加者への配慮、現役から変わらぬ温厚で真面目な人柄、どれをとっても皆が共感する部分であろう。癪ではあるが欠点を探してもどうも見当たらない。

最近、以前の貢三さんのイメージには似つかわしくない（？）ゴルフを始めたようであるが、山への情熱は今後も変わることがないと思う。近い将来、ご夫婦共々の故郷である広島県福山市に居を移す予定で当地の山岳会への入会を検討しているようだが、YWVＯＢ会の活動も継続して欲しいものである。ご本人もこれまでと同様に携わると表明していることを付け加えておく。　　＜小浜一好（17 期）記＞

---

17 期　小浜一好　（ＯＢ山行副委員長）

・出身地　神奈川県横浜市
・出身学部　工学部電気工学科
・趣味　下手の横好きのジャズボーカル
・好きな山　ヒマラヤトレッキングで見た初日の出、北アルプス
・山で好きなもの　仲間との語らい、お菓子のやり取り、高山植物
　　下山後の達成感
・山で嫌いなもの　やっぱり悪天候、刺す虫
・ＯＢ山行への信念　まずは安全、そして楽しく（楽しさの 3 要素　魅力ある山・
　　気の合う同行者・眺望を楽しめる天候）

小浜さんがＯＢ会に参加していなければ、今でもＯＢ山行委員会は小野さんひとりだったかもしれません。YWV 創立 50 周年を契機に、鈴木会長から「ＯＢ会の委員はどうですか」と後に引けない状況があって、どうしたものかと思っていた時に小浜さんから「山行委員に一緒に入ろう」と肩を叩かれたのでした。こうして山行委員会はたった 1 人から 3 人となりました。

小浜さんといえば、生まれてこのかた旅行、出張を除けば横浜から出たことのない純粋無垢なハマッコです。

いろんなことができる環境のなかで YWV にはまった理由はどこにあるのか。山も好きだけど、つまるところ人が好きなのだと思います。話をする内に、いろいろな付き合いを大切にしていることが伺え、特に男女の区別なく気さくにお付き合いができる人だと感じています。そんなわけで、初代委員長を支えたいと思ったのかもしれません。小浜さんの気さくな人間力をこれからも存分に発揮してください。　　＜山口貢三（18 期）記＞

---

34 期　小野恵美子　（ＯＢ山行副委員長）

・出身地　東京都町田市
・出身学部　経済学部経済法学科
・趣味　映画、パズル、旅行
・好きな山　選べません！
・山で好きなもの　山の空気、土の上を歩く感触、同行者と笑い合うこと
・山で嫌いなもの　カエル（過去に遭遇したこと 4 回）、下山後の筋肉痛
・ＯＢ山行への信念　みんなが楽しく

小野恵美子さんは、同期の田村総務委員長に誘われ、2000 年 10 月の第 1 回北横岳からＯＢ山行に参加しました。そして 2001 年 8 月第 3 回篭ノ登山からリーダーになりました。30 歳の頃です。まさに衝撃のデビューでした。その年の 11 月総会で総務委員ＯＢ山行担当となり晴れてＯＢ会役員会の一員となりました。

2002 年 11 月のＯＢ総会でＯＢ山行委員会が新設され、小野さんは初代委員長に就任しました。ＯＢ山行委員会といっても委員長 1 人です。2008 年 11 月総会で副委員長が 2 名誕生しましたが、それまでの 7 年間、たった 1 人でＯＢ山行を運営してきたのです。そして 2011 年に山口委員長に代わるまでの 10 年間、実に 30 回リーダーを続けました。

小野さんは委員長といっても、女丈夫ではありません。いかつい山女でもありません。見た目どおりの可憐でやさしい女性です。どうしてこんな少女のような女性が、ＯＢ山行委員長などというハードな役が勤められたのでしょうか。

実は小野さんの前半生は根性物語なんです。出身は経済学部経済法学科で、ごく普通に就職したのですが飽き足らず、介護士学校を経て介護士に、さらに看護師学校を経て看護師になり現在に至っているのです。ＯＢ山行委員長リーダーとして活躍したのが丁度この期間とダブります。このように内に秘めた根性は相当なものと思われます。まさにスーパーウーマンです。

一方素顔は、ビートルズやポールマッカートニーに熱狂したり、毎週のように映画を見に行ったり、数独が得意だったり、海外旅行はアジアのオーソリティーとか、普通の若い女性と同じような趣味を持ち、ずーっと青春を謳歌しているように見受けられます。

ＯＢ山行に全回参加しているのは小野さんだけです。これからも青春を謳歌しながら、いつまでもＯＢ山行をけん引していってください。　　＜吉野大次郎（2 期）記＞

---

19 期　磯尾典男　（ＯＢ山行委員）

・出身地　神奈川県鎌倉市
・出身学部　工学部材料科学科、電気化学専攻
・趣味　サッカー＆フットサル、ランニング（フルマラソン目標：サブ４）
・好きな山　富士山
・山で好きなもの　山スキー、高山植物、下山後のビールと野菜炒め
・山で嫌いなもの　雷、ヒル、蚊、蜂、蛇、熊
・ＯＢ山行への信念　　安全に無理をせず、歩ける限り登る（目標：８０歳）

2 年前彼は突然現れました。彼が入った大手製鉄会社の赴任先がこれまでずっと西日本だったため、それは卒業以来 37 年ぶりの再会でした。ですからＯＢ会はもとより同期会にも顔を出すのは難しかったと思います。最近になってめでたく転勤となり故郷に戻ったばか

りなのです。これまでのご無沙汰を晴らすかのようにＯＢ山行も熱心に参加しています。そして、ＯＢ山行委員会に快く加わってくれました。

現役時代は 19 期主将を務め、人一倍熱い気持ちを持って山に登っていた印象を強く持っています。まさにＯＢ山行委員会待望の逸材です。西日本は山岳地帯が少なく登山する環境が不足しており、山からは遠ざかったようですが、この日のためにサッカー、マラソン等で鍛えた体形は現役の時のままです。この前の山では走っていましたので体力も現役のままです。だからといって頑張らなくてもいいですよ。張り切ってガンガン歩くと後続の先輩諸氏から大ブーイングがおきますから。そこはほどほどに抑えて頑張りましょう。

＜山口貢三（18 期）記＞

■　お世話になった方々の横顔

ＯＢ山行委員ではありませんが、ＯＢ山行への貢献が多大であったお二人の横顔を、34 期小野恵美子さんから紹介していただきます。

2 期　吉野大次郎

吉野さんが、今や 190 回を超えるシニアＯＢ山行を 1999 年に立ち上げたことは、シニア会員の皆様はよくご存知のことと思います。その後 2000 年に第 1 回ＯＢ山行が開催され、3 回目から私がＯＢ山行担当を命じられたのは、当時の小さな役員会の中で苦しまぎれの人事でした。企画力も行動力もない私を全面的にサポートしてくださったのが、吉野さんその人です。大手企業をリタイアされていた吉野さんと不定期休の私とで平日に都合を合わせて、毎回山行の下見に行きました。吉野さんが車を出してくださり、私はお嬢様待遇です。ご自身はＯＢ山行委員の肩書も責任も無いのに、2009 年度に山口さんと小浜さんがＯＢ山行副委員長に就任されるまで、続けてくださいました。吉野さんは、私の人生の中で最も多くご一緒に山に登った人なのです。

吉野さんは山の達人です。会社員時代から週末や出張を利用して（？）百名山を踏破されたとのこと。有名な山もそうでない山も相当に歩かれていて、またそれを詳細に記憶されています。ＯＢ山行委員会で山行計画を立てる際、「〇〇山はどうかなぁ」と言えば、吉野さんが「〇〇山はアプローチは△△でコースは××でたいへん結構ですよ」と即座に教えてくださるのです。

山だけではなく、ゴルフ、カラオケ、サッカー観戦（川崎フロンターレの熱烈なサポーターでいらっしゃいます）、市民講座の受講、地域役員のお仕事・・・と吉野さんのご趣味、ご活動は多岐にわたります。そのフットワークの軽さは私の憧れ、目標であります。

お話上手な吉野さんは皮肉屋さんでもあり、山でも会議でも、よくＯＢ会員の悪口や皮肉が飛び出します。でも、誰よりも面倒見が良くて、弱い人や困っている人を放っておけない性格でいらっしゃることは、その場の皆が知るところです。ＯＢ山行では、一番の憎まれ役（？）である会費の徴収を買って出てくださるし、いつも殿を歩いて、疲れた人を気遣ってくださいます。ワンゲル愛に溢れた方なのです。

山口委員長に代替わりして 30 名、40 名の参加者を迎えるようになったＯＢ山行ですが、そこまで引き継げたのは吉野さんのお力がなくてはできませんでした。この場を借りて心から御礼申し上げます。そしてこれからもよろしくお願いいたします。私の最多ご一緒山行記録を更新させてください。

＜小野恵美子（34 期）記＞

第 1 回北横岳の写真から

34 期　田村顕洋

少数の有志の方々がＯＢ会活動を盛り上げていこうと集まったのが 1999 年頃と聞いています。人数が少ないから皆さんが複数の委員を兼務していました。田村くん（同期なので田村くんと書かせてもらいます）は、当時まだ卒業して 4~5 年の頃ですが、総務委員長に就き、編集委員も山行担当もこなしていたのです。2000 年 8 月発行のＯＢ会報で、田村くんが「ＯＢ同士の繋がりを実感できる」場としてＯＢ山行の開催を宣言しています。私はその山行に参加し、何かお手伝いしましょうかと申し出たところ、ＯＢ山行委員長を命じられた次第です。その後、田村くんは仕事が忙しくなり、ＯＢ役員の任務からは離れてしまうのですが、現在のＯＢ役員会の活動を考えても、当時あの少人数で切り盛りしていたのは本当に凄いことだったなあと感嘆するのです。

田村くんはワンゲル現役時代には副将を務め、今は国土交通省のお役人。同期の出世頭です。国民の公僕（！）として文字通り世界中を飛び回っています。先日 3 年間のロンドン勤務を終えて帰国され、同期会では久しぶりに元気な顔を見せてくれました。プライベートでは 2 児の父でもありますが、大学卒業後も日本のアルプスを縦走したり南米アコンカグアにアタックしたりと、山男ぶりも発揮しています。公私ともに益々の活躍を祈念しつつ、是非またＯＢ会活動にも戻ってきてくださいね。　　＜小野恵美子（34 期）記＞

■　ＯＢ山行カメラマンの思い出

ＯＢ山行には欠かせない「カメラマン」のお二人に思い出を語っていただきました。

谷上俊三（4 期）

第 8 回乾徳山（H15. 9. 6）から始まって 10 年近く第 36 回筑波山（H25. 1. 19. ）まで写真係としてお世話になりましたが、その後ＯＢ山行から遠ざかり、親跡様に写真係の役を引き継いでいただきました。今思い起こすと懐かしいＯＢ山行が走馬灯のように蘇えってきます。誰でしたか「雨女」の悪名を返上することが出来た乾徳山、雨で中止するかと思ったら5人も集まり、誰も止めると云わないので冷たい雨の中強行した第16回檜洞丸、長い悪路を車で走らされ登った第 25 回皇海山等々、今では楽しい思い出です。第 30 回の箱根では、写真係の労をねぎらっていただき記念品までいただいて感激しました。

写真係の苦労というかエピソードとして忘れられないのは、第 27 回伊豆ヶ岳の山頂で集合写真撮影後、カメラ・三脚をしまっている間に皆さんさっさと下山していまい、私一人取り残され、下山ルートがわからず途方にくれたことです。今では笑い話ですがこの時はつくづく写真係の悲哀を味わいました。

最近は参加者が大勢になり世代も広がってきて良いですね。これからも出来るだけＯＢ山行には参加させていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

第 16 回・檜洞丸（H18. 5. 13. ）

第 36 回・筑波山（H25. 1. 19. ）

親跡冬樹（34 期）

ここ数年、ＯＢ山行にご一緒させていただくようになりました。写真を撮るのが好きなので、始終撮影していますが、ＯＢ山行で撮らせていただくことで私の作風（というのも大袈裟ですが）が変化してきたように思います。

写真は大学生の頃から撮ってきましたが、その時分は北アや南アといった「派手な」山域を踏破し、眼前に広がる荒涼とした風景に魅せられて、それらを写真に収めるのに夢中になっていました。当時の写真を見ると、同行する仲間のワンゲル部員、「人」にはあまり興味を持っていなかったのだなということが伺えます。

それから四半世紀を経て、ＯＢ山行で登るのは首都圏近郊の、どちらかというと低い山となり、展望や景色はどちらかというと派手ではないところに登っています。

何を撮ろうか？私は「人」を撮るようになりました。それも、こちらのレンズを意識している写真ではなく、レンズを向けられているのを意識していないところでくつろいだり、談笑したりしているのを撮るのが面白い、と感じるようになりました。

撮り方も大きく変化しています。かつては 24 枚から 36 枚撮りのフィルム数本で撮っていたのが、今ではデジタルで、1 回の山行で 300 枚ぐらいを撮るのが普通になりました。その中でほんの 2、3 枚「使える」というのがあれば良い方で、まだまだ勉強が必要だな、と感じさせられます。

■　編集後記

編集委員長　石垣秀敏（20 期）

月日は百代の過客にして、行かふ年も又旅人也。舟の上に生涯をうかべ、馬の口とらえて老をむかふる物は、日々旅にして、旅を栖とす。古人も多く旅に死せるあり。予もいづれの年よりか、片雲の風に誘はれて、漂泊の思ひやまず、海浜にさすらへ、昨年の・・・

あの有名な奥の細道の序文です。この文を読むと、芭蕉のように風に誘われて“ふ～っと”（芭蕉は山に行ったのではありませんが）山に行きたくなりますよネ。この自然との触れ合いは我々の活動に通じるところがあり、更に「漂泊」はまさにワンダリングではありませんか。さあ、皆さん、「片雲の風に誘われて」ワンダリングに出かけましょう。この山行集がその助けになれば幸いです。

勿論、この山行集の使い方は自由です。過去のＯＢ山行の思い出にふける思い出集として、新たな山行計画の参考にする山行ガイドブックとして、写真から仲間の若かりし顔を探す、逆に長年会っていない仲間の最近の顔を探すための写真集として使ってみて下さい。また、ＯＢ山行委員会の生い立ちを知ったり、小野さんの長年の苦労に感謝してみるのは如何でしょうか。色々な使い方を考えてみてください。本棚に綺麗にしまってあるよりは、何回も見て・読んで・使ってもらい、この山行集がクシャクシャになっていることの方が編者の望みです。

今回は初の試みとしてＯＢ山行委員会と編集委員会が共同編集をして山行集を作成しました。ふとした思いつきからこの山行集の編集責任者になりましたが、編集作業をすればするほどＯＢ山行の奥の深さ、素晴らしさを肌で感じることができました。ＯＢ山行の運営にご尽力された皆様に心から感謝いたします。ありがとうございました。

今後もＯＢ会の活動が永く続き、ＯＢ山行の回数も重ねてゆき、記念山行集が何回も作られることを祈念して編集後記とさせていただきます。

ＯＢ山行集 2017　片雲の風に誘われて

発　　行：　横浜国立大学ワンダーフォーゲル部ＯＢ会
発　行　日：　2017 年 12 月 17 日
発行責任者：　会　　長　　西田雅典(20)
編集責任者：　編集委員長　　石垣秀敏(20)
編　　集：　【ＯＢ山行委員会・編集委員会　共同編集】
会計幹事　　吉野大次郎(2)
ＯＢ山行委員長　　山口貢三(18)
ＯＢ山行副委員長　小浜一好(17)、小野恵美子(34)
ＯＢ山行委員　　磯尾典男(19)
編集副委員長　　武藤功二(20)
編集委員　　成島和仁(22)、楠本なぎさ(28)
印　刷　所：　株式会社プリントパック　京都府向日市森本町野田 3-1